資 料 1

令和2年度
(2020)

事 業 報 告 書

社会福祉法人
神港園

令和2年度　事業報告書

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

目　　次

令和2年度 事業報告

Ⅰ総括事業報告 …… 1 ～ 4

Ⅱ事業報告

[1] 法人本部 …… 5 ～ 15

[2] 養護老人ホーム神港園 …… 16 ～ 20

[3] 神港園シルビアホーム …… 21 ～ 28

[4] 神港園しあわせの家 …… 29 ～ 34

[5] 神港園サニーライフ白川 …… 35 ～ 41

[6] さん舞子神港園 …… 42 ～ 51

[7] さん舞子神港園いこいの家 …… 52 ～ 55
（サン舞子マンション 含む）

[8] 神港園レインボー西宮 …… 56 ～ 60

[9] 神港園レインボー酒蔵通 …… 61 ～ 63

[10] 神港園診療所 …… 64 ～ 66

[11] しあわせの村保育園 …… 67 ～ 70

令和2年度 事業報告　資料集

資料①　施設入居関係 …… 71 ～ 75

資料②　ショートステイ関係 …… 76

資料③　デイサービス関係 …… 77

資料④　ホームヘルプ関係 …… 78

資料⑤　居宅介護支援事業所関係 …… 79

資料⑥　あんしんすこやかセンター関係 …… 80

資料⑦　事故関係 …… 81 ～ 82

資料⑧　医療・保健関係 …… 83 ～ 84

資料⑨　栄養関係 …… 85

資料⑩　法人職員配置一覧 …… 86 ～ 87

資料⑪　職員採用・離職状況 …… 88 ～ 91

理事会・評議員会開催状況 …… 92 ～ 95

令和２年度　社会福祉法人　神港園

理事長　髙谷　雅子

Ⅰ.総括事業報告

令和 2 年度は、事実上全く想定のなかった新型コロナウイルス感染症の全国的な流行のなか幕を開けた。いわゆる第 1 波を背景とした、4 月から 5 月に掛けての 1 回目の緊急事態宣言（兵庫県）をはじめ、3 密（密閉・密集・密接）の回避や人同士の近接機会の抑制、不要不急とされる多くの社会活動等の自粛が求められる中での法人経営、事業運営を余儀なくされた。

多くの事業体やともすれば産業までが不要不急とされ、一部には存亡の危機までもが訪れる中、福祉介護事業は「最大限の感染対策を行ったうえで、開業やサービス提供を継続する」ことが国の大方針として要請され、必須の生活基盤である事業体の安堵と有難さを心底から感じるとともに、感染防護を徹底して命を守り、生活を支える社会的責任を改めて痛感することとなった。

不顕現感染者でも感染源となる新型コロナウイルス感染症から、高齢者を護る使命を果たし続けることは容易ではない。本当にどの施設で発生しても不思議はないが、事実様々な介護事業者でのクラスター（感染者集団）発生が報道される中、神港園レインボー西宮拠点で 8 月、入居者と職員合計 11 名が感染する被害に及び、入居者 3 名が入院先でご逝去されるという、関係者全員にとって非常に沈痛な事態が生じた。

終息宣言発出までの 1 カ月弱は、まさしく緊急事態と言え、感染隔離区画内の入居者や職員に新規感染者が出る中、最前線で勤務シフトを担う職員とこれを補佐する職員、他拠点からの人的物的支援によって、関係行政機関等の指導協力を助けに、西宮拠点と全法人の総力を挙げて対応し、更なる感染拡大は抑え込むことができた。

この後、より危険性の高い英国型変異株が市中に広がったが、心当たりのない経路で感染している危険が常にあることを周知した上で、可能な限り自らが感染しない行動を全職員が徹底し、また入館制限等によってウイルスを事業所内に「持ち込まない、広げない」ことに全力を尽くすことで、幸いにも入居者・職員に新規感染者を見ることは回避することができた。

ただし年度を通じて、大小の会議や研修から行事等までのあらゆる取組みに関し、中止や延期、感染症対策徹底のもと縮小するなどの苦渋の検討がなされ、全ての法人関係者の日常に対して極めて深刻な影響が及んだ。

また、世界的な感染流行を背景に、年余に亘る準備を経て今年度に着任を予定していた 20 名弱の外国人介護人材の招致には、出入国そのものができないことでの先の読めない大幅な遅滞が起こった。秋以降令和 3 年初頭には、ベトナム・モンゴル・ミャンマーからの技能実習生等の入国が進んだが、並行した第 3 波の直撃と別途ミャンマーにおける軍事政権のクーデターによる混乱で、全く見通しのつかない特定技能実習予定者 3 名もあり、ここでも極めて深刻な影響が続いている。

さて、令和 3 年 1 月 14 日に発出された第 2 回目の兵庫県緊急事態宣言の中、創立記念日 1 月 23 日に、神港園は誠に晴れがましい創立 70 周年を迎えた。

異例の感染症対策が続く中、人が集まる記念行事の開催は如何ともしようがなく見送ったが、記念誌や記念品の配布、その後の倫理綱領・行動規範の策定等、内部関係者はもとより外部からも多数の嬉しい祝意を頂き、広く役職員の士気高揚に繋がった。次代を見据えた、令和 3 年度期首の医療事業部新設や、人財確保に資する「けあスクール神港園」の再開計画等、先が楽しみな施策を推し進め、平常化への架け橋と言えるワクチン接種と同様、将来に希望を感じさせる取組みを組織の総合力発揮により一丸となって実現していく。

2.重点報告

①入居者・利用者の自立支援と尊厳を守り、地域包括ケアに資する一層の福祉的貢献

新型コロナウイルスの流行は、法人のあらゆる事業の活動を萎縮させ、様々な取組みに制約をもたらした。非常に多くの時間が感染症対策に費やされ、多くの重要な計画の優先度は低下し、置き去られる形となった。

これは利用者の側も同様で、本来は生活の質や身体機能の維持の上で中長期的に大切なサービス利用が、人同士の接近接触を避けるために最少化されることとなり、長期化に際し、自立や尊厳と逆行する不幸な虚弱化が増加した。「ウィズコロナ」の標語とともに、徐々に生活との兼ね合いを模索し、安全で楽しい時間を工夫したが、感染防護を重視するあまりバランスを欠いた自省を感じる面も否めない。

先行接種国での成果が報告され、効果の高さが報告されているワクチン接種は、人同士の係わりこそが何よりも重要な福祉現場の平常を、少しでも多く地域に取り戻すための希望

である。気兼ねなくふれ合える待望の未来に向け、正しく恐れる対策で、尊厳を取り戻していく。

②体制の維持向上と合理化および魅力ある組織作り

体制の維持、という点でいえば、部署による個別事情の違いはあれど、複数の要素が奏功した結果、多くの拠点で比較的良好な人材確保が叶い、全体の情勢として望ましい傾向にある。

一番は、過去の反省から学んだ離職防止施策を丁寧確実に実行したこと、更には、総力を挙げた新型コロナウイルス感染症関連対応が働き手に手厚く、また徹底した予防行動を職員全体が意識共有したことで、他所と比較した職場の安心感が高まったことが考えられる。背景には、転職リスクが積極的に許容されないコロナ禍の社会環境もあるが、期首計画の教育研修強化等による魅力ある組織作りの推進が困難な情勢だった一方で、職員との信頼構築には手応えも感じた年度であった。

複雑な状況変化がある中で、職員が安心感とやりがいを持って働ける職場であるためには、必要施策を速度感をもって実施すると同時に、様々な手段による納得感のある情報共有に特に配慮することが極めて重要と思われる。引き続き注力していく。

③経営基盤の強化、法人総合力の向上と「神港園スタンダード」の推進

経営基盤強化のため、所管の本部財務部による毎月の各拠点往訪と現状のヒアリングを開始した。また、次年度に掛けて、経営数値の実績に基づく月次分析と、予算及び年間の実績見通し管理の精度向上、事務の省力標準化、決算処理の合理化等を、総務部に8 月から設置した ICT 推進室主導による会計システムの活用強化をテコに推進した。

法人総合力を高めるためには、各拠点が事業に集中できる環境を整えるべく、法人方針の具体化と様々な拠点支援・職員支援を本部が中心となって実施し、各機能が有機的な相乗効果を生む組織作りが期待される。また、ウィズコロナ社会でも、アフターコロナ社会でも、ICT の有効活用は、いっそう経営の中心課題となる。ソーシャルネットワークを利用した情報戦略強化等、計画通り進捗していないところの巻き返しも含め、強化を進めたい。

④既存改善事業ならびに新規事業

令和元年度の併合により、新たに法人の一員となった西宮拠点は、1 年間の法人内 2 制度運用を経て、令和 2 年度から統一法人制度の本格適用となった。制度ごとに固有の概念がある中、組織変更や制度移行に必然の混乱を抑制し一体感を醸成する上で、人の交流を阻む新型感染症は支障であったが、本部と西宮拠点幹部職員が連携し、ICT

等も活用した様々な方法で進めているところである。

その西宮拠点で 4 月開業で準備を進めていた介護保険外の新規健康増進事業 「神港園スマイル倶楽部酒蔵通」は、コロナ情勢を受けて開業を断念した。コロナ禍は社会を一変させ、当然ながら単純に従来の延長に新規事業の構想はできない。ワクチン接種や治療薬の開発がもたらすアフターコロナ社会を改めて想像し、望まれる事業の新設を考える必要がある。その意味では、診療所等の医療系事業を所管する「医療事業部」を令和 3 年度 4 月に新設する準備を整えた。今後はこの新組織と法人本部が連携し、医療分野の機能強化と事業拡張の実現を企画していく。

《運営目標》 信頼と実行

【1】法人本部

本部長　髙谷　明

1.事業報告

令和２年２月頃から広がり始めた新型コロナウイルス感染症の国内流行は、社会全体に凄まじい影響を及ぼし、ウィズコロナの苦難の年度が始まった。数々の対策を講じるために法人全体に及んだ負荷は膨大で、相対優先順位を下げた各種取組みは遅滞を余儀なくされた。

法人本部としては、感染流行を背景とした臨時の労務管理ルールの策定を推進し、適切に運用する必要に迫られた。対象者は、行動歴からウイルスへの接近が疑われる自宅待機者や原因未特定の熱発者から、職場経路認定で労働災害対象の陽性入院者まで多岐に渡り、法人独自の対応として、規則に上乗せした休業手当支給や災害時適用の特別休暇認定、感染隔離部署で介助を行う職員等を対象にした、感染防護手当相当の臨時の功労金支給等を行うこととなった。

このような、突発的で影響が甚大な環境変化への対応の中、非介護職員への新規の賞与加算（上乗せ支給）は、必須の優先課題として実行した。背景には、前年度 10 月施行の特定処遇改善加算の受給開始があり、法人の考えに基づく職種間待遇の格差緩和は、時期を違えられない施策であった。

法令で強化を求められたハラスメント対策に関しても、外部窓口設置等の枠組み構築を始めた。記名式でキャリアパス等を申告する定例の職員意識調査に加え、ハラスメント項目を含む無記名 Web アンケートを開始した。職場環境向上への活用が期待される。

様々な有効施策を具現化するため、各拠点長等の法人幹部職員が参加する会議体の再構築を進めつつ、Web 環境や社内情報管理アプリ「サイボウズ」等を活用した協議の深化に努めたが、所謂 Zoom 等を用いた会議に慣れるには相当な期間を要した。

また、本部内においても、部門間連携の向上を図るために会議体の再構築等を行った。

当初の重点計画として、生産性向上を視野に本部による法人内牽引を目指した各種施策、先進デジタル技術の導入、少負担介護オペレーションの工夫と導入、階層別等人材育成強化、事務全般の省力化標準化の促進等は、待ったなしのコロナ対応と、人同士の接近機会を極力減じる環境での推進が難しく遅滞が生じた。腰痛予防とケア向上に資するノーリフティングケア導入も、法人内連携に不利な情勢で施設間の進捗に差が生まれている。

本部の組織面では、課題のあった計数管理強化を図るため、財務部へのリーダー配置と増員等の梃入れを行った。また、総務部に小規模ではあるが ICT 推進室を設置し、重要性が増す一方の ICT 全般の管理強化を進めている。

人事部における新規採用は、強みのある中途採用で成果が見られたが、人材紹介会社の隆盛は拍車を掛けており、紹介料高騰の影響を抑えるべく慎重に当たっている。逆に従来から弱い新卒採用では、コロナシフトを上手く進められず、尚更苦戦した。システムとして外国人介護人材を戦力化する仕組み作りが必須で、かつ不足する介護人材の新規開拓窓口として介護資格者養成講習事業「けあスクール神港園」の再開を予定するため、事業部への増員準備を整えた。

コスト部門である本部管理費用の額は、法人規模に見合う範囲を超えられない。一方で、本

部に集中する機能の発揮は、法人経営に極めて重い役割を担う。限られたコストは真摯に吟味されるべきで、様々な先行的費用は、前提として将来の有効な収益増や費用減にしっかりと繋がっている責任がある。

また、人事異動は新たな役割発揮や人財育成、変化による化学反応をもたらすことが期待される。法人組織の一体感、連携強化を高めることもまた、本部の大切な役割である。総合力を発揮して、目標に向かう歩みを進める。

2. 経営報告

（千円）

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	3,919,931	3,829,428	90,503
前年度決算	3,935,143	3,813,195	121,948
前年差	△15,212	16,233	△31,446

情勢と取り組み

8 月に発生したレインボー西宮の新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生は、サービス活動収益への影響は大きく、サービス活動増減差額は前年比大幅にマイナスとなった。

【サービス活動収益】

レインボー西宮のクラスターの影響以外でも、各拠点共通して言えることは、サービスごとの稼働を見るに、入居部門及び、ショートステイ部門は前年並みの稼働を維持しているが、デイサービス・ホームヘルプなどの在宅部門で新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、稼働率が前年比 10%前後減少したのが主たる要因である。

【サービス活動費用】

費用においても新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、感染症予防対策費における備品の在庫積上げによる消耗品、保健衛生費において 10 百万円増加（但し、救済措置として感染対策の掛かり増し費用に対する新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金等で約 40 百万円の臨時支給が実施）。

一方で、外国人介護人材の採用を強化することにより採用に伴う費用及び、入国後の管理費が 8 百万円増加。

また、70 周年の記念行事関連で 6 百万円計上。逆に新型コロナウイルス感染症の予防対策により会議・研修の自粛をすることにより、会議費、車両費が 4 百万円減少となった。

但し、費用における最重要課題といえるのが、処遇向上手当や特別処遇手当の導入により高止まりした人件費である。本件は固定費の上昇だけでなく、給与体系全体に歪みを生じる結果となった。人件費の適正配分を考えるうえで、外国人介護人材の採用を強化していく中での人員配置

基準の抜本的な見直し及び、研修の在り方を含む人事制度自体の見直しも視野に入れる必要が出てきたと判断する。

上記に伴い、サービス活動増減差額において前年比 31 百万円の減少となった。令和 3 年度も新型コロナウイルス感染症の影響は、ワクチン接種の効果が出るまでは厳しい状況が続くものと考えられ、新規入居者や利用者に対する予防対策は最重要課題として取組む必要がある。

同時に、外国人介護人材の戦力化は法人全体として取組むべきことであり、多職種連携等による働き方改革に基づく、人件費に係わる抜本的な改革を実践していく必要がある。

収益力の改善は令和 3 年度の重点項目であり、サービス活動収益の大きな伸びが困難な中、費用対効果の真価を常に再評価する姿勢で不用不急の経費の抑制を徹底していくものとする。

＜本部管理費用の状況（各拠点会計への配賦額含む）＞

◇サービス活動収益： 397 千円（予算執行率 83.1%）

◇サービス活動費用：154,601 千円（予算執行率 92.3%、予算差△12,837 千円、前年差 37,046 千円）

◇サービス活動増減差額：△154,204 千円（予算差 12,756 千円、前年差△37,847 千円）

本部も拠点同様に新型コロナウイルス感染症対策、70 周年記念対応及び外国人介護人材の管理費等の影響が出ており、前年差の大半はこの部分が要因である。予算差的には経費の絞り込みにより削減することができ、当初予定した以上の増減差額を確保することができた。

但し、人的資源に関する費用を中心に本部管理費の拡大傾向は続いており、本部職員の働き方の抜本的な改革も必要と考える。不安定な世情や域内の競合の激化が続く中、本部の担う責任は依然として大きいものと判断する。地域ケアの実践を促進していくと共に、働く職員の満足度をさらに引き上げるために役割発揮に努めていく。

2.財務部

《部門行動指針》

① この 1 年間で部員が異動・新規採用により刷新

まず、神港園としての業務フローの理解をすることが最重要目標と認識し、実際に業務を遂行することで具体的に習得を目指し、同時にそれぞれの担当業務において業務改善・効率化を推進していった。

② チームとしての業務運営

各自が担当業務を理解することに加え、財務部員間の仕事の連携を意識した業務遂行を目指し、チームとして業務のクオリティを上げていった。

また、連携を強化するにつれて拠点との連携がいかに重要かを理解し、本部からの発信の方法を工夫し、本来目指すべきそれぞれの計数の精度向上を図った。

③ 納期を意識した業務遂行

常に仕事には納期があり、意識的に納期を設定することにより、計画的な業務遂行の実現を目

指した。

《部門報告》

① 本部支部一体となった業務運営

財務部長による施設長との月次定例ミーティングの実施を２月度より開始。このことにより、各拠点の運営状況を計数だけでなく、現場実態を共有することにより的確でタイムリーな対応を目指した。

② スマイル倶楽部の事業開業を断念

コロナ禍における本業務の立ち上げは難易度が高いと判断し、開業を断念すると共に機材の移転等撤収業務と収益事業における次に向けた方向性の検討を行った。

③ 事業予算執行力強化のためのフォロー体制を修正

資金収支予算と事業活動予算の連動を注視し、考え方として令和３年度予算自体の執行状況のトレースを強化し、事業活動計算書を拠点の事業運営の収支管理資料として情報の共有化を図る。

④ 保育園の計数管理を担当

保育園の業績管理の精度を引き上げるために、運営を管理している人事部と連携の上、保育園の計数部分を担当し経営政策会議にて報告を行った。

3.総務・IT

《部門行動指針》

① 法人ガバナンス強化へ向けた内部統制プロセスの確立

② 事務業務省力化・合理化を目指した業務見直しや標準化の取り組み

③ ICT を活用した業務省力化の取り組み

《部門報告》

① 内部統制プロセスの確立へ向けた外部コンサルティング業者の導入を決め、次年度以降、内部統制プロセス及びコンプライアンス強化を図る。

② 業務省力化・合理化の一環として、社内経費精算キャシュレスのシステムの導入に向け検討を行った。

③ ICT を活用した業務省力化の取り組みとして、RPA（Robotic process automation）導入へ向けた比較検討を行った。
押印の廃止や契約書等の書面の電子化を図るべく電子サインの調査を行った、次年度以降の導入に向けて取り組んでいく。

4. 人事・労務

《部門行動指針》

① 多様性に富んだ人材確保に向けた採用力強化と採用コストの最適化

② 職員エンゲージメント向上による組織強化、人材育成（次世代幹部、リーダー）に向けた取り組み強化

③ 安定的な労働力確保に向けた、外国人介護職員の採用強化と早期戦力化への育成体制の確立

《部門報告》

① 新卒採用については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により学生との接触への制約、また良好な関係にある福祉専門学校からの実習生受入れを辞退せざるを得ず、成果に繋げる事はできなかった。厳しい環境ではあったが、安定的な採用ルートとなっている専門学校との関係は、最大限の誠意ある対応で良好な関係を継続できている事から新年度の採用に繋げていきたい。

他方、中途採用は法人全体で 100 名と昨年実績より減少したが、令和元年のような人員不足の切迫感は無い。

採用計画、活動は安定的に推移したものの、課題である紹介会社経由での入職比率は、昨年実績より削減（紹介手数料　11%、300 万円）できたが、依然高水準にある事からさらなる削減と安定的な採用体制の構築に向けて効果、効率的な採用手法の拡大に注力したい。

離職防止に向けたフォローアップ面談の前倒し実施、離職リスクが高い期間である入職後 3 ケ月、1 年以内の職員の動向を施設幹部との連携により情報収集し、離職率の低下と採用コストの削減に導いた。引き続き、さらなる離職率の低下、採用コストの削減に人事部一丸となり注力していきたい。

② 数年先を見据えた人事構想の策定に着手し、潜在的な能力を顕在化させるため、積極的に職種転換を推し進めた。

資格取得を奨励する当法人の強みを活かすため、特に将来的に人材不足が想定される相談援助系職種への転換を軸とした人事異動を、今後も積極的に推進していきたい。

次世代を担う職責候補者の育成を目的とした研修体制の確立に向けた取組を開始し、パートナー企業との連携により骨格は固まりつつある。令和 3 年度の下期を目処に選抜した職員を対象にした研修を開始し、人材開発のみならず、法人自前での研修プログラムを確立させるべく、そのノウハウを吸収する。

③ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、計画していた外国人介護人材の入国が遅れ、法人の要員計画に支障を来したが、年度内に予定の約 70%が入国した。日本語能力、受け入れ体制により、育成スピードに乖離が生じ始めている事から、育成カリキュラムの作成、標準化が急務であると判断している。早期に外国人介護人材の戦力化に向けた取組を強化していきたい。

コストパフォーマンスを高めるためにも、監理組合、登録支援機関との関係をさらに強化し、優秀な人材を安定的に獲得できる環境を整えていきたい。

また、将来的に法人として登録支援機関への登録を実現させるべく知見を蓄えていく事とする。

5. 事業

《部門行動指針》

① 職員の育成、成長のため、法人内部研修体制を充実させる

② 介護職の資格取得を推進するための研修受講を推進する

《部門報告》

① 法人内部研修の見直し、再構築はコロナ禍によって集団研修の実施が難しく、新規採用職員研修は拠点ごとに半日の短縮研修として実施した。

② 研修資料の充実や共有の計画は、研修自体がほとんど実施できない状態であり、取り組めていない。

③ 腰痛予防・ケア向上推進のためリハビリ部会と施設介護部会の合同部会を計画したが、部会開催がオンライン主体となり実施できず、先進県への見学も実施できなかった。

　ただし、ノーリフト®協会のベーシック研修については各拠点から２回で計 16 名が受講し、福祉用具の導入やケアの変更の取り組みが始まり、職員と入居者双方の負担軽減や、職員の意識変革が進んでいる。

④ 西宮拠点の支援・介護部会支援についてもコロナ禍による行動制限があり予定通りには進まなかった。

⑤ 来期下期に資格取得研修として新しく介護職員初任者研修を実施すべく、舞子拠点の支援を得ながら準備を進めているところである。

1. 施設部会　介護部門　（部会長：久保副施設長）

部会年間 6 回開催

① 保管書類のデータ管理に向けて、運用ルールと介護記録システム操作手順の検討を行った。印刷やファイリング、保管場所の確保等、多くの手間を要していた日常生活記録の紙媒体での保管から、データ管理を開始できたことにより業務の効率化に繋がった。

② 感染症防止対策を踏まえた介護業務実施について、マスクやフェイスシールド着用等、安全性と業務の行いやすさについて情報共有を行った。

　また、マスク着用での入浴介助についてはアイスノン着用を検討する等、感染症蔓延時における介護職員の服装に関するルールの一時的な変更にも取り組んだ。

2. 施設部会　生活相談員・施設ケアマネジャー部門　（部会長：舩江施設長）

① 介護報酬改定に関する施設対応について、相談員部会は参集して、速やかな加算取得や記録等の施設準備を行い、施設ケアマネジャー部会はサイボウズを活用し早い段階から着手することが出来た。

② 入所フローチャートの作成に取り組み、法人共通と拠点独自の内容についてそれぞれ作成し実施につなげた。【施設相談員】

③ 感染症対応に追われる中、参集での実施が難しい状況で関連内容はサイボウズで共有をした。

例年実施の施設ケアプラン研修は、各拠点で施設ケアマネジャー中心に開催するように努めた。
【施設ケアマネジャー】

3．在宅部会　ショートステイ部門　部会長：吉川財務部長　　幹部：亀岡副施設長

1．開催状況

★介　護　部　門　池田チーフリーダー、山本リーダー、尾崎チーフリーダー、元田リーダー 三堀チーフリーダー、和久リーダー、三木チーフリーダー、田端リーダー		
開催場所	開催月	内　容
サイボウズ会議	5 月	・施設間交換研修について ・情報交換及び共有
サイボウズ会議	8 月	・新型コロナウイルス感染症対応状況 ・誤薬防止について ・近況報告　その他
さん舞子神港園 多目的ホール	11 月 24 日	・自主隔離について ・新型コロナウイルス感染症対応状況 ・近況報告　その他
サイボウズ会議	2 月	・コロナ禍における介護、レクリエーション等の在り方について ・近況報告　その他

★生　活　相　談　員 竹中相談員、林相談員、平尾相談員、根津相談員、福田相談員		
開催場所	開催月	内容
サイボウズ会議	6 月	・情報交換及び共有
サイボウズ会議	9 月	・上期の新規受入れ状況 ・コロナ加算の承諾状況 ・近況報告　その他 ※ロングショートについて（次回、議題として取り上げ）
サイボウズ会議	12 月	・新型コロナウイルス感染症対応状況 ・「アンケート」について ・ロングショートについて ・近況報告　その他
サイボウズ会議	2 月	・介護報酬改定対応について ・家族向け案内更新について

2．活動内容

今期は、コロナ禍においての開催を余儀なくされ、実際に参集しての開催は介護部門の 1 回だけであり、後はサイボウズを活用した書き込みよる開催となった。討議テーマが新型コロナウィルス感染

症に集中した感はあるが、メンバー各自が抱えている切実な問題であり、内容は濃いものであったと判断する。

① 各事業所の課題共有と他拠点の取組に基づく対策検討

介護部門では、「自主隔離」について討議。各施設の設備状況の違いが対応状況に大きな違いが生じていた。

ただ、感染防止という観点では、各拠点最重要課題として取組み、結果を出したと思う。

生活相談員では、コロナ禍における稼働確保の対策の一環として、利用期間が 1 か月を超えるような「ロングショート」という切り口からの検討が推進の幅を広げたと思う。

また、例年実施している「アンケート」内容の検討は、利用者家族への対応に役立ったと判断する。

② 介護保険関連法令順守の運用省力化と向上

コロナ加算の実施や介護報酬改定のタイミングに当たり、各拠点間の情報交換が対応力向上に役立ったものと判断する。

4. 在宅部会 デイサービス部門　　部会長：村上副施設長

令和 2 年度は、Zoom 会議にて 7 回開催した。うち 1 回は、介護リーダー部会。Zoom 会議は、移動時間の短縮、途中参加もできる一定のメリットを感じ参加率が良かった。

① 新型コロナウイルス感染症関連として、近隣の発生者情報の共有、また感染症拡大防止策として各拠点の工夫を参考に取り入れ予防対策の強化をした。

② 介護記録システムを活用し、iPad からの記録入力で記録物の時間短縮に繋がり、通所介護計画等の作成と連動し管理が一元化できた。

③ 令和 2 年度の計画「定例合同運動会」は中止となり、今後は西宮も含めて合同運動会を見直し、全体で参画できるものを検討していくこととした。令和 1 年から継続していた「同職レベルで見た業務点検」は、今年度見送ることになった。

④ 今回のアンケートは、感染症関連と施設独自枠と 2 項目を追加して実施し、7 割近くの回収率であった。特に、新型コロナウイルス感染症について不安要素の記述が多かった。集計、分析したアンケート結果を纏め、職員間で共有し、より良いサービス提供に繋がる施策として活用したい。

5．在宅部会　ホームヘルプ部門　　部会長：鷲尾副施設長

部会年６回、サービス提供責任者の研修会年６回開催。

①　新型コロナウイルス感染症予防に関する横断的な対策の実施

・感染防護用品の整備確保、訪問活動時における具体的な感染対策方法の共有と実施。

・3 密を回避した上でのヘルパー会議・研修会の開催方法、書面研修の試行やルール化を行った。

・ヘルパーの感染症に対する不安軽減のためのフォロー体制の検討実施。

②　サービス提供責任者の育成

・各拠点の新任サービス提供責任者が抱える課題をテーマに年６回の研修を実施した。

・ＷＥＢ研修により、より多くの職員が参加できる機会となり、同じ悩みを共有できモチベーション向上の一助となった。

・ロールプレイや事例を通した意見交換により相互の学びや気づきとなった。

③　部会を通した法人スタンダード化の推進

・訪問介護マニュアルの実用化に向けた見直しを行った。来期も引き続き計画的に実施していきたい。

・様式の統一化と法人内情報共有システムよる管理を行った。

・様々な活動パターンによる交通費の取扱い、新たな受託事業「KOBE みまもりヘルパー」の運用ルール化を図った。

6．居宅介護支援事業所・地域包括支援センター部会　　部会長：明田施設長代行

①　地域包括ケアシステム推進への取り組みとその成果の共有という事を目標にしていたが、コロナ禍に於いてはそれらに纏わるほぼ全ての取り組みを中止・延期せざるを得ない状況となった。

②　個々のマネジメントスキルの向上、又連携力の向上を目指し、積極的な外部研修受講や拠点内研修の企画の予定化を考えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実現困難となった。

③　令和２年度は、全てに於いて新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年間計画の実行および目標の達成が困難となったが、それらに代わって事業継続に向けた検討や実践（例えばテレワークの実施）に集中して取り組む事となった。

7. 栄養部会　　部会長：明田施設長代行

① 栄養アセスメントの書式の検討を行い、介護記録システム「ちょうじゅ」にて作業が出来るようにカスタマイズを行った。

② 食事摂取基準の変更に伴う施設基準の見直しを検討した結果、各拠点毎に見直しを行う事とした。

8.看護部会　　部会長：岡本診療所所長

① 昨年度の事業報告から、看護師主導の新たな看護部会を作るべく会議日程を診療所会議と分離することや、会議会場の持ち回り、ケースカンファレンスの導入などを積極的に考えていたが、年初からの新型コロナウイルス感染症の拡大により議題が感染対策一本に固定せざるを得なかったうえ、参集ができず、結果として開催は 4 月と 12 月の 2 回のみ、サイボウスにおけるメール会議となった。

＜内容＞

4 月：各施設におけるコロナ対策の実情と共有化

12 月：看護師の BCP

9.診療・医務部会　　部会長：岡本診療所所長

① コロナ禍のため、開催はすべて Zoom によるオンライン会議となった。
新型コロナウイルス感染症対策が議題の中心であり続けた。

② 施設にてコロナ感染患者が発生した場合、また、入院が叶わなかった場合に備えて感染発生施設とその他の施設に医師を振り分ける BCP を立案し、周知した。

＜その他＞

- 検診の診療所移管と具体的な実施方法について周知を図った。
- 例年の事業としてのインフルエンザワクチン接種事業の計画
- 看取り加算（診療）の導入準備

10. 在宅部会 リハビリテーション部門　　部会長：山谷事業部長

コロナ禍での感染防止の観点から、集合しての会議は 1 回しかできず、3 回はオンライン会議、12 月以降は、サイボーズ上での書き込みで行った。

昨年度 1 月、高知県でのノーリフティングケア実施施設の見学で弾みがつき、リハビリ部会としてノーリフテイングケア推進支援計画を立てたが、コロナ禍のため取り組みが進まなかった。

ただ、、ノーリフト®協会のノーリフティングケアベーシック研修には、リハビリ職だけでなく各拠点から、1 回目 9 名、2 回目 7 名が参加し、受講職員を中心に腰痛予防に取り組みが始まり、福祉用具の導入も少しずつ進んで、入居者の姿勢改善や職員の負担軽減の成果が部会で共有された。

部会として、法人全体対象の年 2 回のリハビリ研修を計画していたが感染防止のため中止し、代わりに拠点ごとの SOAP 研修を行った。少人数での研修は好評で、来期についても継続開催とする。

腰痛予防推進のための施設部会との合同部会開催は、感染防止面から実施できなかった。

また、機能訓練計画書の活用検討を行ったが、費用面もあって実施できていない。

11.事務・IT 部会　　部会長：村上総務部長

① 事務業務の省力化、合理化を目指した取り組みの推進
旅費交通費・立替金等の経費精算の頻度、金額の調査を行い、経費精算キャシュレスのシステム導入へ向けての検討を開始した。次年度において事務省力化の取り組みとして進めていく。

② 介護保険請求・利用者負担の集金代行処理における問題点の洗い出しを行い、その対応策の検討を行った。

12. 広報部会　　部会長：田中施設長

年度初めより、新型コロナウイルス感染症の蔓延からの新しい生活様式が浸透していく中、年間を通じて主にテレカンファレンスによって部会推進を行い、実際の参集は必要最低限となった。

しかしながら、年度主題であった 70 周年関連広報の完遂は元より、従来取り組んできた各ブログにおいても法人内、地域、世界への発信を継続し、部会の成果としては著しいものがあった。

どの様な環境下であっても柔軟に対応し、成果を挙げられるようになった各部会員の成長を実感した 1 年であった。

① 法人 70 周年記念関連事業に関わる広報の推進と実現

・記念アニバーサリーロゴ
法人内公募により各施設から複数候補を推挙し、最終決定。決定後、ロゴの使用要領を制定、運用

・記念ホームページ
他社事例を各部会員が 5W2Ｈのフレームワークなどを使い研究、リサーチ、アイディアを集め企画、製作

・記念ポスター
各部会員のデザイン案から選定、企画、製作

・記念デカールシート
アニバーサリーロゴをベースに企画、製作

・記念クリアファイル
ポスター原案をベースに新たに裏側デザインを企画、製作

② 各施設概況に加え、STAY HOME を過ごされる地域の皆さまへのお役立ち、ノーリフティング推進を新規タグとして積極的な情報発信を継続
発信した情報を地域の皆さま、海外に在住されるご利用者家族等にキャッチして頂き、喜んで頂いた。

親睦会　担当：村上副施設長

新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を鑑みて、令和 2 年度の親睦会の計画は、中止と判断した。

《運営理念》 心温まる支援

【2】 養護老人ホーム神港園

施設長　舩江　孝志

1.事業報告

養護老人ホーム（養護）は、虐待や心身の障害、疾患等を抱えた高齢者の多様なニーズに対し、安心して自分らしい生活が送れるよう支援することを目指し、この原点に立ち返り、養護本来の役割に基づいた「心温まる支援」の実現を目指し取組んだ。

自立度の高い高齢者には、個々の思いを含めた生活全般の聞き取りを行い、生活意欲や活動の向上、要介護の入居者に対しては、「共に行う生活支援」（整頓・清掃等）の機会を広げ、健康の維持・増進に向け取り組み活動性を高めることに取組んだが、これも新型コロナウイルス感染症予防対策の規制で思うようには進められなかった。

課題の取り組み成果として、養護拠点（養護・ホームヘルプ）サービス活動収益は、当初予算231.8（百万円）を下回る229.4（百万円）となった。サービス活動増減差額に関しても△7.1（百万円）となり当初予算想定を下回った。

養護は、運営理念の実現と新入居者確保と入院期間の管理に取り組み、新入居者 9 名(要介護者 7 名)、退居者 10 名(要介護者 8 名)、その内訳長期入院 4 名、特養養護老人ホームへの移動 4 名、死亡 2 名であった。定員に対する充足率は 97.8%であった。

設備においては、今年度築 17 年を経過する建物の大規模修繕の実施、外壁及び屋上の修繕が主になるが、建物内の不具合箇所についても合わせて実施する。

建物内では、製品の廃盤により修理が出来なくなることから LED 照明・便器の交換や入居者の 6 割を占める要介護者が安全で生活しやすいようトイレの改修の計画をしていたが、措置施設であるため補助金を含めた話し合いを行政と重ねるが、令和 2 年度の実施は予算上難しいとのことで、令和 3 年度での実施で承認を得たため次年度に持ち越しとなった。

ホームヘルプでは、事業所全体の質の高いサービス提供を目指し取り組みを強化した。実績稼動向上のために必須要件となるマンパワーの確保ができず、新規の依頼にも対応できないことが重なった。活動回数は、年間 24,348 回（月平均 2,029 回）で前年度 24,432 回（月平均 2,036 回）前年差 84 回減（月平均 7 回減）となった。

サービス提供責任者が夜間の活動を担う比重が高いため、本来業務に必要な時間の確保が困難な状況があったことから居宅介護（障害サービス）の週 6 日の夜勤業務が対応困難となった。週 3 日の活動に減らし少しではあるが職員の負担軽減ができたが収益にマイナスの影響が出た。

ワーク・ライフ・バランスを含めた業務体制改善のため、ヘルパー募集を重ねて実施したが、採用に繋がる応募者がいない状況であり、現在も継続中で訪問活動増を目指すためにも早期解決が必要である。

② 新型コロナウイルス感染症対策

- 法人の感染症対策委員会と並行して、拠点内感染対策委員会を開催。委員会での決定事項について、速やかに拠点内で情報を共有し感染症防止対策の徹底を図った。

▸職員の体調不良者は業務に当たる前に受診を促し、感染症の持ち込みを未然に防いだ。
(入園時・退園時の検温、手洗い、手指消毒の継続)
▸クラスター発生時のシミュレーションと研修（ゾーンニング・防護服着脱訓練等）の実施。
▸施設食堂、フロアー内の飲食用テーブルにアクリル板を設置し、飛沫感染防止対策を実施。
食事についても、50 名全員が食堂に集合していたため、各フロアーの談話スペースを活用し 3 グループに分かれて食事を行う事とした。
▸1 日 3 回の全館換気と手すり・ドアノブ等の消毒を実施。
▸感染症発生時の保管物品の見直しを実施(3 か月程度を目途とした感染症対策物品を保管)
▸面会者対応としては、ビデオ通話による面会を主とし、状況に応じて施設玄関の面会コーナーにおいてガラス越しの面会を実施。
▸訪問介護事業所については、事務所の密回避のため別室へ移設。更に、施設利用者へのサービス提供についても地域で活動するヘルパーと施設で活動するヘルパーの固定化を図った。

2. 経営報告

（千円）

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	229,354	236,472	△7,117
前年度決算	226,427	231,562	△5,136
前年差	2,927	4,910	△1,981

✦情勢と取り組み

養護は、措置費単価の増額改定年間 1.4（百万円）、感染症対策に対する補助金収入 1.9（百万円）等により、対前年 3.6（百万円）収入が増加した。但し、支出面において感染対策物品の整備や水道料金減額適用の廃止、経年劣化に伴う修繕費等が増加したため、対前年で 11.1（百万円）支出も増加している。その結果、サービス活動増減差額は対前年 7.5（百万円）の減収となった。

養護では、ここ数年 10 名程度の退居者数が続いている。過去 3 年の各区役所からの入居依頼数は、年間 13 名程度（他法人との併願希望者を含む）であることや、既存入居者の重介護化、退去者の平均在園期間の短期化等が進み、月初在席数 50 名の入居者を維持していくことが困難な状況にあり、収入面での不安定要素と水道代等の固定費増加への対応が課題となっている。

人員配置においては、職員の長期欠勤（体調不良や家族介護による）や異動による職員配置の未達が続いた。感染症防止対策やデイサービス利用中止による業務負担が増加する中、シルビアホームからの職員応援や訪問介護サービスの充実を図る等により、入居者への必要な支援を継続する事が出来た。

建物においては、築 17 年が経過し今年度、建物外壁・全館トイレ改修等の大規模改修を計画していたが、予算認可の遅れにより令和 3 年度の実施へと持ち越している。

神港園ホームヘルプセンターは、感染症対応に伴う、養護老人ホームへのサービス提供回数の増加が見られたが、その分在宅へのサービス提供体制が整わず、サービス活動収益は対前年 0.6（百万円）減収。支出面においては、人員体制の見直しにより対前年で 4.6（百万円）の支出減。その結果、サービス活動増減差額は対前年 3.9（百万円）増収となった。

人員配置においては、養護老人ホームへのサービス提供体制確保のための人員を確保していることから、在宅向けサービス提供への人員確保が間に合わず、新規利用者の依頼に対応できない状況にある。

登録ヘルパーの採用活動継続と工夫、養護と施設提供ホームヘルプのサービス提供に係る調整を行い、在宅利用者へのサービス体制充実させることが今後の課題として残った。

✦運営報告

【苦情・要望】

苦情要望について、発生後のヒヤリングにて不適切な対応に対しての指摘だけではなく、適切な対応とは何か、どのような対応をすれば相手は、不適切な対応と取らなかったのかを検証した。

その際に、相手が事柄をどこまでどのように理解しているのかを考える対応者へのゆとりを重点に振り返り、相手の感情はもちろん自身のアンガーマネジメントについても、虐待防止研修の研修内容に取り入れ理解を深めた。「自分にとって大きなことでないことが、相手にとっては大きな問題であることが多い」と常に意識できるような自己研鑽を施設として取組んだ。R2 年度下期に関しては、苦情要望としての事案の報告は無かった。

【事故】

本年度、骨折・転倒に伴う事故は 3 件発生。年々、要介護状態の入居者が増加する中、夕方・早朝にかけての時間帯、居室内での転倒に伴う骨折が増加する結果となった。

養護老人ホームでの事故防止を目的としたリスク委員会において、センサーマットの増設や利用者の歩行状態の把握とそれによる危険予測、福祉用具の導入、訪問リハビリテーションによる下肢筋力低下予防等を進め、事故防止に取組んでいる。

3. 部門報告

(1) 養護老人ホーム

✦介護部門

・養護の多様なニーズに対応できるよう受容力の向上とその取り組みを行う。

① 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から外出行事やボランティア行事が中止となり、クラブ活動やカラオケなどの楽しみの制限によりストレスが増加する中、新しい取り組みとして規模を縮小した代替えとなるカタログ通販やテイクアウト弁当などの楽しみを維持できるような企画を取り入れ、不満の解消までには至らないが少しでも解消できるように取り組みを行なった。

② 人員不足に加え傷病者が発生したことで負担がかかっていたため、遅出や夜勤などの負担のかかる業務の一部を見直し、他の勤務に振り分け負担軽減に取り組んだ。傷病者発生時ひと月あまりの期間、シルビアホームから複数の応援職員を派遣されたことで、職員ひとり一人がゆとりを持ち、今までできていなかった細かな支援や業務をこなせたことで、精神的、身体的にも余裕ができ、負担軽減や残業時間の減少にも繋がった。

✦看護部門

① 健康管理の観点から新型コロナウイルス感染症への不安が強く、自由に行動できなくてストレスが溜まる状況を傾聴することで健康面でのストレス軽減に努めた。

② 新型コロナウイルス感染症予防対策として、入居者への説明、食堂へのアクリル板の設置、食事場所の分割、マスク着用の徹底、換気時間の確保、掃除とアルコール消毒の励行を入居者と共に実行できた。

③ 職員間の報告と連絡を活用してタイムリーな状況把握に努めた。

④ 診療所での検査により異常を早期に発見し、治療を直ぐに開始することで、入院になっても期間を短くして、退院後落ち着いた生活が送れるようになった。

✦施設相談員部門

① 認知症及び精神疾患等の入居者が増加する中でも、医療、介護との連携を図ることで個々のニーズを捉え、必要な知識や対応について共有し受容力の向上に務めた。

② 福祉事務所及び各関係機関と状況に応じた調整を図ることで、月初在籍 100%、稼働97.8%を確保することができた。

③ 感染予防に基づく対応や知識を共有し、入居者の健康維持に務めた。主治医を含めた職種間の連携を図ることで早期受診に繋げることができ、結果として入院期間を短縮することができた。

(2) ホームヘルプ

① 新型コロナウイルス感染症の影響でサービス提供責任者の定期訪問が難しく、電話等での対応が多くなったが、ヘルパーが聞き取った利用者の要望をケアマネジャーに報告する事を心掛けた。
また、ヘルパーと情報共有する事で、利用者に質の高いサービスを提供することに努めた。

② 登録ヘルパー及び訪問介護員の確保に苦慮し、募集広告を数回出すが採用に繋がらなかった。
そのため、サービス依頼をサービス提供責任者が対応せざるを得ず業務に支障が出たので、夜間の活動を制限し縮小した。それにより障害サービスの提供回数が減少したことと、新規依頼にも対応できずやむを得ず断ることがあった。既存の登録ヘルパーの状況を確認しながら活動時間の確保に努めた。

4. 施設委員会・プロジェクト

名称	開催頻度	主な参加者
事業運営会議 （安全衛生推進委員会、入所検討委員会）	月１回	施設長、各部門代表者、生活相談員、経理職員
事故防止対策委員会	月１回	施設長、介護リーダー、看護職員、サービス提供責任者、生活相談員、管理栄養士
感染症対策委員会	月１回	施設長、介護リーダー、看護職員、サービス提供責任者、生活相談員、管理栄養士
身体拘束廃止委員会	年４回	施設長、介護リーダー、看護職員、サービス提供責任者、生活相談員、管理栄養士
在宅向上委員会	月１回	管理者、サービス提供責任者、生活相談員、在宅事業所担当者
部門会議	月１回	施設長、各部門担当者

5. 施設行事

月	行　事
４月	花見御膳、おやつデイ（桜餅）
５月	消防避難訓練、おやつデイ（よもぎ饅頭）
６月	
７月	じゃがいも掘り、おやつデイ（七夕和菓子）
８月	地蔵盆祭り（室内開催）
９月	敬老祝賀会
１０月	消防避難訓練、さつまいも掘り、焼き芋
１１月	ガーデンパーティー（室内開催）、寿司御膳
１２月	クリスマス会、おやつデイ（クリスマスケーキ）
１月	新年祝賀会、とんど焼き、おやつデイ（初釜和菓子）
２月	節分豆まき
３月	消防避難訓練、寿司御膳、おやつデイ（ひな祭り和菓子）
随時	テイクアウト弁当、通販カタログ買い物、誕生会

《運営理念》 くつろぎと安心のある施設

【3】神港園シルビアホーム

施設長　　舩江　孝志

1．事業報告

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策を重点課題とし、運営理念である「くつろぎと安心のある施設」に立ち返り、職員意識の向上と質の高い福祉サービスの提供を念頭に取り組んだ。

特別養護老人ホーム(特養)・ショートステイの安定した実績確保、デイサービスは高い水準での実績向上を目指し実践に向けて取組んだ。

課題の取り組み成果としてサービス活動収益は、当初予算 708.0(百万円)を上回る719.8(百万円)となった。サービス活動増減差額は40.2(百万円)となり、当初予算想定を下回ったが、安定した施設運営であったと考える。

法人事業計画の方針である外国人技能訓練実習生の受入に関しては、新たにベトナム 1 名・モンゴル１名を迎え入れ、前年度の受け入れ２名とあわせて４名の技能訓練実習生が、技術取得に順調に取組んでいる。

特別養護老人ホームにおいては、毎日の暮らしと看取りケアの充実に努めた。新入居者 28 名(前年度 27 名)、退居者 29 名(前年度 28 名)、そのうち 20 名(前年度 15 名)の看取りケアを提供した。前年とほぼ変わらない入退居数でありながら、施設での看取りケアによる退居割合が増えているのが特徴的で、定員に対する充足率は 98.6%であった。

ショートステイにおいては、感染症の流行時期にも適切な感染症対策を実施し、大きな影響を受ける事なく新規ケース・緊急ケースにも迅速に対応した。感染症予防対策として、外部からの新入居を極力避けて、ショートステイでの入居待機者から特別養護老人ホームへ入居する対応方針としたため、新入居者 28 名のうち 16 名(57.1%)がショートステイ利用者という中、年間延べ利用者数は 8,072 人(1 日平均 22 人・対前年 38 人増)となり、定員に対する充足率は 110.6%と稼動目標を達成した。

デイサービスにおいては、リハビリの実施強化の実践、フレイル(加齢により心身が老い衰えた状態)対策と認知症予防の啓発に力を入れ、高い水準での稼働目標を挙げて取組んだ。新型コロナウイルス感染症予防対策として 4 月 14 日から 5 月 31 日の期間、養護老人ホームからの利用受入を中止した。6 月は週１回半日の利用、7 月は週１回終日の利用までと制限をかけた事で上期実績が大きく下がったが、制限解除後は段階的に新規受入れや利用回数の増にアプローチした事で下期実績は改善した。年間の延べ利用者数は 9,418 人(1 日平均 30.3 人)、対前年 24 人減(99.7%)となり、感染症の影響を大きく受ける事業であるにも関わらず成果を上げる事ができた。

ケアプランセンターは、医療機関との連携強化等の成果から重度者の受入件数が多く、入院や施設入居など出入りの激しい年となり、給付管理数は 1,869 件(月平均 155.8 件・前年比

98.2%)で前年の 1,903 件を下回った。加算取得が難しいとされる特定事業所加算Ⅰ(要介護3以上の利用者が40%以上)の取得を継続する事ができた。相談窓口となる事業所としての件数減は他の部門に影響する事も考え大きな課題として捉えている。

あんしんすこやかセンターは、給付管理数 1,755 件(月平均 146.3 件・前年比 98.8%)で、前年の 1,777 件を 20 件下回った。毎年実施されている行政の運営評価、受託法人の更新時評価は高い評価をいただいており、その評価に見合うように介護予防支援の件数増を進めていく課題が残った。

職員が働く事への意識向上を施設の課題として位置付け、人事考課制度の活用に重きを置き、職員の希望により被考課者研修と考課者研修を実施した。職員は目標に重点を置き、それを実現する事で仕事にやりがいを持ち、職責者はそれをサポートする力と職員との関係構築を目指して取り組んだ。また、職員自身が自己研鑽に努め、介護福祉士に３名が合格した事も大きな成果であり、最小限の離職者で乗り切る事ができた。

② 新型コロナウイルス感染症対策

- 感染症対策委員会設置、法人の感染症対策委員会と並行して委員会を開催
- 感染症対策委員会の決議内容は、委員会終了後直ちに職員全員に配信し周知徹底
- 職員の体調不良者は、業務に当たる前に受診を促し、感染症の持ち込みを未然に防いだ
- クラスター発生時のシミュレーションと研修の実施とＢＣＰマニュアルの作成
- 感染症発生時の初動対応と隔離対応を理解し、実践(委員会自作のゾーニングの作成、厚労省推奨の動画)
- 在宅部門のテーブルと事務職のデスクに、アクリル板を設置し、飛沫感染防止対策に努めた
- 換気の全館放送は、１日２回から１日３回に回数を増やし実施
- 勤務中は施設支給した不織布マスクを使用し、勤務外と区別することを徹底した
- 職員通用口に消毒液を設置、退社後も手洗いを遵守
- 個々に携帯消毒スプレーを常時携帯し除菌に努める（自宅使用も可）
- 職員食堂は２か所に分散し、１テーブル２名、テーブルに「黙食」のカードを貼付
- 会議室使用後は、各自で携帯の消毒液で消毒を徹底
- 感染症委員会のチームによる定期的な感染症対策の巡視(チェック)
- １ケア１手袋の徹底
- 感染症予防対応マニュアルの改正
- 感染症発生時の物品の見直し・管理
- 委託業者の更衣室を設置し、更衣室の密を改善

2. 経営報告

（千円）

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	719,843	679,603	40,240
前年度決算	708,237	648,662	59,574
前年差	11,606	30,941	△19,334

情勢と取り組み

✦部門別収支　前年比　　（千円）

	サービス活動収益	対前年	増減差額	対前年
特養	460,921	3,150	23,390	△18,872
SS	102,086	4,087	9,375	1,681
DS	87,152	3,572	△1,211	3,801
ケアプランセンター	36,787	440	5,012	348
地域包括	32,896	930	3,658	△2,333

サービス提供部門は、高い稼働率を確保し、事業活動収益の増は達成できた。

事業活動支出に関しては、長年課題であった介護人材の確保が進んだ事による人件費、感染症対策費、施設環境整備費が増えた結果として増収減益となった。

人員配置に関しては、長年の課題であった採用が大幅に進み、離職者も最小限であった。嘱託職員が上限年数を超え、パートへ雇用形態が変更になっている。年間で７人の契約職員を正職員登用することができ、新たな採用が進み契約職員を増やすことができた結果、正職員比率は下がったが、総人件費は大きく増えた。

✦人員配置（常勤換算人員）に関して、前年差（年間）

	前年度	今年度	増減
正職員	723.7	771.0	47.3
嘱託職員	72.0	36.0	△36.0
契約職員	149.2	172.0	22.8
パート職員	76.9	109.5	32.6
派遣職員	24.7	33.2	8.5
全体	1046.5	1121.7	81.2
正職比率	69.2%	68.7%	△0.5%

設備関係においては、当初大規模修繕を検討したが配管関係を含め部分修繕箇所が多く見つかり、大規模修繕は実施しない方向に方針転換した。

下期に水道使用量が大幅に増えたことと事業費が増えたため、漏水の疑いで調査を進めていくにあたり、漏水の場所が特定できるように、養護老人ホーム・新館・本館にそれぞれのメーターを設置して原因究明に努め、確認でき次第対応する方向で進めている。

✦運営報告

【苦情・要望】

苦情要望について、発生後のヒヤリングにて不適切な対応に対しての指摘だけではなく、適切な対応とは何か、どのような対応をすれば相手は、不適切な対応と取らなかったのかを検証した。

その際に、相手が事柄をどこまでどのように理解しているのかを考える対応者へのゆとりを重点に振り返り、相手の感情はもちろん自身のアンガーマネジメントについても、虐待防止研修の研修内容に取り入れ理解を深めた。「自分にとって大きなことでないことが、相手にとっては大きな問題であることが多い」と常に意識できるような自己研鑽を施設として取組んだ。

Ｒ２年度下期に関しては、苦情要望としての事案の報告は無かった。

【事故】

昨年下期より継続して事故件数が減少してきている。

従来の事故分析では、夕方以降から翌朝にかけての時間帯の事故が多く、他の利用者の介助中に起こるために、人手がないためどうしようもなかったとの結果になってしまっていた。

それを防止する取り組みとして、その時間帯に職員を厚く配置するために、従来の 3 交代制を 2 交代制に変更したこと、夜勤業務はフロアを一体的にケアするようにして手薄な時間を少なくしたことにより、精神的に余裕が持てるという効果もあって、Ｒ２年度の事故件数が大きく減ったと考えられる。

3．部門報告

(1) 神港園シルビアホーム（特別養護老人ホーム）

① フロア処遇の業務一体化は定着したが、コロナ禍での自粛や制限がある中で、感染症予防対策を徹底しながら館内で行える企画をユニット毎で実施した。個別対応での外出企画などは、入居者が満足する内容には至らなかった。（介護）

② 他職種と連携を図り、体調不良時の早期医療介入（診察依頼・受診調整）へ繋げることができた。また、感染症対策により面会が困難な状況下においては、生活相談員を通じてご家族への健康情報提供に努めた。（看護）

③ 感染症対策により上期は、空床となる期間が多くなった。しかし、新規や退院の調整を介護・看護や協力医療機関、近隣老健、居宅介護支援事業所等と連携をとり、感染症対策を講じながら受入を行い、稼働率の確保に努めた。（生活相談員）

④ その人らしい暮らしを念頭に、自立ケアの実現に向けた個別計画書の作成に取り組み、職員間の情報共有をもとにケアの質の向上に努めた。（施設ケアマネジャー）

⑤ ミキサー食の提供を開始し、個々に応じた食事形態の選択の幅を広げた。それにより、味や自力摂取しやすさの面において摂食機能が低下した方の食事の質改善に繋がった。また、栄養状態の低下した入居者に対しては、個々に合わせた提案を行い、栄養状態の改善に繋げる事が出来た。（栄養）

⑥ ワーク・ライフ・バランスの実現を念頭におき、業務の効率化に努めた（事務）

(2) 神港園シルビアショートステイ

① 個人の能力に応じて役割を持って過ごせる環境の提供、個別性を尊重した計画のもとサービスの提供に取り組んだ。（介護）

② 生活相談員・介護職員との連携を図り、利用者の状態把握に努めたことにより、早期の医療介入に繋げることができた。（看護）

③ 利用前の家族・ケアマネジャーからの利用者の情報収集や、ショートステイ利用後に意見を聞くことで、次回の利用が快適になるように努めた。また、情報共有と部署間連携を行うことで、安定した事業運営に繋がった。（生活相談員）

(3) 神港園シルビアデイサービスセンター

① 施設内の研修（SOAP 等）や部署内のミニリハビリ研修等を実施し、職員の介護歴に応じた丁寧な指導を実施し、能力や意欲を引き出せるようにスキルアップに努めた。
稼働実績に関しては、感染症予防対策で養護老人ホームの利用者を含む利用自粛が大きく影響した。感染症予防対策で制限がかかる中、充実した時間を過ごして頂けるように努めた。（介護）

② 専属看護師を配置することで、在宅部門における医療体制の安定化を図ることができた。（看護）

③ フレイル予防の広報活動は、新型コロナウイルス感染症対策のため地域への訪問はできなかった。認知症の家族の支援として、こまめに連絡を取って相談対応をして、デイサービス利用の意味付けと効果を明確にすることができた。在宅生活が困難になった利用者をショートステイ、特養に繋げることができた。（生活相談員）

(4) 神港園シルビアケアプランセンター

① 法人外の居宅介護支援事業所との連携や研修に参加し、地域に特化したニーズを見出して解決していく糸口を考えることができた。

② 要支援認定者の状態の変化による変更申請や相談者への新規申請、ケアマネジメントなど併設居宅介護支援事業所としての役割を果たした。

③ 在宅部門のサービスの利用について、情報提供をするべく情報共有を心掛け、必要なサービスの提供や質の向上を目指した。

(5) 神出あんしんすこやかセンター

① 地域包括ケアシステムの核となり地域ネットワークの充実を目指す中、新型コロナウイルス感染症の影響で、会議や連絡会の開催が難しかった。しかし、その中でも 12 月にケアマネ連絡会と 3 月に地域の現状を聞くための地域ケア会議を少人数で行う事ができ、地域や出張所とも意見交換ができたことで今後の充実に向けたスタートとなった。

② 地域診断を実施し、地域を月ごとに分析して、年間を通してどの地域に何を広報するのかを振り返り、小地域ごとに広報することができた。支援が必要な認知症疾患への対応も、小地域ごとに広報するアプローチができた。

③ 連携強化を目的に地域と話しができる時間をもち、積極的に介護リフレッシュの開催や今後のふれあいのまちづくり協議会との関係性の向上などについて、民生委員児童委員協議会会長や前自治会長とも話ができ、あんしんすこやかセンターの地域への働きかけについて良い評価を頂いた。

(6) ワーク・ライフ・バランス

① 特養 2 交代制が定着したことで、遅出業務の退勤時刻が早くなったこと、夜勤明けの翌日が確実に休日になることから身体的疲労も軽減され、自身や家族と過ごす時間が増えることで仕事とプライベートのそれぞれが充実した。

② 今年度、人材不足が大幅に改善されたことで残業時間の減少、有給休暇の取得率の向上、計画休暇の取得がスムーズになった。

③ 人材育成の観点から、被考課者、考課者への人事考課制度の研修を重ねることで、公平評価のあり方と積極的な目標への取り組み姿勢が見られるようになった。

(7) その他

① 介護記録のペーパーレス化に取り組み、介護職員に操作方法の周知を行った。令和 3 年度より実施できる目途が立った。

② 特養の 2 交代制も定着し、入居者の目線に立ったケアの取組を行った。

③ 11 月にベトナムから、12 月にモンゴルからそれぞれ 1 名の外国人技能実習生の受入を行い、合計 4 名となった。資格取得に向けて、計画的な勤務シフトの調整、日本語学習の支援等を行う。

④ 「ノーリフティング」勉強会、研修会を定期的に実施。理解と運用に向けた準備を行う。令和 3 年度はプロジェクトを立ち上げて取り組む。

4. 施設委員会・プロジェクト

名称	開催頻度	主な参加者
入所検討委員会	月１回以上	施設長、副施設長、施設ケママネジャー 介護チーフリーダー、看護リーダー、生活相談員
事業運営会議	月１回	施設長、副施設長、部門代表者、生活相談員、経理職員
リーダー会議	月１回	施設長、副施設長、職責者、生活相談員 管理栄養士
介護リーダー会議	月１回	介護部門責任者
シルビア通信会議	月１回	生活相談員、各担当職員
安全衛生推進委員会	月１回	施設長、副施設長、産業医、衛生管理者 巡回部署職責者、安全推進者
生活安全委員会 「事故防止対策委員会」	月１回	施設長、副施設長、介護職員、生活相談員、看護職員
生活安全委員会 「感染症対策委員会」	月１回	施設長、副施設長、介護職員、生活相談員、管理栄養士、看護職員
生活安全委員会 「身体拘束廃止委員会」	年４回以上	施設長、副施設長、各部署担当者
生活安全委員会 「褥瘡予防委員会」	月１回	介護職員、生活相談員、管理栄養士 看護職員
排泄委員会	月１回	介護職員、生活相談員、看護職員
接遇委員会	月１回	介護職員、生活相談員、看護職員
在宅向上委員会	月１回	施設長、副施設長、在宅部門担当者
安全委員会 「喀痰吸引等関係会議」	年４回以上	施設長、副施設長、各部門担当者
IT 委員会	月１回	施設長、副施設長、各部門担当者
２階、３階イノベーション会議	月１回以上	施設長、副施設長、各部門担当者
ユニット会議	月１回	各部門担当者

5. 施設行事

月	行　事
４月	花見御膳、おやつデイ（桜餅）
５月	消防避難訓練、おやつデイ（よもぎ饅頭）
６月	
７月	じゃがいも掘り、おやつデイ（七夕和菓子）
８月	地蔵盆祭り（室内開催）
９月	敬老祝賀会
１０月	消防避難訓練、さつまいも掘り、焼き芋
１１月	ガーデンパーティー（室内開催）、寿司御膳
１２月	クリスマス会、おやつデイ（クリスマスケーキ）
１月	新年祝賀会、とんど焼き、おやつデイ（初釜和菓子）
２月	節分豆まき
３月	消防避難訓練、寿司御膳、おやつデイ（ひな祭り和菓子）
随時	テイクアウト弁当、通販カタログ買い物、誕生会

《運営理念》 高齢者が自分らしく暮らせる地域ネットワーク拠点

【4】 神港園しあわせの家

施設長　　髙谷　明
施設長代行　　明田圭介

1. 事業報告

令和２年度は、全ての事業において新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じた予防対策ならびに対応にまみれた一年であった。施設サービスにおいては、ご家族の行事参加やボランティアの受入れ制限のもと敬老祝賀会をはじめ各行事は、その主旨や季節感をご入居者に出来るだけ感じて頂けるよう職員が主体となり行った。いまだご家族等参加の再開目途は立たない状況であるが、ご家族への情報発信や非接触面会・オンライン面会の実施にて、コロナ禍の中でもご入居者ならびにご家族が笑顔で安心して過ごして頂けるよう対応に努めた。

在宅サービスにおいては、より慎重な感染予防対策が求められる中、行政からのサービスの一本化や利用自粛の要請、又施設サービス同様にご利用者ならびにご家族に多くの制限を課すこととなったが、幸いにも結果的にはいずれの事業も中断させること無く運営できた。

運営体制を維持するための対策としては、拠点内会議は事業運営会議・リーダー会議など多人数対面式の場合はオンラインやメール形式で実施。その他少人数の部署内会議は、3 密防止のもと対面式で会議を行うなど状況に応じて適宜開催した。施設内研修の実施についても、行事同様開催が困難な状況ではあったが、年度当初に各部署単位で立案された研修計画について順次計画通り実施した。虐待防止研修等の必須研修についても、被介護者体験スタイルで腰痛予防のスキル取得を視野に入れた研修内容を一部変更して、全ての職員の年度内受講が終了した。

一年を通して自宅待機を指示する状況も複数回発生したが、職員の中に感染者を出すことなく年度を終えることが出来たのは、職員ひとりひとりの福祉職・介護職としての強い自覚によるものと考える。

最後に、新型コロナウイルス感染症に対しての基本的な予防対策の周知徹底、物品確保やノーリフティング推進による介護負担の軽減を含めた職場環境整備、テレワークや分散勤務体制の確立、緊急時の応援体制シミュレーション等々の取り組みと経験を積み重ねた結果を BCP 策定に活かすことができたと前向きに捉え、今しばらくは継続するであろう危機に備えていく。

2. 新型コロナウイルス感染症対策

① 施設内の各種制限

- 複数職員が集まる施設内会議・各種委員会については中止継続（サイボウズ利用による開催）但し、幹部判断にて開催を認めるものについては、（１時間以内）（本館 ２Ｆ会議室にて人数６人まで）を厳守しながらの開催とする

ご家族面会ならびにボランティア来訪

- 通達の通り、当面見合わせる

- 面会については、長期化による不安軽減施策（お便り・ビデオ面会）の継続と玄関部分での非接触面会　※看取り期の面会は別途ルールに基づいて

サービス提供

- 新規利用・体験利用・見学について、緊急性を認めるものについては当拠点基準に照らして受入れ（幹部決裁）

訪問理美容

- 予防対策（業者マニュアル＆拠点チェック）の徹底ならびに実施場所、動線の限定を前提に実施

② 職員対応

- 出勤時並びに定時の検温及び記録
- マスク着用（水着・ウエットスーツ素材マスク・フェイスガード等による介助時負担軽減対策ならびに熱中症対策も実施）
- 定期消毒ならびに換気
- 消毒ボトルの携行（部署による）
- 勤務体制（分散勤務）　テレワーク、時差出勤の実施
- 昼食ならびに休憩に関する分散指示

③ 対応訓練

- 感染者発生時の対応シミュレーションならびに物品使用訓練

④ 物品確保

- 各種マスク、消毒関連、感染対応備品（防護服・フェイスシールド等）
- パーテーション
- 通信関連機器

⑤ 介護環境

- ノーリフティング推進（密着機会の減少）

2. 経営報告

（千円）

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	908,969	825,709	83,260
前年度決算	908,565	825,668	82,897
前年差	404	41	363

情勢と取り組み

【収益】

✦特養・ショートステイ

- 感染予防対策強化＆発生時の対応マニュアル強化
- 外部関係機関（老健・病院等）との連携強化
- 神港園診療所協力による入所前診断の迅速化
- ショートステイとの連携強化
- 緊急（要受入れ）対応時の受入れ基準策定

✦デイサービス

- 既存利用者の増回調整
- 緊急（要受入れ）対応時の受入れ基準策定

✦ホームヘルプ

- 登録ヘルパーのマンパワー不足（新規登録の不調ならびに既存ヘルパーの体調不良等による活動休止）

✦地域包括・ケアプランセンター

- 新規利用者のサービス利用控えによる影響あり

【費用】

- 感染症対策に関わる物品の使用量ならびにコストの増大（行政補助金有り）
- キュービクル修繕・消防設備改修
- 安全保全業務委託業者変更（コスト軽減）
- 人件費：技能実習生５名（ベトナム２名・モンゴル３名）受入れ
- 予定外の設備修繕発生
- ノーリフティング推進：積極的研修参加、介護物品の導入推進（スタンディングリフト・床走行リフト・グローブ・スライディングシート）

✦運営報告

【苦情・要望】

苦情・要望への対応については個別の案件に即した再発防止策を各事業所内で立案し共有化を図った。

具体的には、まず申し出者への反応や返答の仕方など受け止め方について個別的に改めて基本的な指導を行った。

また、事業所内で苦情・要望受付等の初動対応や解決に向けた手順・業務において重要となる各種の法令遵守事項など再確認するよう個別的指導や事業所内研修を実施した。

これらの対策が有効的に機能しているか確認する為、事案によっては職責者等が直接的に業務内容を確認し、細部について必要な助言等の指導を行っている。

下期においては、重大な事故に繋がる恐れのある苦情等も含め報告されていない。

その他の取り組みとして拠点内の虐待防止研修において今年度は接遇マナー向上を目的とした研修内容を盛り込んだ。

言葉使いや接遇マナー、サービス業であることの自己覚知を改めて、職員の理解をより深める機会とした。

【事故】

令和２年度は拠点全体的に事故件数が昨年度より減少したが残念ながら入居部門において転倒による骨折を伴う重大事故が昨年同様発生している。

骨折事故を含む転倒等による事故の背景として、入居者の平均介護度の軽度化により、ご入居者ご自身で移動が可能な方が増え、転倒予防の為の見守り支援などの対応が手薄になったことが要因と考察している。

加えて、個別的に認知機能・身体機能の両面が低下したご入居者の転倒報告が傾向として多い。

また、転倒事故の発生時間帯は職員の見守り要員が昼夜問わず手薄になる時間帯に、ご入居者ご自身の歩行時や椅子等からの立ち上がり時に発生するケースが多い。

転倒事故の予防対策として、各時間帯において見守りができる体制を整える為、業務手順や各時間帯の配置職員の見直しを行い、見守り体制の強化を図った。

また、個別的に転倒リスクが高いご入居者の生活行動上の動線把握をリハビリ専門職と共同して行い、フロア、居室、トイレ等に手すり等や介助バー・などを設置し、転倒リスクの軽減化を図るなど居住空間の環境整備を行った。

他の主だった事故事案の予防対策として、昨年度から導入を進めている移乗介助支援機器（床走行リフト・スタンディングリフト）を安全に使用できる様に、多職種共同して研修等実施し、実際に稼動させている。

これにより、人力での移乗介助を中心に行ってきた昨年度より、打撲・皮下出血などの事故報告件数が大きく減少した。

「抱える介護」から、安全に移乗支援が行える「抱えない介護」へ、可能な限りの介護場面において移行し、介助中の事故リスクが激減できるよう次年度においても上記の対策を実施していく。

3．部門報告

(1) 神港園しあわせの家（特別養護老人ホーム）

- 体験型研修（虐待防止研修）に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響にて一部修正を余儀なくされたが、接遇向上に努めた。又、ノーリフティングの推進に関しても物品（リフト・グローブ・シート等）の導入を含めて方針ならびに方法理解を深めることが出来た。
- 感染症予防を含めた適切な待機者管理による目標稼動の達成に努めたが、入所ならびに入退院の際の待機期間設定が大きく影響し未達となった。
- 本部（人事）と協働にて受入れ体制ならびに生活環境を整備し、外国人材（技能実習生）の受入れを実施した。

(2) 神港園しあわせの家ショートステイ

- 併設特養ならびに在宅間連携（情報共有）の強化により、受容力の向上を図り目標稼働を達成した。
- ちょうじゅ等の活用による短期入所生活介護計画の充実に努めた。

(3) 神港園しあわせの家デイサービスセンター

- 認知症ケアのスキルアップにて利用者満足度の向上を目標としたが、外部研修の機会が失われる状況となり次年度への継続目標となった。
- 個別性に合わせた機能訓練と体調変化の早期発見を実現する為、看護職を中心に連携強化に努めた。

(4) 神港園西鈴蘭台デイサービスほっと

- 地域ボランティア活用によるプログラムの充実を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により実現せず。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で外出機会を失うご利用者に対して、安全安心のレクリエーション（楽しみ）の提供を継続した。

(5) 神港園しあわせの家ホームヘルプセンター

- サービス提供責任者ならびに登録ヘルパーのスキルアップに向けた研修企画の充実を目標としていたが、外部研修（特に集合型の研修）の実施が難しく、現状にあわせた研修方法の検討が継続課題である。
- ちょうじゅ等の活用により事務的作業の効率化ならびにスケジュール管理に努めた。（登録ヘルパーとの連絡手段としても有効となった。）

(6) 神港園西鈴蘭台ケアプランセンター

- メーリングリスト等を活用し、地域の関係団体ならびにサービス事業者との情報共有に努めた。
- 新型コロナウイルス感染症影響による利用自粛がある中、給付管理数の安定ならびに認定調査業務の品質確保に努めた。

(7) 五葉あんしんすこやかセンター

- 地域行事や地域ケア会議等が中止となる中、地域関係機関との情報共有に努めて、ネットワーク強化を図った。
- 新型コロナウイルス感染症の影響とも考えられる虐待案件の増加に対して、行政とも連携しながら適切な対応に努めた。

(8) その他

- 新型コロナウイルス感染症の予防対策として、生活環境・職場環境の徹底整備に努めた。

‣ 在宅向上委員会（在宅部門一体）による地域貢献を目標としたが、地域行事が自粛される中、改めて貢献の在り方を検討する事となる。
‣ 介護現場のみならず、拠点全体の腰痛予防対策を推進するべく、課題の抽出ならびに具体的方法の発信に努めた。

4. 施設委員会・プロジェクト

名称	開催頻度	主な参加者
在宅向上委員会	月１回	管理者・在宅事業職責者・在宅事業職員
生活安全委員会	月１回	管理者・職責者・生活相談員
安全衛生委員会	月１回	産業医・衛生管理者・担当者
腰痛予防対策推進委員会	月１回	委員会メンバー

5. 施設行事

月	行　事
４月	花見　⇒　規模縮小にて実施（敷地内）
５月	施設：お散歩会（家族会行事として）　⇒　中止 在宅：在宅家族会（内覧会）⇒　中止
６月	施設：勉強会・分科会（家族会行事として）⇒　中止
７月	しあわせの村夏まつり　⇒　中止　　施設・在宅：夏祭り　⇒　規模縮小にて実施
８月	西鈴蘭台夏祭り（在宅向上委員会として参加）⇒　中止
９月	敬老祝賀会　⇒　規模縮小にて実施
10 月	しあわせの村バザー（家族会行事として）⇒　中止
11 月	施設：食事会（家族会行事として）⇒　中止 在宅：在宅家族会　⇒　中止
12 月	クリスマス会　⇒　規模縮小にて実施
１月	施設：新年祝賀会　　⇒　規模縮小にて実施 在宅：初詣、在宅家族会（スライドショー）⇒　中止
２月	
３月	施設：家族会総会　⇒　中止 在宅：在宅家族会（リフレッシュ企画）⇒　中止
その他	施設：家族会陽だまり会・家族会喫茶　⇒　中止 お誕生会　⇒　規模縮小にて実施
	在宅：音楽療法・喫茶　⇒　中止　　クラブ活動　⇒　規模縮小にて実施

《運営理念》 みんなに感謝してみんなが笑顔で過ごしましょう

【5】 神港園サニーライフ白川

施設長　黒田 敦士

1. 事業報告

令和２年度の継続目標である、質の高いゆとりあるサービス提供を実現するための職員育成や施設整備、外国人人材受け入れ態勢の充実という計画が、新型コロナウイルス感染症による影響で重点項目を感染症対策に変更せざるを得なくなった。

職員育成については、感染症予防により外部研修に参加できず、顔を突き合わせての会議や研修の機会がなくなったことで、意思統一やモチベーションの維持に影響が出た。さらに下半期に特別養護老人ホームのリーダーが１名欠員となったことも影響したため対応が必要な状況となった。

しかし、部署によっては新人やリーダー候補が育っているところもあり、人材育成について意識を強く持つように各リーダーに働きかけてきた。

設備については、神戸市と協議を続けてきた外壁タイル落下防止及び塗装工事の ２ ヶ年計画がすすみ、令和３年５月以降に着工予定となった。

また、エレベーターについては取り急ぎの補修工事が令和 ３ 年 ３ 月に済んだが、リニューアル工事については神戸市からの修繕費の予算確保が難しく了承を受けるには至っていない。他の修繕も含めて再度要望書を提出する予定である。

外国人人材受け入れについては辞退や延期となった。しかし、延期となっていたインドネシア人 ２ 名（EPA）は令和３年６月に着任予定となっている。

各部署の稼働面では、新型コロナウイルス感染症蔓延当初は、ご利用者のパンデミックに対する不安から在宅部門がまず ５ 月に稼働面で大きな打撃を受け、その後も反動と言えるほどの大きな動きはなく一進一退が続くこととなった。その時期に従来のサービス利用を控えていた利用者は、一定数訪問看護事業所に流れており、訪問での看護及びリハビリを依頼する件数が １ 年で 35%増となった（白川ケアプランセンターのサービス依頼先のデータによる）。

また、白川あんしんすこやかセンターによると、新規受付の際に状況が悪化してから相談を依頼されるケースが増えており、感染症への不安からぎりぎりまでサービスを使わずに過ごしたいとの意向が見受けられた。そのようなケースの場合、相談後の支援の在り方としてはホームヘルプやデイサービスの導入というよりは、訪問看護や医療機関との連携、あるいは急いで施設入居という流れとなり、感染症の蔓延前よりも明らかにサービス提供の流れが変わる割合が増えた。

年度初めより計画していた白川ケアプランセンターへのケアマネジャーの補充が実現されなかったことにより、白川ケアプランセンターの担当件数がほぼ上限に達した頃から、白川あんしんすこやかセンターからの要介護認定を受けた新規ケースを他法人の居宅介護支援事業所にまわさざるを得ない状況が続き、白川ケアプランセンターのみならず拠点内の在宅部門全体への影響が大きく出てしまった。

特別養護老人ホームの稼働については、緊急事態宣言時に待機者との面談の調整ができなかったことにより、在宅部門から数ケ月遅れて影響が出てしまった。

②新型コロナウイルス感染症対策

✦施設内環境対策

定期的な換気と手すり・ドアノブ・介護用品の消毒を実施し、館内玄関・職員通路には消毒用マットを設置した。受付・相談室には飛沫防止アクリル板を設置した。次亜塩素酸水噴霧を人がいない時間帯に実施した。

✦利用者感染対策

県・市からの通達に応じて、複数事業所利用者を可能な限り一事業所へ集約するための調整を実施した。密集を避けるために、デイサービスでサービスを受ける利用人数の制限を行った。

また、体調や安全面を考慮したうえでマスクの着用を依頼した。

行事については、外出を中止して施設内での食事会に変更した。バザールや敬老会等の大規模行事も中止して季節のレクリエーションへ変更した。

施設入居者の病院からの退院時については、退院後 2 週間は他入居者への感染予防のために居室内で過ごしていただいた。デイサービスでの食事時には、飛沫防止アクリル板を設置して感染予防に努めた。令和 3 年 3 月に市の補助金事業を使って特別養護老人ホームのフロアに簡易陰圧装置を導入した。新型コロナウイルス感染症の疑いの段階から実際に感染した場合においても、咳等による汚染エアロゾルを施設内に拡散することを防ぐことができるようになった。

✦職員感染対策

入館時には手指消毒・検温・常時のマスク着用を実施し、介護職員はマスクのうえからフェイスガードを着用、介護職以外の職員も利用者のいるスペースを歩く際はフェイスガードの着用を実施した。各部署の机の間仕切りとして飛沫防止アクリル板を設置した。各部署の施設外での会議や研修への参加は原則禁止し、施設内での会議や研修への参加時は、人数に応じてオンラインで実施した。

また、訪問業務を行っている部署の職員については、フェイスガード・携帯消毒ボトルを配布した。実際の感染症発症を想定して、ゾーニングの想定や防護服の着用練習を実施した。

✦来館者対応

面会目的の家族・業者・ボランティア等の来園については、県・市からの通達に従い原則禁止し、やむを得ない場合は消毒・検温・来園者カードへの記入・手洗い・うがいをしてもらったうえで入館してもらうこととした。入居者への面会については、令和 2 年 4 月 22 日からオンライン面会に切り替え

た。その後はオンライン面会以外に、時期によりアクリル板越しの非接触での面会も開始した。

2. 経営報告

（千円）

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	591,334	582,861	8,473
前年度決算	623,118	594,910	28,208
前年差	△31,784	△12,049	△19,735

情勢と取り組み

（１）情勢と取組

‣サービス活動収益は、見通し 593,534 千円に対して実績は 591,334 千円、差異が△2,200 千円。サービス活動費用は、見通し 614,512 千円に対して実績は 582,861 千円、差異が△31,651 千円の結果であった。

‣事業別のサービス活動増減差額は、特別養護老人ホーム△12,610 千円、ショートステイ 7,325 千円、デイサービス△1,108 千円、ホームヘルプ 11,110 千円、ケアプランセンター427 千円、あんしんすこやかセンター3,326 千円の結果であった。

‣ショートステイについては上期に低迷した稼働実績を取り戻すべく営業に勤しんだことが下期の安定につながった。

ホームヘルプについては、懸案であった日曜日のサービス提供を始めたことが功を奏した。

（２）人員配置

‣昨年度に比べ正職員 4%減に対し、契約職員及びパート職員 4%増となった。

‣デイサービスにおいて密集を避けるために利用者数の制限を行ったことに伴い、適正な職員配置を行った。

‣複数の生活相談員の異動や新入職員の配置があり、稼働面で影響があった。

‣特別養護老人ホーム 3 階で介護リーダーが２月～３月にかけて未配置となり、統制に影響を及ぼした。

‣居宅介護支援事業所でケアマネジャー1 名の増配置予定がかなわず、新規受け入れ件数並びに拠点内連携に影響を及ぼした。

（３）設備投資・修繕等

‣介護リフト 4 台導入、介護ベッド 10 台更新、給湯器 1 台を更新した。

‣エレベーター全 3 台の修繕を行った。令和 3 年度以降に全 3 台を更新する予定である。

‣簡易陰圧装置及び陰圧クリーンブース換気設備を 3 台導入した。

✦運営報告

【苦情・要望】

事故後のご家族への状況報告が、対応した職員により食い違っていたことから不信感を与えてしまい苦情となる事例が発生した。今後は対応ルールを整備して、「誤解」による苦情・要望の発生を防ぐよう努めていく。

【事故】

特別養護老人ホーム及び併設のショートステイで合わせて 7 件の骨折事故があった。うち施設の責に帰すべき事由による事故が 6 件となっている。今後はこれまでの分析や取り組みだけではなく、意識を変えていくことが必要である。事故防止委員会を通して努めていく。

ビデオカメラをフロア共用部に設置しているため、事故現場がカメラで捉えることのできる位置の場合は、映像をもとに検証することで事故の再発防止に役立てている。

3. 部門報告

(1) 神港園サニーライフ白川

- 看取りケアや認知症に対する理解について重点的なテーマに基づき研修の機会を持った。
  また、外部研修への参加ができない中、オンラインでのポジショニングの指導を受けるなど、各職員の技術や知識の向上に努めた。
- 利用者の状態、現状に則した福祉用具の適正管理を図るために、計画に基づいて低床ベッドやセンサーマット、リクライニング車椅子を導入した。
- 年間、延べ利用者数 17,911 人（前年 18,169 人）、稼働率 98.14%（前年 99.28%）となり、退去が続いた時の空床管理がスムーズに行えず、目標に届かなかった。
- 平均介護度が 4.17（前年 4.24）となり、前年比より僅かに低くなった。自身で車椅子を動かしたり歩行する方が増えて転倒のリスクが上がったり、外出の自粛続きで下肢筋力の低下が顕著となったため、転倒防止に注力した。

(2) 神港園ショートステイ白川

- 運営の安定化について、上期は稼働率の達成が困難な時期が続いたが、下期に入り営業の効果が出始め、年度末には目標を達成することができた。
- ご利用者ご家族との情報共有について、相談員の行うモニタリングとは異なる現場目線のモニタリングも共有して、ご利用者の生活の質や活動の質を上げていくことを行った。
- 接遇面の強化については、ご利用者に職員が笑顔で接することができるよう、毎日笑顔体操を行ったり、ご利用者に対するマナー意識を持つように取り組んだ。

(3) 神港園デイサービス白川

- 丁寧な介護と誠意ある対人援助を目指し、職員一人ひとりのサービスの質の向上を図るために、

理学療法士から安全、安楽な移動介助や移乗介助のレクチャーを受け実践した。接遇面の強化としてスローガンを掲示して一人ひとりが言葉遣いやご利用者に寄り添ったケアに取り組んだ。

- 多職種にて医療情報の共有と体調不良時などの迅速かつ適正な対応力の強化を図るために、医療情報について看護師を中心に共有し、異変を認めた時は早期の受診対応につなげた。身体的、精神的な変化があった際は随時、ご家族やケアマネジャーに報告するよう努めた。新型コロナウイルス感染症対策に関するイラストつきの案内を配布することで、安心感を得ることができたと好評だった。
- 個別機能訓練の充実による筋力維持とご利用者満足度の向上を図るために、理学療法士の勤務を週 5 日に調整し、新たなトレーニングマシン（ヒップアダクション）を追加し、充実した環境を整えることができた。ご利用者アンケートも例年通り満足度は全体的に高い評価を得ることができた。

　例年の冬季は、気温の低下やインフルエンザの懸念があり例年稼働率が低下するが、令和 2 年度は緊急事態宣言も重なって新規利用の獲得が伸び悩んだ。

(4)　神港園ホームヘルプ白川

- 新型コロナウイルス感染症予防のため、従来通り集合してのヘルパー研修を控え、個別でサービス提供責任者がご利用者宅で指導を行ったり、書面を通して問題提起をしたり、YouTube や Zoom などのオンラインを活用することで、個々のスキルが低下することがないように Web 研修を実施した。
- ニーズに応じて柔軟な対応ができるように新たな登録ヘルパーの採用を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用を控える利用者が多く、結果として数字に結び付けることができなかった。
- 登録ヘルパーによる支援内容の報告について、これまでは提供記録用紙、個別のメール、電話を利用していたが、介護ソフトの運用を令和 2 年 4 月から浸透させることができたため、事業所全体で確認できるようになった。

(5)　神港園白川ケアプランセンター

- 委員会等を通じて、サニーライフ白川の在宅事業所と相互にサービス提供や事業所間連携に関する話し合いを重ねることで、サービスの質の向上に努めた。
- 外部研修の実施がなかった為、事業所内でケアマネジメントに関する研修や事例検討を実施して事業所全体のスキルアップを図った。
- 通常は自宅を訪問して実施しているモニタリング等について、感染予防のために電話や書面で代替することが増えたため、状態やニーズの変化を把握することが従来よりも困難となった。

　しかし、感染予防のために不活発な生活を余儀なくされてしまった利用者に対しては、代替サービスの提案や調整により、望む生活の実現に向けて支援を行った。

(6)　白川あんしんすこやかセンター

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、「地域のコミュニティ」は縮小され、新たなコミュニティの立ち上げ支援は困難な状況であった。

  しかし、UR 住宅の見守りサービスの立ち上げイベントに参加して、センターの広報を行うことができた。

  また、集いの場も休止や縮小が余儀なくされるなか、3 つの民生児童委員協議会の代表者が集まり、地域ごとの取り組みや工夫を共有する場の開催ができた。
- 地域の集いの場 2 ケ所で、認知症声掛け練習会を開催することができたが、多世代に向けた活動は思うように行うことができなかった。ウィズコロナの時代は、フェイスシールドやアクリルボードなどを利用して感染症対策を行いながら、周知や啓発の工夫の必要性を強く感じた。
- 介護予防専任ケアマネジャーによるミーティングを毎月定期開催して、事例検討や振り返り、情報共有を行いスキルアップに努めることができた。オンラインによる研修会の参加も積極的に取り組んだ。

4. 施設委員会・プロジェクト

名称	開催頻度	主な参加者
事故防止検討委員会	月 1 回	幹部・生活相談員・施設ケアマネジャー・職責者・介護職員・看護職員・管理栄養士
身体拘束廃止委員会	月 1 回	幹部・生活相談員・施設ケアマネジャー・職責者・介護職員・看護職員
褥瘡予防対策委員会	月 1 回	幹部・生活相談員・施設ケアマネジャー・職責者・介護職員・看護職員・管理栄養士
安全衛生委員会	月 1 回	幹部・衛生管理者・生活相談員・施設ケアマネジャー・職責者・介護職員・看護職員
感染症予防対策委員会	年 4 回	幹部・生活相談員・施設ケアマネジャー・職責者・介護職員・看護職員・管理栄養士
スマイリング委員会	月 1 回	生活相談員・施設ケアマネジャー・職責者・介護職員
腰痛予防対策委員会	月 1 回	幹部・生活相談員・施設ケアマネジャー・職責者・介護職員・看護職員・機能訓練指導員
喀痰吸引などに関する安全委員会	年 4 回	施設ケアマネジャー・介護職員・看護職員・生活相談員
在宅向上委員会	月 1 回	幹部・地域包括支援センター職員・居宅ケアマネジャー・在宅介護職員・在宅生活相談員・サービス提供責任者

5. 施設行事

月	行　事
4 月	テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：お花見、昼食外出、喫茶外出）
5 月	テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：昼食外出、喫茶外出）
6 月	テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：ひまわりバザール、昼食外出、喫茶外出）
7 月	テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：観劇、昼食外出、喫茶外出）
8 月	夏のレクリエーション、テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：夏祭り、昼食外出、喫茶外出）
9 月	テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：敬老祝賀会、家族と職員の会、昼食外出、喫茶外出）
10 月	秋のレクリエーション、テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：運動会、昼食外出、喫茶外出）
11 月	もみじドライブ、テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：菊花展観覧、喫茶外出）
12 月	年忘れレクリエーション、テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：忘年会、餅つき）
1 月	新年のレクリエーション、テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：新年祝賀会、初詣）
2 月	テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ
3 月	各フロアでのおやつ作り、テイクアウトランチ、テイクアウトスィーツ （中止：ふれあいランチデー）

《運営理念》 自己決定を尊重した笑顔の発信地舞子

【6】さん舞子神港園

施設長　田中　宏幸

1．事業報告

令和２年度は、地域との関り、ご利用者、家族、職員の満足に視点を置き、「受容力の向上」を目指した。また、各職場および施設全体を「チーム」として機能させることで、職員が相互に機能補完し合える仕組みを構築、受容力向上をベースにしたより品質の高いサービスに繋げることで、競合との差別化を図った。

具体的には、主にご利用者関連の様々な課題を多職種間で迅速に共有、それぞれの視点を持ちあって協議、対応した。結果的に、より良いサービス提供を可能にし、地域における施設としての受容力、信頼性の向上に繋げた。

また、多職種連携でチーム一丸となった課題対応を継続する過程で職員間の関係性が改善し、離職率低下にも繋がった。

これら施策に基づく運営により、年間を通じて多くの事業で新型コロナウイルス感染症による収益圧迫が見られたものの、年度後半にはショートステイを中心にケアハウス、ホームヘルプ、包括で収益好転が見られた。

2．新型コロナウイルス感染症対策

いこいの家を含めた「舞子拠点」としての対策・協議を実施する事により、スタンダード化・効率化を行いながらの対策強化・実施に努める事が出来た。

事業毎のハード・ソフト面の違いはあれど、出来る範囲での統一均一化する事で「お互いに理解」しながら物事を進める事が出来る環境が整備され、新型コロナウイルス感染症対策だけではなく他の業務や課題解決に向け、舞子拠点の新たな一歩を踏み出したと思われる。

さん舞子神港園独自対策として、『持ち込まない』『広げない』を共通言語に水際対策強化に尽力した。新規受入れに伴う自主隔離対応、発生時を想定したゾーニングを含めた初動期対応シミュレーション、防護服着脱方法や消毒方法の訓練をマニュアルに沿って繰り返し行い、全職員に徹底し有事に備えた。平時からのシミュレーションの継続により、職員の感染対策への意識向上を形成した。

2．経営報告

（千円）

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	721,239	719,220	2,019
前年度決算	715,407	732,860	△17,453
前年差	5,831	△13,860	19,472

令和 2 年度は、対前年で増収増益を達成したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により事業運営環境は、年度当初の想定から大きく変化した。次項でそれを述べる。

情勢と取り組み

年度開始早々に、新型コロナウイルス感染症に関わる緊急事態宣言が発出されるという未曾有の社会環境でのスタートとなった。関わる影響は、年間を通じて多くの事業で収益を押し下げる要因となった。当初予算に対する実績でその変化を顕著に見ることができる。

		年間		第１四半期		第２四半期		第３四半期		第４四半期	
		当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
ケアハウス	延べ利用者数	2,323人	2,282人	2,306人	2,276人	2,349人	2,305人	2,347人	2,357人	2,289人	2,191人
	稼働率	*95.5%*	*93.8%*	*95.0%*	*93.8%*	*95.7%*	*94.0%*	*95.7%*	*96.1%*	*95.4%*	*91.2%*
ｼｮｰﾄｽﾃｲ	延べ利用者数	683人	636人	681人	530人	695人	612人	688人	710人	667人	690人
	稼働率	*102.0%*	*95.0%*	*102.0%*	*79.4%*	*103.0%*	*90.8%*	*102.0%*	*105.2%*	*101.0%*	*104.6%*
ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ	延べ利用者数	768人	706人	792人	673人	781人	747人	770人	731人	730人	671人
	稼働率	85.0%	78.0%	87.1%	74.0%	84.8%	81.1%	84.6%	80.3%	83.4%	76.6%
ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟ	利用者数	183人	166人	180人	161人	185人	164人	185人	171人	182人	166人
	利用回数	1,394人	1,282人	1,367人	1,201人	1,450人	1,326人	1,400人	1,302人	1,360人	1,297人
ケアﾌﾟﾗﾝセンター	ｹｱﾌﾟﾗﾝ	242	216	237	213	241	234	243	211	246	204
	受託	23	19	24	21	23	19	23	17	23	18
	認定調査	57	46	53	44	61	47	57	45	58	47
あんしんすこやか	予防	571	552	566	539	569	556	573	565	577	549
	（内）委託	72	66	70	71	72	66	73	65	73	63

各ＫＰＩ実績を見ると、ケアハウスは STAY HOM E によるレクリエーションや散歩などの施設外活動の制限、関連して推察されるＡＤＬ低下による転倒、骨折による入院増により年間を通じて苦戦した。この為、稼働率は対当初予算で第 3 四半期のみが好転という結果になった。

ショートステイは、稼働率が上期（第 1 四半期、第 2 四半期）に対し、下期（第 3 四半期、第 4 四半期）で劇的に改善した。これは年度当初、新型コロナウイルス感染症の影響もあり新規入居確保に苦戦したものの、いこいの家との連携強化および年度後半での多職種連携ブリーフィング（短く簡単に情報を伝えあう会議）によって情報共有が大幅に改善し、多様なケースへの対応が可能となったためである。

デイサービスは、新規受入れ調整、退院者の自宅待機、利用控え、更には要介護利用者の入所ケースも多く、当初予算時の想定稼働率に対し年間で△7.0%と大きく下回った。※資料編をご参照下さい

ホームヘルプは、感染予防対策に関わる調整などに追われる中、利用者数、利用回数ともに伸ばすことが出来なかった。

しかしながら、新領域として障がい者支援の身体介護が月平均利用回数で前年比 5 倍弱となり収益を押し上げた。※資料編をご参照下さい。

年間を通じて、半期以上に渡り欠員が続いたケアプランセンターは、新規依頼への対応が叶わず、ケアプラン数は当初想定に未達となった。

あんしんすこやかセンターは、当初想定した給付管理数を下回ったが、年間で 550 件以上の維持に努めた。

経費関連では、当初予算からの変化は人件費 1.8 百万円減、事業費 2.0 百万円減、事務費 2.2 百万円増、減価償却費 5.9 百万円増であったが、対前年では令和元年度から 2 年度にかけて人員配置適正化を計画通りに進行したことに加え、ＯＪＴや面談など施設での取組みが功を奏し、令和２年度離職率を8.2%に抑えた。これらにより人件費は19.7百万円の減少となった。

年度後半にかけて次年度以降への対応としては、懸案となっていた北館の設備修繕課題の多くを整備、職場環境改善を実現した。

主には、居室電気メーター更新 2.7 百万円、ケアコール更新 2.1 百万円（内 1.0 百万円は寄付）、給排水関連 1.8 百万円、セキュリティ強化関連 0.6 百万円などである。

懸念点として、運転資本の減少が一層進んでおり、前年から 25.7 百万円減、△48.4 百万円となっている。※貸借対照表をご参照下さい。

✦運営報告

【苦情・要望】

今年度は、職責者が講師役となり「被介護者体験型研修」を実施、「相手の立場に常に立つ」姿勢での業務対応を各職場に求め、その浸透を図った。

また、コロナ禍により面談が適わない中、ビデオ面談をはじめ施設での日常生活を切り取り、写真や映像でこまめに情報発信することで、家族の安心感を得ることが出来た。

ショートステイにおいては、利用者アンケートを実施、施設での過ごし方について細かなニーズに対応することで、利用者家族との相互信頼関係を構築し、苦情、要望の減少を実現した。

【事故】

フロア等の共用部にビデオカメラを設置することで、カメラ設置部での事故発生時には必ずビデオ検証を実施する事が出来た。これにより、事実ベースでの検証が可能となり、また、検証を発生部門全体で行うことで事実に基づいた気付きを共有、各職員の知恵と工夫による再発防止策を具体的に協議検討した。環境整備によってこのプロセスを得たことで効果的な事故防止対応を実現出来た。

3．部門報告

(1) ケアハウス さん舞子神港園

【生活相談員】

① 安定した稼働率の確保 目標 95.5%

新型コロナウイルス感染症の影響により、新入居の調整等がスムーズに進まない部分があった。

また、全体的な認知症状の進行や身体機能・下肢筋力の低下がみられ、バランスを崩しての転倒や尻もちの件数も増え、入院が立て続けにあった。入院者が重なることで稼働率が伸び悩む時期が続き、年間稼働は 93.8%となった。

② 多職種連携による細かな情報共有とタイムリーな家族への相談連絡

日々の状態や様子等、小さな変化に対しても多職種連携で対策を考える等、随時、情報の

共有を行うことで早期発見・対応に努めることが出来た。

また、それに伴っての状態の報告や受診等、家族への相談連絡もこまめに行い、フォロー体制の構築を実現した。

③ 目に見える入居者・家族の満足度の向上

新型コロナウイルス感染症の影響により、面会の中止・制限をかけて（シート越し）の面会、オンライン(LINE ビデオ通話)の活用等での対応となったが、家族の要望には応えることが出来た。ネットワーク環境の改善を求められるご家族が数組あった為、今後は軽快なネットワーク環境を整備すべく対応していく。

また、写真や動画などで状態や様子等を伝えていくよう、これまで以上に ICT を活用していきたい。

【介護部門】

① 安定した人材の定着化・介護スキルアップによる受容力の向上

働きやすい職場をめざし、人事考課・OJT 制度を通して分からない事をそのままにせず、聞きやすい環境作りを図った。ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組み、勤務調整により職員全員が計画休暇を取得出来た。これらの取組みにより離職率を低く抑える事が出来た。

個々のスキルアップでは、コロナ禍の為、施設外研修には参加出来なかったが、施設内研修は開催する事が出来た。来年度は、リモート研修に積極的に参加するようにしたい。

② 認知症の方への対応力・接遇面の向上

認知症高齢者に一律に関わるのではなく、本人の意思を尊重した言葉掛けや対応を心掛ける事を大切にした。同じ訴えが続く入居者にも否定せず傾聴し、安心できる対応を行った。明るい笑顔とわかり易い言葉、表情で会話する事を心掛け、本人の希望に沿った介護を提供し、居心地の良い場所となるよう支援を行った。

③ 介護現場内の連携強化とコミュニケーションの質の向上

他職種との情報を密に取るため、全ての記録を介護記録システム「ちょうじゅ」に入力し、タイムリーな情報共有を行った。入居者の情報共有のため、報・連・相をしっかり行い、入居者の立場になって、「ゆとり」を持った行動、五感を活かすコミュニケーション能力の向上に努めた。

【看護部門】

① 医療情報などを家族や他職種へ必要時提供し健康の維持に努める

入居者の体調の変化、受診・往診結果、ケアの変更など新型コロナウイルス感染症の影響で面会が出来ない中、小まめにご家族に連絡を行い、時にはベランダの窓越しからの面会も行った。

多職種連携では、重要な申し送りについて、その内容に応じた期間中、情報共有を継続した。

業務改革により、各フロアへのラウンド時間を確保して会話機会を増やし、情報共有やミニカンファ

レンスを行った。入居者の状態を毎日継続して観察していくため、看護日誌を看護師だけの記録に変更し、チーム全体での観察事項や情報の共有を行った。

② 感染症予防を強化し入院など重度化を予防する

COVID－19 の理解と感染対策の実施に力を注いだ。看護協会の感染専門看護師に相談し、ウイルスに関わる知識の勉強と業務での感染対策、介護士への指導、注意喚起による周知徹底を図った。

③ 生活リハビリを通して機能の維持に努める

生活リハビリにおいては、フロアの集団体操の時間やトイレ誘導時など、入居者のADLを把握し、担当介護職員と相談しながら個別機能訓練計画を立案して、見直しを行った。入居者自身の思いを傾聴し、楽しみを一緒に考え実行することで生活機能の維持に努めた。

(2) さん舞子神港園ショートステイ

【生活相談員】

① 職員間の連携強化を図り情報共有を徹底

ショートステイ長期利用者の情報共有会議の定期的開催により、情報の共有及び他職種協働支援が出来た結果、インシデント事例の対前年減を実現した。

② 常に利用者の心身状態、環境の明確な把握に努め相談には適切に応じる

担当ケアマネジャー、ご家族からの情報収集により介護・看護と連携して現状把握し、その都度適切・丁寧に相談に応じた結果、苦情事例の対前年減を実現した。

③ 人権と意思を尊重し、介護に携わる職業であることに誇りを持ち、働きがいのある職場を目指す

常に利用者の皆様の人権と意思を尊重し、笑顔と傾聴・挨拶を心掛け、誠意を持って自立支援が出来る職場づくりに努めた結果、チームとして安定稼働率確保への土台形成が出来た

【介護部門】

① 安心し楽しみの見つかる入居生活の提供と利用者の更なる満足度の向上

コロナ禍において第 1 四半期、第２四半期の稼働率は 100%に届かず、新規利用者へのアンケートによる聞き取りを行い、職員一同丁寧な対応とコミュニケーション向上に努めた。

9 月には、近隣で新型コロナウイルス感染症の感染が発生し、2 週間新規利用を中止した影響があったものの、第 3 四半期以降、多職種連携強化・情報共有強化により、下半期は平均104%を上回る安定した稼働確保を実現した。

② 事故防止対策強化と水平感染予防のさらなる強化で安心安楽なサービス提供

新型コロナウイルス感染症防止対策として、新規利用者の自主隔離対応を行ったが、見守り困難なケースもあり、車いすからのずり落ち・立ち上がり転倒があった。居室変更、センサーマット設置、

居室入口にビニールシートを設置して扉を開け、見守り可能な環境整備を行った。

また、自主隔離困難時は、感染対策会議にて各利用者に応じた自主隔離方法を多職種で検討し実施した。今後も各利用者に合った自主隔離を行うと共に徹底した感染予防に努める。

感染防止対策で食卓席にアクリル板を設置したことで、見守り難く事故リスクが高まった。下肢筋力低下が見られる利用者は、職員の見守りが出来るセンター前の食卓席に誘導するなど、着席位置の工夫を行った。

コロナ禍においても『おやつクラブ』は実施したが、利用者と一緒に料理をする事が出来ない状況が続いた。楽しみが少なくなった分、職員が嗜好を聞き取り、季節感を盛り込み利用者が食べたいおやつを作る様に工夫した。

また、大人数でのレクリエーションは中止し、個別レクリエーションや体操を取り入れ懐かしの歌のレクリエーションも実施した。

(3) さん舞子神港園デイサービスセンター

【生活相談員】

① 利用者満足度の向上に取り組み、安定した稼働率を維持する　85.0%

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発出されたことも影響し、4 月 5 月は新規利用者がいなかった。1 か月以上の利用控えをするケース、新規利用時の利用前体調確認期間、入院者の退院後自宅待機期間を設けることで、利用者数が前年度に比べ減少した。加えて、要介護者の施設入所ケースも多く、12 月～2 月は新規依頼自体も少なかった。これらにより目標稼働率は未達となった。

② 重度者の受入れ促進と、安全・衛生対策強化

受容力の向上を果たすべく、要介護 4 以上の利用者や医療ニーズのある方などの受け入れも進めたが、現場職員はスムーズに対応できた。平均介護度が『1.3』と低い分、動きの多い室内では転倒リスクが高くなるが、モニタリングシステムを活用した映像による行動分析や、基づく環境整備を行うことで大きな事故の発生を予防できた。

また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底することで感染が発生することはなく、営業の中止もなかった。

③ 拠点内各事業および法人内各デイサービスとの連携強化

在宅向上委員会では、関係性の構築や利用者満足度向上のための話し合いを進めた。

また、消防避難訓練の拠点内合同実施や感染症対策委員会への参加等によって、多職種との連携を図ることができた。感染症対策により、年間を通じてデイサービス部会がリモート開催となったが、令和 3 年度介護報酬改定に向けた情報共有ができた。

【介護・看護部門】

① 職員の役割分担の明確化、責任性の自覚による連携向上

職員の役割分担については、明確化できていたが個人差が大きかったため、その人その人に合わせた業務分担を行った。結果、職員間の連携が取り易くなった。

また、責任性を十分に発揮できた職員もおり、連携向上に繋がっている。

② 利用者の立場にたったサービスの提供

今年度は、新型コロナウイルス感染症によりサービス提供に大きな制限があった。一時期、感染症回避のため休まれる方が多い時期もあったが、なんとか感染者を出さずに一年を終える事ができた。制限がある中でも工夫してサービスを提供したこと、感染予防対策を徹底したことが今に繋がっている。

③ リスクマネジメント強化と対策、周知徹底

今年度は送迎中の車両事故が多く、伴う修理関連コストが多額になった。各自が安全第一を意識し、慎重な送迎を心がける事が必要。今後、徹底する。

その他の事故、ヒヤリについては、ビデオを見ることでより詳しい状況を把握することができ、具体的な対策検討時の参考になった。

再発防止については、各自が同じ事故を繰り返さないという意識が必要だと考えさせられた。周知徹底を図る。

(4) さん舞子神港園ホームヘルプセンター

① 職員及び登録ヘルパーのスキル向上

新型コロナウイルス感染症対策のため、集合ヘルパー研修は殆ど実施できなかった。この為、書面研修、個別の同行研修で指導を行った。今後はＷＥＢを活用した研修も行っていきたい。

② 法人内外の多職種との連携を図り、ニーズに合ったサービス提供を実施

事業所内でサービス内容についてその都度意見交換し、サービス提供上の疑問点についても解消出来るようにした。必要に応じて、法人内外のケアマネジャーや家族等と連携を取り、変化に応じたニーズを確認しサービスの変更に繋げていく事が出来た。

③ コスト意識を持ち仕事の効率化を図る

サービス提供責任者の活動時間削減による仕事の効率化を目指し、職員間で声を掛け合ったが、感染予防対策による調整や突発的な事も多く、想定通りには進まなかった。

(5) 神港園舞子ケアプランセンター

① 相談援助者として多様なケースに対応できるよう専門職としてのスキルを高める

相談援助者として多様なケースに対応できる技術を高めるため、倫理、法令、ケアマネジメントの実践、疾患について事業所内で研修を実施し、特定事業所としての質の向上、ケアマネジャーとしての実践力向上を図った。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、他の専門職との連携については制限があったが、ガン末

期の利用者支援を行いターミナル加算の算定を行った。

② インフォーマルな社会資源を発掘し多角的な視点で利用者支援を行う

新型コロナウイルス感染症拡大のため、地域との関わりを制限する必要があり、社会資源の発掘に携わることが難しかった。

しかしながら、各々のケアマネジャーはケアプラン作成において、インフォーマルな支援も視野に入れて包括的ケアを重要視し支援を行った。

③ 拠点内事業所との連携、アドバイザー機能を果たし受容力の向上に努める

在宅向上委員会において、事例検討や振り返りを行い、拠点内事業所の受容力の向上を図った。

特に下期は、ショートステイとの連携をとることで、ショートステイの稼働率確保にもつながった。

④ 月平均管理プラン数目標 介護：242 件 介護予防：23 件

令和 2 年度の半数強にわたり欠員状態が続いたため、新規依頼に対応出来ず目標達成出来なかった。

要介護 215 件 要支援 18 件

(6) 舞子あんしんすこやかセンター

① 認知症施策の推進（金銭管理が困難なケースに対する社会資源の整理・広報、これまでにない拠点や対象者への認知症高齢者見守り訓練や認知症サポーター養成講座の実施）

地域に出向いた際、神戸市が推進する認知症施策「神戸モデル」の普及・啓発の広報に努めた。個別の対応時には、早期受診を含めた普及・啓発活動を行った。

② 個別（典型）事例を交えた地域ケア会議を開催し、解決に向けたネットワークを構築

個別事例を含む地域ケア会議を開催した。

③ 自立支援・重度化防止のためのフレイル予防の普及啓発（オーラルフレイル含め）

④ 地域全体の医療・介護・保健分野から地域住民まで幅広いネットワークを作り、そこで暮らす高齢者の問題解決や調整に臨む

フレイル予防の普及・啓発及び地域住民が主体となるまち歩きのフレイル予防対策の基礎が出来た。

⑤ 介護予防等月平均管理プラン数目標 直轄：499 件 外部委託：72 件

給付管理数の 550 件以上の維持に努め、年間平均でこれを達成した。

(7) 栄養部門

① ちょうじゅ（介護記録システム）を活用して情報共有を行った。

② 非常食訓練を実施し、非常時の食事提供について周知できた。新型コロナウイルス感染症発生時の食事の受け渡し訓練も実施し、有事に対する備えを整えた。

③ コロナ禍にあり、フロア間の交流を避け、密にならない方法で行事食の提供や喫茶を実施し、食事の満足度を維持できるように努めた。

(8) 事務部門

① 経理管理・予算執行一覧を作成し、予算執行状況の把握を可能にした。
会計監査人からの指摘事項を改善し、適切な処理ができた。

② 職員と適切なコミュニケーションを図り、業務効率化、改善を進めた。

③ 業者より情報を得て、経費削減を実行した。

4. 施設委員会・プロジェクト

名 称	開催頻度	主な参加者
在宅向上委員会	月１回	管理者、各生活相談員、各職責者
安全衛生推進委員会	月１回	管理者、生活相談員、職責者、担当者
事故防止検討委員会（各部署）	月１回	管理者、生活相談員、職責者、職員
入居検討委員会	月１回	管理者、生活相談員、職責者、
接遇マナー・プライバシー向上委員会	月１回	職責者、各部門担当職員
感染症対策委員会	年 20 回 臨時	管理者、生活相談員、職責者、栄養士
災害対策委員会	年３回	管理者、生活相談員、担当者、栄養士
虐待防止・身体拘束廃止委員会	年４回	管理者、生活相談員、職責者、担当者
事故防止対策委員会	年６回	管理者、生活相談員、職責者、 担当者、

5. 施設行事

月	行 事
４月	たこやき実演デー（北３Ｆ・南館） お花見 串カツデー（デイサービス）
５月	ふれあいランチ お好み焼き＆焼きそば（北１Ｆ・２Ｆ） ふれあい喫茶
６月	ふれあいランチ お好み焼き＆焼きそば（北３Ｆ・南館） 粉もんパーティ（デイサービス）
７月	夏祭り 七夕おやつ会
８月	ふれあいランチ（北１Ｆ・２Ｆ）

９月	敬老祝賀会
10 月	ＧＯ　ＴＯ舞子浜(外出行事)　おやつクラブ　運動会（デイサービス）
11 月	たこやき実演デー（北１Ｆ・２Ｆ）　ふれあい喫茶
12 月	年忘れ昼食会　クリスマス会（デイサービス）
１月	お茶会　おせち料理　ふるまいぜんざい　新年祝賀会
２月	にぎり寿司デー（北３Ｆ・南館）　節分（デイサービス）
３月	にぎり寿司デー(北１Ｆ・２Ｆ)　法人 70 周年プレミアムランチ（南館） ふれあい喫茶
	年 10 回　おやつクラブ（ショートステイ）

《運営理念》 みんなが笑顔で集う舞子の家

【7】さん舞子神港園いこいの家

施設長　田中　宏幸

1. 事業報告

令和 2 年度については、「職員のベクトルを 1 つ」にする事を目標とし、連携強化や職員モチベーション向上の為に「全職員共通」「明確」「実現可能」な以下 5 つの「職員宣言」を取り入れた。

① 私たちは「チーム」で援助を行います
② 人任せにせずに、最後まで責任をもって取り組みます
③ 報告・連絡・相談を確実にします
④ 自分が受けたいと思えるようなケアを行います
⑤ 笑顔で始まり笑顔でおわります

意識の統一を実施する事で、マンツーマンケアを基本とするユニット型施設においても、個々の職員の援助のムラや独自ケア発生の抑制はもとより、職員全員が一つのチームとして働ける環境の土台を築く事が出来、結果的には職員のモチベーション向上、ひいては離職防止を図る事が出来た。

2. 新型コロナウイルス感染症対策

ケアハウスを含めた「舞子拠点」としての対策・協議を実施する事により、スタンダード化・効率化を行いながらの対策強化・実施に努める事が出来た。

事業毎のハード・ソフト面の違いはあれど、出来る範囲での統一均一化する事で「お互いに理解」しながら物事を進める事が出来る環境が整備され、新型コロナウイルス感染症対策だけではなく他の業務や課題解決に向け、舞子拠点の新たな一歩を踏み出したと思われる。

2. 経営報告

（千円）

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	272,113	270,471	1,641
前年度決算	271,612	275,994	△4,381
前年差	501	△5,523	6,024

情勢と取り組み

4 月のスタート時期においては新型コロナウイルス感染症の影響による、新規入居者の確保に苦慮し、稼働率が低調であったが、ショートステイとの連携強化等対策により、年間平均 98.4%の稼働で着地する事が出来た。

しかしながら、下半期に看護師の配置が定着せず、個別機能訓練加算の取得が出来なかった事により、収入面においては昨年度に対して約 50 万円の微増に留まる形となった。

支出面においては、年間通じて新型コロナウイルス感染症対策費用が重しとなり「保健衛生費」「消耗品費」を中心とした支出が増加。

また、開設時より使用していた家電製品や通信設備の老朽化・故障が相次ぎ、支出の増加が目立った。

全体的な影響が一番大きかったのが「職員離職減による人材紹介料の大幅削減」であったと思われる。「職員配置定数」では無く、「必要マンパワーに合わせた職員配置」を柔軟に実施する事や、職員のモチベーション向上策の実施による施設活性化に努めると共に、「今を見直す」を合言葉に「無理」「ムラ」「無駄」を無くす事による残業削減を本格化。 結果的に、職員の延べ配置数は増加したが年間の人件費累計は約 270 万円減少する形となった。

✦運営報告

【苦情・要望】

苦情要望については「被介護者体験型研修」の実施により「相手の立場に常に立つ」姿勢での業務対応が行える基盤作りに努めた。また、ルールやマニュアルの整備を実施し「統一したケア」を行う事によって、入居者・家族の混乱・勘違いの軽減に努める事で「誤解」による苦情・要望の発生を防ぐ事が出来た。

【事故】

フロア等の共用部にはビデオカメラが設置されている為、カメラ設置部での事故発生時には必ずビデオ検証を実施する事で「想像」では無く「実際に起きた事」にポイントを当て、事故再発防止策の策定を実施。

また、記録ミス等の人的ミスでの事故に対しては、記録書式の変更や集約を実施し、人的ミスが起こりにくい環境を整えた。

3. 部門報告

(1) 特別養護老人ホーム

コロナ自粛で各種制限が行われる中においても、「コロナ禍でも出来る事」を合言葉に柔軟なケアの実施に努める事で、サービスの質の維持・向上に努めた。

委員会活動による基準・マニュアルの作成、会議・研修による作成物の周知を継続的に実施。「明確な基準」による判断・対応が、職員の「熟練度・経験」に頼ることなく実施出来るインフラ作りを行った。

運営面においては、さん舞子ショートステイを中心に拠点内・外部との連携をタイムリーに取り、退去者発生時に円滑な入居実施に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響や近隣施設の開設に伴い、稼働目標数値は未達成（目標 98.6⇒結果 98.4%）で終えた。

待機者の確保が大きな課題として残る為に、新たな連携先の開拓と広報等活動強化に努めたい。

(2) サン舞子マンション

各入居者に対しての日常支援・相談を実施し、信頼関係構築に努めると共に居宅・包括に対しての代弁者役割を努める事でニーズと介護サービスのマッチングに努めた。

4. 施設委員会・プロジェクト

名称	開催頻度	主な参加者
事業運営会議	月１回	幹部・生活相談員・各職責者
安全衛生推進委員会	月１回	
リーダー会議	月１回	
入居検討委員会	月１回	
事故防止検討委員会（ユニット）	月１回	幹部・生活相談員・各職責者・ユニット職員
事故防止検討委員会（施設全体）	年２回	幹部・生活相談員・各職責者・看護師・栄養士
身体拘束・虐待防止委員会	年４回	
感染症対策委員会・褥瘡予防委員会	年４回	
防災委員会	年２回	
食事検討委員会	月１回	幹部・栄養士
在宅向上委員会(ケアハウス合同)	月１回	幹部・生活相談員

5. 施設行事

月	行　事
４月	お花見
５月	皐月晴れ喫茶（茶会）
６月	
７月	夏祭り

8 月	
9 月	敬老祝賀会
10 月	
11 月	
12 月	クリスマス会
1 月	獅子舞、新年茶会
2 月	豆まき
3 月	
	生花クラブ(月 1 回)・書道クラブ(月 1 回)・居酒屋(月 1 回)

《運営理念》 利用者が明るく、心豊かに暮らせる場を提供し、社会貢献に取り組み地域からの信頼を得る。

【8】 神港園 レインボー西宮

施設長　金谷 泰明

1. 事業報告

令和２年度、レインボー西宮は神港園グループとして２年目を迎え、法人ルール（各種規程規則等）の統一、人事制度の統合、雇用形態の変更等を実施し、神港園として本格的な第一歩を踏み出すべくスタートした。

具体策として、「神港園スタンダード」の落とし込みに注力し、新組織体制における役割の明確化、収益改善に向けてグループホーム、デイサービスの改革、5S 運動の推進、ワーク・ライフ・バランスを意識した職場環境の整備を行い、重点的に職員の定着率向上に取り組んだ。

しかしながら、年初からの新型コロナウイルス感染症の全国的な広がりを受け、緊急事態宣言が発令され、活動制限や利用者数の制限等でデイサービスの利用者減少が続き、当初計画を変更せざるを得ない状況に陥った。

そのような中、８月に施設内で新型コロナウイルス感染症が発生し、デイサービスの３事業所が３週間の休業を余儀なくされ、収益減はもとより職員の業務負担増等、施設全体で大きなダメージを受けた。

下半期においては、感染予防対策を最重点課題とした上で収益確保に向け重点活動に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の蔓延は収束せず、感染予防に関わる経費増加もあり、収益の下振れを招いた。

11 月に外国人１名（特定技能実習生）を受入れた。グループホームへの配属であったが、コミュニケーション能力も高く、しっかり戦力として活動している。追加で 3 名の受け入れ予定であるが、入国時期が未定となり一旦白紙となっている。

＊「神港園スタンダード」の浸透

法人ルールの一本化に向けて各規程規則の周知徹底を行う。戸惑うことも多かったが、都度々指導することでようやく定着しつつある。

また、実務的連携に留まらず、神港園の歴史ある風土と西宮拠点の融合を図り、品位ある施設の構築に努めた。

＊新組織体制における役割の明確化

神港園型組織に再編し、上席者の役割を明確化するとともにリーダーの育成に努めた。

＊収益改善に向けてグループホーム、デイサービスの改革

グループホームは満室であったが、新型コロナウイルス感染症により 3 名が逝去され、その後満室には至っていない。

デイサービスについては、各事業ともに利用者の自粛により稼働率の低下が顕著となった。加えて相談員による営業活動は感染症の影響で制限があり、新規登録者獲得が進まず。

放課後等デイサービスについては、クラスター発生により、酒蔵通での定員 5 名での仮営業を余儀なくされ、収益の悪化を招いた。

＊5S 運動の推進・WLB（ワーク・ライフ・バランス）を意識した職場環境の整備

新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により感染予防対策に伴う業務の増加、感染職員の代替業務の増加等で職員の業務負担が急増した。特にグループホームの職員への負荷が大きく、感染症収束後の離職に繋がり人材不足に陥ったが、年明けに建て直すことができた。集合研修等が開催できない状況下にあり、職場環境の整備は道半ばである。

2. 新型コロナウイルス感染症対策

① 施設内環境対策

1・2 階共用部、エレベーター、放課後等デイサービスフロアにナノゾーンコート加工（光触媒酸化チタン加工）を施した。デイサービス、事務所、会議室、ライブラリーには、飛沫防止アクリル板を設置した。各フロアにプロケア噴霧器を設置した。

また、定期的に換気とフロアマット・ドアノブ・手すり・介護用品等の消毒を行った。

② 職員感染症対策

出勤時の検温、手洗い、手指消毒の徹底を行い、勤務時間内は不識布マスクの着用を義務付けた。介護職は、毎日体調管理表の記入を行い、介助時はフェイスガードの着用を義務付けた。

③ 利用者感染症対策

デイサービス送迎時の体温チェックを徹底し、37.5℃以上の発熱がある利用者を利用禁止とした。利用時の常時マスク着用をお願いし、対応が困難な認知症利用者については、距離を取って過ごして頂く等の対応を行った。外出レクリエーション、地域交流会等は中止した。

④ 来館者感染症対策

来館時の検温、体調管理表の記入をお願いし、フロア内への入室は禁止した。グループホームの面会はオンライン対応とした。ボランティア活動、音楽療法等は中止とした。

⑤ 感染症対策備品

万一感染症が発生した場合に備え、部門ごとに防護服・NS95 マスク・フェイスシールド・キャップ・手袋・消毒液等を配備した。

2. 経営報告

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	219,071	241,233	△22,162
前年度決算	230,211	241,555	△11,344
前年差	△11,140	△322	△10,818

情勢と取り組み

サービス活動収益

新型コロナウイルス感染症の影響により全事業において稼働率が大きく低下した。クラスター発生による休業も大きなダメージであり、特に影響を受けたデイサービス 3 事業（一般・認知症対応型・放課後等）は稼働率が前年比 30%以上の低下となった。再三の緊急事態宣言のため利用者数制限や利用者の自粛、外部営業活動の自粛等も悪化要因となる。また、12 月にデイサービスのサービス提供時間に関する錯誤が明らかになったため、西宮市と相談して、平成 31 年 4 月から令和 2 年 11 月までの期間について、1,400 千円の過誤申請を行なった。
今後も運営基準等の遵守を徹底したうえで、利用者に選ばれるサービスの提供を行なっていく。

サービス活動費用

感染予防のための設備・物品調達コストが増大した。施設内のゾーニングのためのビニールカーテン、アクリル板設置や光触媒酸化チタンコーティング、消毒液、マスク等の購入や非常事態用の感染対策備品設置を行った。加えて築 10 年を過ぎ、エレベーターや外壁の修理、居室内の設備交換等の費用がかさんだ。

人件費についても、クラスター発生後に職員が疲弊し、離職につながったこともあり、補充のための人材紹介料や派遣経費が増加した。

✦運営報告

【苦情・要望】

苦情・要望については利用者・ご家族とのコミュニケーション不足に起因するものが多かった。事前の説明不足、ご家族への連絡漏れ等が苦情に繋がっている。苦情発生時にしっかりと事実確認を行い、相手が何を望んでいるのか、何に不満を持っているのかを確認し、適切な対応ができるよう指導している。

また、起こった事象の情報共有を行い、職員全員が課題を共有し、同様の問題が起きないようルールの徹底、マニュアルの整備を行った。

【事故】

事故分析会議を定期的に実施し事故内容、発生時間帯、発生要因を分析して、事故防止に努めている。

件数では転倒事故が多く、他の入居者や利用者の介助をおこなっている際に発生している。職員配置を改善したり、転倒リスクの高い入居者の見守り強化等を進め、全職員が同様の危機感を持って介助にあたるよう取り組んでいる。

3. 部門報告

① 居宅介護支援事業所

2 名体制を確立すべく活動を行い、ほぼ計画通り推移した。酒蔵通との連携を深め、入居者情

報の共有によりケアの強化を図った。早期に利用者数を最大化し、収益の向上を図る。

② ホームヘルプ

人員体制を整え、収益は計画比 104%を達成した。新型コロナウイルス感染症の影響で行動制限が続き、西館入居者の疾患が重篤化している。介護スキルのレベルアップが必要であるが、集合研修の自粛により OJT のみに止まった。

③ 地域密着型デイサービス

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、平均稼働率が前年比△26.4%と大きく落ち込んだ。8 月の休業期間含め、緊急事態宣言下の利用制限、利用自粛、地域包括支援センターへの訪問自粛等がマイナス要因となった。

④ 認知症対応型デイサービス

地域密着型デイサービス同様、稼働率低下により収益はマイナス。外出自粛により、利用者の日常生活動作能力（ADL）の低下が著しく、機能訓練やレクリエーションによる機能回復に努めた。

⑤ 放課後等デイサービス

8 月のクラスター発生後 1 ヶ月の休業を経て、保護者の不安を取り除くためにレインボー酒蔵通に場所を移し、定員を 10 名から 5 名に減らして営業を行った。結局 3 月中旬まで、西宮に戻れず定員減少により大きく収益が減少した。

⑥ グループホーム

新型コロナウイルス感染症で 3 名の入居者が逝去され、8-9 月は退居も含め 4 室が空室となった。亡くなった入居者のご家族のフォローをしっかり行った後、居室を整備し空室期間の短縮に努めるべく活動を行った。年明けにも看取り、疾患で 2 名が逝去するなどして満室に至っていない。（3 月末現在空室 2）

また、クラスター発生時からの業務過多で職員が疲弊し、離職が相次いだ。職員の補充を行い適正配置に戻し、ワーク・ライフ・バランス（WLB）の推進により職員の定着を図っていく。

4. 施設委員会・プロジェクト

名称	開催頻度	主な参加者
安全衛生委員会	月 1 回	施設長・産業医・衛生管理者・委員会メンバー
感染症対策委員会	月 1 回	施設長・産業医・衛生管理者・看護士・厨房職員・委員会メンバー
虐待防止委員会	月 1 回	施設長・衛生管理者・委員会メンバー
身体拘束等適正化委員会	2 ヶ月ごと 1 回	施設長・グループホーム管理者・リーダー・看護士
行事委員会	月 1 回	施設長・委員会メンバー

5. 施設行事

月	行　事
4 月	地域・ボランティア交流会　中止
5 月	こども祭り　中止
6 月	
7 月	防災訓練
8 月	納涼祭　中止
9 月	秋祭り・敬老祝賀会　秋祭り中止・敬老祝賀会部門単位で実施
10 月	
11 月	介護の日イベント　中止
12 月	クリスマス会・餅つき大会　クリスマス会部門単位で実施、餅つき大会屋上で施設のみで実施
1 月	防災訓練
2 月	節分　部門単位で実施
3 月	ひな祭り　部門単位で実施
その他	園芸療法（毎週金曜日）・音楽の集い（休止）

《運営理念》入居者が明るく心豊かに暮らせる場を提供し、社会貢献に取り組み地域からの信頼を得る

【9】 神港園　レインボー酒蔵通

施設長　金谷　泰明

1. 事業報告

入居に関しては、比較的新型コロナウイルス感染症の影響を受けなかった。入居率は、西館が 94%本館は 80%で推移した。入居率アップのため病院、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等への訪問活動が制限され思うような活動ができなかったが、紹介会社や西宮市の地域情報誌を通じての問い合わせが多かった。

苦情の多かったホームヘルプ事業ついては、前年 11 月に外部委託から自社事業に切り替え、順調に活動数を伸ばした。入居者やご家族の満足度向上の為、アンケートの実施や対話の機会を設ける等の活動を行った。

ホームヘルプ事業の収支は、西宮の社会福祉事業に含まれるが、サービス付き高齢者向け住宅として一体感を持った運営を目指した。ヘルパー職員と本館職員がスタッフ会議等を通じて入居者の情報を共有し、役割分担を明確にして入居者満足を高めるよう活動を行った。

緊急事態宣言発令の為、西館の外出制限や面会禁止措置が続いたことで、入居者の日常生活動作能力(ADL)の低下や疾患が重篤化する傾向がみられた。ホームヘルプでの活動を強化し、対応に努めた。本館においてもイベントやボランティア活動の中止を余儀なくされ、入居者に我慢を強いる事となった。

収益については、前年から大きく伸ばすことができたが、感染症対策に係る経費増、本館が築 10 年以上経過したことによる備え付けの備品の修理や建物の補修に予定外の費用が発生した。

2. 新型コロナウイルス感染症対策

① 施設内環境対策

1F 共用部、エレベーター、リビング、事務所にナノゾーンコート加工（光触媒酸化チタンコーティング）を施した。リビング、応接室、多目的室、事務所に飛沫防止アクリル板を設置した。各フロア主要部にプロケア噴霧器を設置した。また、定期的な換気と共用設備の消毒を行った。

② 職員感染症対策

出勤時の検温、手洗い、手指消毒の徹底を行い、勤務時間内は不織布マスクの着用を義務付けた。

③ 入居者感染症対策

リビング入室時の手洗いと検温を実施し、食事提供を居室配膳中心に変更した。西館入居者に対して買物同行の中止、家族面会のオンライン化、通院・デイサービス以外の外出禁止措置をとった。

④ 来館者感染症対策

来館時の検温と体調管理表の記入をお願いし、居室フロアへの立ち入りを制限した。西館の面会はオンライン対応とした。

⑤ 感染症対策備品

万一感染症が発生した場合に備え、防護服・NS95 マスク・フェイスシールド・キャップ・手袋・消毒液等を配備した。

2. 経営報告

（千円）

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	72,403	84,360	△11,957
前年度決算	65,389	65,979	△590
前年差	7,014	18,381	△11,367

情勢と取り組み

サービス活動収益

入居率を大幅アップさせ、前年から大きく伸長させることができた。

しかし、昨年度決算において事業未収金の処理ミスが判明し、公益 7,367 千円、収益 1,104 千円、合計 8,471 千円の重複があり、今期の収益と相殺処理が行われた。

また、スマイル倶楽部酒蔵通事業中止に伴い日本パートナーズの加盟金とその他経費 2,600 千円を差入保証金から経費に振替処理が行われた。そのため、サービス活動増減差額がマイナスとなっている。サービス活動外収益として駐車場・ドコモアンテナ、テナント家賃で 4,585 千円が計上されている。

サービス活動費用

感染予防のための設備・物品調達コストが増大した。施設内の光触媒酸化チタンコーティング、飛沫防止のアクリル板設置、消毒薬、マスク、体温計等の購入や非常事態用の感染症対策備品設置を行った。加えて築 10 年が過ぎ、エレベーターや外壁の修理、居室内の設備交換（トイレ・給湯設備等）の費用がかさんだ。

3. 部門報告

サービス付き高齢者向け住宅　神港園レインボー酒蔵通

入居率は、本館 80%、西館 94%以上をキープし、昨年度からは大きく伸長した。（本館＋5%、西館＋38%）

新型コロナウイルス感染症予防対策のため各種イベント、ボランティア活動等を中止したことで、入居者のストレス増加を招いた。

西館においては、外出制限、家族面会のオンライン化が続いており、日常生活動作能力（ADL）の低下や疾患の重篤化、認知症の進行がみられた。ホームヘルプによる見守り強化、介護度合に合わせたサービス体制の強化を実施した。

入居者の募集については、外部営業はできなかったが、紹介会社、西宮地域情報誌からの問い合わせが増えている。入居希望者との面談により、自立棟であることを前提に入居可能かの判断を行っている。

西館においては、ほぼ満室で推移している。昨年立ち上げたホームヘルプサービスが順調に稼働し、入居者満足が向上して入居率を一気に伸ばすことができた。ホームヘルプの人員体制を確立できた事でよりよいサービス提供につながっている。

今後は、入居者の疾患の重篤化に対応するため、介護スキルのレベルアップが必須となり、看護師による指導や実施研修を行ってヘルパーのレベルアップに取り組んでいく。

5．施設行事

月	行　事
4 月	
5 月	
6 月	
7 月	食事レクリエーション（沖縄料理）
8 月	本館入居者によるマジックショー
9 月	食事レクリエーション（特別弁当）
10 月	消防訓練
11 月	
12 月	西館クリスマス会
1 月	
2 月	
3 月	

《運営理念》オーダーメイドの総合医療

【10】　神港園診療所

所長　岡本　龍

1．事業報告

今年度は通年の医療事業に加えて、新型コロナウイルス感染症対策が大変に大きな事業として在り続けたことが特徴的であった。（※新型コロナウイルス感染症対策については②を参照のこと）

新型コロナウイルスの感染拡大に関連して、市中では緊急事態宣言をはじめ生活習慣や社会構造に大きな変化が生じた。その余波は当診療所の診療場面でも感じることが多々あった。

家族面談や外出が厳しく制限されたことで精神的不調をきたす入居者が散見された。とくに１回目の緊急事態宣言直後に多く、その後はゆっくり平坦化した。

一方で、インフルエンザを筆頭に伝染性のある感染症は激減した。発熱のほとんどは誤嚥性肺炎（主として看取り期）か尿路感染に起因していた。インフルエンザ感染症・ノロウイルス感染症は１例もなかった。

外部医療機関への受診を控えることになったが、それによって大きな問題が生じたことはなかった。むしろ、法人内の医療提供である程度は事足りることを再認識できた。

また、コロナ禍により外部医療機関との連携に大小さまざまな混乱が発生し、外部受診の条件を各施設で再検討する機会にもなった。

看取りに関しては、平時と大きく変化はなかった。

巡回診療のスタイルにより他施設からの感染の持ち込みリスクを抱えるため、感染防護を徹底した。（白衣・フェイスガード着用、ソーシャルディスタンスを意識した回診、電子データ（写真や動画）の活用、カルテ閲覧・記載を別室で行うなど）

整形外科診療・巡回レントゲン検査・リハビリに関しては、コロナ禍により一時期一部のサービスを停止せざるを得なかった。

巡回型の診療形態をとっている当診療所では、このような感染拡大の場面で比較的ダメージを受けやすい一面がある。弱点をカバーする上で将来的な電子化（電子カルテ・オンライン診療）の導入が強く望まれることになった。

各施設における感染対策の一つの結果として、入居者検診（結核検診）を外部に委託しない方針となった。それにより法人内医療機関である当診療所に移管された。レントゲン技師との調整にいくらか難渋しつつも 12 月までに検診を終えることが出来ている。

居宅療養管理指導は、診療所での把握実態と施設及び薬局との連携に不備があり、一部が停滞していた。早急に連携のシステムを再構築してスムーズな加算取得につなげていく必要がある。

ポリファーマシーへの対策は、今年度はコロナ禍の影響下にあり、主だった活動につながってはいない。感染状況を見極めつつ、然るべきタイミングで処方医師への啓発を行っていく必要がある。

2009 年新型インフルエンザ感染が流行した際に、マスクの備蓄を診療所にて行っていたが、当年までに順次消費がすすみ、この度の感染拡大に直面してマスクの不足に陥った経験をした。今後 10 年スパンでの、新型ウイルスの流行が危惧されるとの憶測も流れる中で、いざという時のための医療物資について「何を・どれぐらい」備蓄するかは、今後のテーマであろうと思われる。

また、上の通りこのような感染状況下において施設を巡回するスタイル自体がリスクを負うことになる。一つの施設で感染が発覚した場合、感染施設とその他の施設に医師を振り分けることで感染拡大リスクを抑えて診療を維持する方針（医師の BCP）を立てた。

① 新型コロナウイルス感染症対策

＜診療＞

1 度目の緊急事態宣言下において、近距離での対面診療を控えることがあったが、巡回診療は継続した。2 度目の緊急事態宣言以降は、出来る限り接触を避けつつもマスクの着用・手指消毒の徹底を軸に、ソーシャルディスタンスの確保、白衣とフェイスガードの着用、密な状況の回避に注意を払って診療を行った。定義の上では、高齢者施設のオンライン診療に該当せず、平時と同様の診療様式として請求可能と判断している。

レントゲン巡回および整形外科診療は、1 度目の緊急事態宣言時のみ中止とした。

PCR 検査、抗原検査を検査精度の向上に伴い段階的に導入した。施設への新・再入居に際し、自費による検査を施設と連動し実施した。

法人感染対策会議にて、市中感染状況の把握に努めるとともに、必要に応じ感染対策の検討・啓発を行った。

＜事務＞

事務局においては、カルテ閲覧業務のための別室を各施設で設けていただき、その中で医務室と距離をとって実施した。物品の搬送は、他業者と同じく施設出入り口での受け渡しとし、年度末まで継続している。

＜リハビリ＞

1 度目の緊急事態宣言時のみ中止とした。

2. 経営報告

（千円）

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	129,468	99,036	30,433
前年度決算	130,056	100,798	29,257
対前年比	99.5%	98.2%	104.0%

情勢と取り組み

令和２年４月、感染症拡大に伴う緊急事態措置の実施により、神港園の診療所として、徹底した感染対策と最大限の拠点支援を行うべく、感染症検査キット等をはじめとする医薬品納入ルートの確保、外部委託を行ってきた利用者健康診断の受託、拠点間を職員が往来して行う（巡回診療・整形外科診療・レントゲン巡回撮影・訪問リハビリテーション等）業務の縮小や一時休止を実施した。

それら感染症対策に伴うサービス活動収益への影響は、利用者健康診断実施による保健予防活動収益 0.3（百万円）、事業継続支援・感染症対策支援補助金 0.9（百万円）の収入増加、巡回診療をはじめとする業務縮小や一時休止により 1.7（百万円）の収入減少が見られ、本来であれば、健康診断受諾による収入増を見込めたところであったが、対前年で 0.6（百万円）の減収となった。

また、サービス活動費用についても、感染症対策に伴う影響は大きく、非常勤職員を中心とした人件費や研修研究費等は減少したが、感染対策物品の高騰・感染対策物品の備蓄費用等により、対前年▲1.7（百万円）の経費減にとどまった。

その結果、サービス活動増減差額は対前年 1.2（百万円）の増収であったが、対当初予算については▲3.8（百万円）の減収であった。

設備面においては、導入開始 5 年が経過した巡回用レントゲン撮影機材の故障による経費、電子カルテの導入計画等、費用は増加する傾向にあると予測される。

感染症対応による例外的な対応が多く、当初の計画に沿った運営は困難な状況にあったが、これを教訓とし、必要物品の備蓄・管理の徹底を含めた事業継続計画（ＢＣＰ）充実と、増加が予測される費用の計画的な執行が次年度以降の課題となった。

【11】しあわせの村保育園

本部長　髙谷　明

1．事業報告

4 年目は 4 月の新型コロナ感染症蔓延による緊急事態宣言対応に始まり、委託先職員の発熱、濃厚接触の疑い等による対応など常に気を緩める事の出来ない１年であった。コロナ禍という特殊な状況下にあって、保護者参加イベントやリトミック教室をはじめとした外部講師を招いての活動は制限せざるを得なかったが、様々な工夫と丁寧な説明により、保護者をはじめ、しあわせの村内の利用登録事業所等との関わりがより深まった 1 年でもあった。

利用園児の推移としては、4 月 22 名でスタートし、10 月に 29 名、12 月 30 名となり、開園初の定員 30 名を確保する結果となった。これは、開園から 3 年でしあわせの村内外での周知が広がったこと、保護者からの口コミ等により、園の取り組みが評価された結果と言える。

利用園児数を確保できた一方で、サービス活動収益は当初予算を 5,407 千円下回る結果となった。これはコロナ禍による利用控えにより利用日数が低調に推移したことで、一人当たりの補助単価が下がったことが大きく影響している。一方、利用減に応じて、消耗品をはじめとした活動経費、業務委託費が低減したことでサービス活動費用についても予算に対し 3,336 千円抑えられた。結果、サービス活動増減差額は、予算未達ながら対前年 3,897 千円の増額を達成した。

肝心の園内活動について、現場職員の保育への取り組みや感染症対策は望ましい水準に達しており、保護者の信頼獲得に繋がったと感じる。ただし、業務委託先担当者の当法人に対するサポートについては、不手際や不備等が重なり、残念ながら不安を拭えなかった。そのため、別途委託先候補 4 社によるプレゼンテーションを審査し、令和３年度からは「株式会社キッズコーポレーション」に委託先を変更することとなった。保育士等の多くの現場職員は、しあわせの村保育園への高い帰属意識を持っており、嬉しいことに新委託先への転職を経て継続就労頂く運びとなった。

今後安定した収益を得て黒字を確保するためには、利用園児の年齢構成、退園者と入園者の調整（主に年度末）が課題と言える。開園から４年がたち、徐々に３，４歳児童が増えている状況にあり、制度的に年齢が上がる度に助成額が低減するため、収益性は下がる形となる。また、３月末での退園者は認可保育園の入園決定（３月中旬頃）をもって確定するため、新規入園者の確保は後手に回らざるを得ない。構造的にこの 2 つの課題の解消は容易ではないが、片方でも調整が叶うことでより盤石な経営に近づくため、解決方法を模索していく。

②新型コロナウイルス感染症対策

１）施設内への入室制限

・保護者　玄関先での園児送迎を徹底
・外部講師、ボランティア活動の中止
・保護者行事の中止

２）体調不良者の早期発見

・検温管理の徹底　1 日 2 回の検温を職員及び園児に対し実施。

・隔離場所の確保及び、対応フローの徹底

３）緊急事態宣言下での利用自粛要請

・管理機関である児童育成協会及び、兵庫県からの要請により自宅保育を要請

2. 経営報告

（千円）

	サービス活動収益	サービス活動費用	サービス活動増減差額
当年度決算	53,730	48,341	5,389
前年度決算	52,862	51,370	1,492
前年差	868	△3,029	3,897

情勢と取り組み

新規入園者で補助額の大きい 0 歳児が期中で 6 名確保できた一方、コロナ禍の影響による利用控えがあり、サービス活動収益及びサービス活動費用は予算を下回ったが、利用園児が初めて定員 30 名に到達するなど堅調に推移し、サービス活動増減差額は良好な増益を得た。

✦人員配置

4 月期は保育士配置を厚く配置し、期中の園児増加に備える対応を行った。それでも期の後半には他園からの応援を要請する必要が生じた。

✦設備・修繕

現状、大掛かりな対策は必要ではないが、照明・保育ゲートなど 5 年目を迎えるにあたり、やや不具合が目立ちつつある。計画的に入れ替え等を検討したい。

3. 部門報告

✦保育活動

コロナ禍ではありながら、これまでと同様に積極的な園外活動を実施することが出来た。一部、保護者参加の行事や、リトミック教室、体操教室などを、感染症対策として中止せざるを得なかった。

✦大きな事故、ケガの発生　0 件　複数名の感染蔓延 0 件

前年同様、緊急対応が必要となるような事故、ケガはなく、また感染対策の徹底により集団感染が生じることもなかった。園児の増加に伴い、リスクは高まるが、安全を第一とした保育活動により発生を抑えることが出来ている。

5. 施設行事

月	行　事
４月	入園の会　→保護者説明会は中止、個別対応と園児向け行事に切り替え
５月	こどもの日イベント
６月	保育参加→中止　・保育参観→中止　・個人面談→実施
７月	七夕イベント　水遊びスタート
８月	涼み会
９月	十五夜イベント　秋の遠足
１０月	ハロウィン　運動会→中止
１１月	保育参加→中止　・保育参観→中止　・個人面談
１２月	クリスマス会
１月	お正月イベント
２月	節分イベント
３月	卒園式（卒園児童の保護者のみ参加）

令和2年度
(2020)

事　業　報　告　書

（資料集）

【資料①　施設入所関係】

1.要介護度別入居者状況

特別養護老人ホーム

（人数/日）

1日あたり平均	施設名	シルビア				施設名	しあわせの家			施設名	サニーライフ白川			施設名	いこい				法人全体		
	定員	100				定員	100			定員	50			定員	50			定員	300		
		令和2年度		令和1年度			令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度
		人数	構成率	人数	構成率		人数	構成率	人数		人数	構成率	人数		人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率
要介護度1		0.0	0.0%	0.0	0.0%		0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
要介護度2		1.0	1.0%	1.0	1.0%		1.0	1.0%	2.0	2.0%	1.9	3.9%	2.7	5.4%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	3.9	1.3%	5.7	1.9%
要介護度3		15.3	15.5%	17.1	17.2%		29.0	29.6%	21.8	21.9%	7.3	14.9%	5.9	11.9%	13.1	26.3%	13.5	27.4%	64.7	21.9%	58.3	19.6%
要介護度4		42.4	43.0%	45.9	46.1%		22.0	22.4%	21.0	21.1%	20.3	41.4%	22.7	45.8%	21.3	42.8%	19.5	39.6%	106.0	35.9%	109.1	36.6%
要介護度5		39.9	40.5%	35.5	35.7%		46.0	47.0%	54.9	55.0%	19.5	39.8%	18.3	36.9%	15.4	30.9%	16.2	33.0%	120.8	40.9%	124.9	41.9%
合計（前年比）		98.6	(99.1%)	99.5			98.0	(98.3%)	99.7		49.0	(98.8%)	49.6		49.8	(101.2%)	49.2		295.4	(99.1%)	298.0	
※平均介護度		4.2		4.2			4.2		4.3		4.2		4.1		4.0		4.1		4.2		4.2	
稼働率		98.6%		99.5%			98.0%		99.0%		98.0%		99.3%		99.6%		100.0%		99.6%		100.0%	

養護老人ホーム・ケアハウス・グループホーム

（人数/日）

1日あたり平均	施設名	養護				施設名	さん舞子			施設名	レインボー西宮			施設名	法人全体		
	定員	50				定員	80			定員	18			定員	148		
		令和2年度		令和1年度			令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度
		人数	構成率	人数	構成率		人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率
自立		16.9	34.6%	16.1	33.5%		0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	16.9	12.1%	16.1	11.5%
要支援1		0.8	1.6%	0.6	1.2%		6.8	9.1%	8.6	11.4%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	7.6	5.4%	9.2	6.5%
要支援2		1.8	3.7%	1.7	3.5%		9.2	12.3%	8.4	11.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	11.0	7.9%	10.1	7.2%
要介護度1		2.8	5.7%	2.9	6.0%		21.7	28.9%	17.7	23.5%	3.6	22.1%	4.2	24.4%	28.1	20.1%	24.8	17.6%
要介護度2		7.0	14.3%	9.7	20.2%		12.0	16.0%	10.3	13.7%	5.2	31.9%	5.5	32.0%	24.2	17.3%	25.5	18.2%
要介護度3		15.0	30.7%	12.9	26.8%		9.8	13.1%	13.1	17.4%	2.7	16.6%	2.6	15.1%	27.5	19.6%	28.6	20.3%
要介護度4		4.6	9.4%	3.5	7.3%		8.0	10.7%	13.8	18.3%	3.4	20.9%	2.0	11.6%	16.0	11.4%	19.3	13.7%
要介護度5		0.0	0.0%	0.7	1.5%		7.4	9.9%	3.4	4.5%	1.4	8.6%	2.9	16.9%	8.8	6.3%	7.0	5.0%
合計（前年比）		48.9	(101.7%)	48.1			74.9	(99.5%)	75.3		16.3	(94.8%)	17.2		140.1	(99.6%)	140.6	
※平均介護度		1.7		1.6			2		2.1		2.6		2.6		2.0		2.0	
稼働率		97.8%		96.6%			93.8%		94.0%		90.5%		95.1%		94.0%		95.2%	

2.入退居及び在園状況

※特養・養護・ケアハウス・グループホーム・サ高住・有料

（人数/日）

期間内入居		シルビア				しあわせの家				サニーライフ白川				いこいの家				養護				さん舞子				西宮			
		定員 100				定員 100				定員 50				定員 50				定員 50				定員 80				定員 18			
		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度	
		人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率
入居	在宅	17	60.8%	13	48.2%	10	29.4%	11	73.4%	10	66.6%	7	50.0%	10	83.3%	17	73.9%	3	33.4%	4	44.5%	3	33.4%	9	56.2%	1	50.0%	3	60.0%
	病院	2	7.1%	4	14.8%	4	11.8%	2	13.3%	1	6.7%	1	7.1%	0	0.0%	2	8.7%	4	44.4%	4	44.4%	2	22.2%	3	18.8%	1	50.0%	2	40.0%
	他施設	9	32.1%	10	37.0%	20	58.8%	2	13.3%	4	26.7%	6	42.9%	2	16.7%	4	17.4%	2	22.2%	1	11.1%	4	44.4%	4	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合計（前年比）	28	(103.7%)	27		34	(226.7%)	15		15	(107.1%)	14		12	(52.2%)	23		9	(100.0%)	9		9	(56.3%)	16		2	(40.0%)	5	
退居	在宅	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%	1	6.3%	1	25.0%	0	0.0%
	病院	9	31.0%	7	25.0%	1	2.9%	1	6.3%	3	20.0%	0	0.0%	5	45.5%	6	24.0%	4	40.0%	5	55.6%	2	18.2%	1	6.3%	0	0.0%	1	16.7%
	他施設	0	0.0%	0	0.0%	10	29.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%	2	8.0%	4	40.0%	4	44.4%	0	0.0%	4	25.0%	0	0.0%	1	16.7%
	死亡	20	69.0%	21	75.0%	23	67.7%	15	93.7%	12	80.0%	12	92.3%	6	54.5%	16	64.0%	2	20.0%	0	0.0%	8	72.7%	10	62.4%	3	75.0%	4	66.6%
	合計（前年比）	29	(103.6%)	28		34	(212.5%)	16		15	(115.4%)	13		11	(44.0%)	25		10	(111.1%)	9		11	(68.8%)	16		4	(66.7%)	6	
在園者延人員(人)		35,971		36,457		36,377		36,642		17,911		18,169		18,177		18,259		17,860		17,636		27,387		27,518		6,144		6,266	
退居者の平均在園期間(年)		2.8		2.5		4.2		5.5		2.8		3.3		3.2		2.4		3.6		5.0		5.4		5.2		3.4		7.2	

期間内入居		サン舞子マンション				レインボー酒蔵通				法人全体			
		定員 80				定員 50				定員 578			
		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度	
		人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率
入居	在宅	0	0.0%	0	0.0%	8	57.1%	14	82.4%	62	50.4%	78	60.9%
	病院	0	0.0%	0	0.0%	4	28.6%	1	5.9%	18	14.6%	19	14.8%
	他施設	0	0.0%	0	0.0%	2	14.3%	2	11.7%	43	35.0%	31	24.3%
	合計（前年比）	0	(0.0%)	0		14	(82.4%)	17		123	(96.1%)	128	
退居	在宅	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%	2	15.4%	1	1.1%	2	1.9%
	病院	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%
	他施設	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%	10	76.9%	15	16.0%	22	21.4%
	死亡	0	0.0%	0	0.0%	3	49.9%	1	7.7%	77	81.8%	79	76.7%
	合計（前年比）	0	(0.0%)	0		6	(46.2%)	13		94	(91.3%)	103	
在園者延人員(人)		1,098		1,098		15,634		11,649		176,559		173,694	
退居者の平均在園期間(年)		3.0		3.0		3.4		3.0		3.5		4.1	

在園期間

※特養・養護・ケアハウス・グループホーム

3/31 現在の 在園者数	施設名	シルビアホーム		施設名	しあわせの家		施設名	サニーライフ白川		施設名	いこいの家		施設名	養護		施設名	さん舞子		施設名	レインボー西宮		法人全体		
	定員	100		定員	100		定員	50		定員	50		定員	50		定員	80		定員	18		定員	448	
	女	男	構成率	女	男	構成率	女	男	構成率	女	男	構成率	女	男	構成率	女	男	構成率	女	男	構成率	女	男	構成率
1年未満	21	4	25.0%	26	3	29.6%	12	1	26.5%	9	3	24.0%	3	5	16.7%	5	4	12.0%	3	2	29.4%	79	22	23.1%
1－4年	40	8	48.0%	38	8	46.9%	25	2	55.1%	20	4	48.0%	12	6	37.5%	41	2	57.4%	7	3	58.8%	183	33	49.5%
5－9年	20	3	23.0%	23	0	23.5%	7	0	14.3%	12	2	28.0%	13	1	29.1%	18	1	25.3%	2	0	11.8%	95	7	23.3%
10年以上	3	1	4.0%	0	0	0.0%	2	0	4.1%	0	0	0.0%	5	3	16.7%	3	1	5.3%	0	0	0.0%	13	5	4.1%
合計（男女合計）	84	16	100	87	11	98	46	3	49	41	9	50	33	15	48	67	8	75	12	5	17	370	67	437

3.年齢状況　※特養・養護・ケアハウス・グループホーム・サ高住・有料

3/31 現在の在籍者数	施設名	シルビアホーム				しあわせの家				サニーライフ白川				いこいの家				養護				さん舞子				レインボー西宮			
	定員	100				定員	100			定員	50			定員	50			定員	50			定員	80			定員	18		
	令和2年度		令和1年度			令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度	
	人数	構成率	人数	構成率		人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率
～59	0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
60～69	0	0.0%	0	0.0%		1	1.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
70～79	7	6.9%	10	9.7%		11	11.2%	10	10.0%	2	4.1%	1	2.0%	7	14.0%	6	12.5%	15	30.7%	16	32.0%	1	1.3%	2	2.6%	1	5.6%	1	5.6%
80～89	51	50.0%	52	50.5%		42	42.9%	40	40.0%	25	51.0%	23	46.0%	26	52.0%	23	47.9%	22	44.9%	18	36.0%	30	39.0%	28	35.9%	9	50.0%	10	55.5%
90～99	44	43.1%	41	39.8%		41	41.8%	45	45.0%	19	38.8%	23	46.0%	17	34.0%	15	31.3%	10	20.4%	16	32.0%	40	51.9%	45	57.7%	8	44.4%	7	38.9%
100～	0	0.0%	0	0.0%		3	3.1%	4	4.0%	3	6.1%	3	6.0%	0	0.0%	4	8.3%	1	2.0%	0	0.0%	6	7.8%	3	3.8%	0	0.0%	0	0.0%
合計	102		103			98		100		49		50		50		48		49		50		77		78		18		18	
平均年齢	88		88			88		89		89		89		86		88		84		85		92		91		87		87	
最年長	99		99			102		103		103		103		97		104		100		99		102		102		98		98	
最年少	73		72			64		63		75		74		73		73		68		71		79		78		76		75	
内入院者	2		3			1		0		0		0		1		0		1		0		0		0		0		0	

3/31 現在の在籍者数	施設名	サン舞子マンション				レインボー酒蔵通			
	定員	3				定員	50		
	令和2年度		令和1年度			令和2年度		令和1年度	
	人数	構成率	人数	構成率		人数	構成率	人数	構成率
～59	0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%
60～69	0	0.0%	0	0.0%		1	2.2%	4	11.4%
70～79	0	0.0%	0	0.0%		12	26.1%	6	17.1%
80～89	2	66.7%	2	66.7%		19	41.3%	13	37.2%
90～99	1	33.3%	1	33.3%		14	30.4%	12	34.3%
100～	0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%
合計	3		3			46		35	
平均年齢	90		89			84		83	
最年長	96		95			98		96	
最年少	85		84			63		68	
内入院者	0		0			0		0	

4.生活動作状況　※特養・養護・ケアハウス・グループホーム

3/31現在の在園者状況			施設名	養護	施設名	シルビア	施設名	しあわせの家	施設名	サニーライフ白川	施設名	いこいの家	施設名	さん舞子	施設名	レインボー西宮	法人全体	
			定員	50	定員	100	定員	100	定員	50	定員	50	定員	80	定員	18	定員	448
			合計	構成率	合計	構成率	合計	構成率	合計	構成率	合計	構成率	合計	構成率	合計	構成率	合計	構成率
移動	自立		31	63.3%	12	12.0%	13	13.0%	5	10.2%	8	16.0%	42	54.5%	2	11.1%	113	25.5%
	一部介助		18	36.7%	23	23.0%	28	28.0%	12	24.5%	22	44.0%	22	28.6%	10	55.6%	135	30.5%
	全介助		0	0.0%	65	65.0%	59	59.0%	32	65.3%	20	40.0%	13	16.9%	6	33.3%	195	44.0%
	合計		49		100		100		49		50		77		18		443	
食事状況	自立		47	95.9%	35	35.0%	26	26.0%	22	44.9%	25	50.0%	69	89.6%	10	55.6%	234	52.8%
	一部介助		2	4.1%	39	39.0%	31	31.0%	10	20.4%	15	30.0%	2	2.6%	5	27.8%	104	23.5%
	全介助		0	0.0%	26	26.0%	43	43.0%	17	34.7%	10	20.0%	6	7.8%	3	16.7%	105	23.7%
	合計		49		100		100		49		50		77		18		443	
着脱衣	自立		30	61.2%	5	5.0%	7	7.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	20.8%	2	11.1%	60	13.5%
	一部介助		19	38.8%	48	48.0%	35	35.0%	10	20.4%	24	48.0%	51	66.2%	10	55.6%	197	44.5%
	全介助		0	0.0%	47	47.0%	58	58.0%	39	79.6%	26	52.0%	10	13.0%	6	33.3%	186	42.0%
	合計		49		100		100		49		50		77		18		443	
入浴	自立		13	26.5%	4	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	13.0%	2	11.1%	29	6.5%
	一部介助		34	69.4%	49	49.0%	34	34.0%	3	6.1%	8	16.0%	52	67.5%	10	55.6%	190	42.9%
	全介助		2	4.1%	47	47.0%	66	66.0%	46	93.9%	42	84.0%	15	19.5%	6	33.3%	224	50.6%
	合計		49		100		100		49		50		77		18		443	
排泄	日中	自立	33	67.3%	5	5.0%	4	4.0%	0	0.0%	3	6.0%	24	31.2%	1	5.6%	70	15.8%
		一部介助	16	32.7%	37	37.0%	11	11.0%	4	8.2%	25	50.0%	43	55.8%	11	61.1%	147	33.2%
		全介助	0	0.0%	58	58.0%	85	85.0%	45	91.8%	22	44.0%	10	13.0%	6	33.3%	226	51.0%
	合計		49		100		100		49		50		77		18		443	
	夜間	自立	28	57.1%	5	5.0%	9	9.0%	0	0.0%	0	0.0%	22	28.6%	1	5.6%	65	14.7%
		一部介助	20	40.8%	10	10.0%	0	0.0%	4	8.2%	16	32.0%	43	55.8%	11	61.1%	104	23.5%
		全介助	1	2.0%	85	85.0%	91	91.0%	45	91.8%	34	68.0%	12	15.6%	6	33.3%	274	61.9%
	合計		49		100		100		49		50		77		18		443	

【資料②　ショートステイ関係】

1.短期入所生活介護　要介護別利用者状況 【１日あたり平均】

１日あたり平均	事業所名	シルビア				事業所名	しあわせの家			事業所名	サニーライフ白川			事業所名	さん舞子			法人全体			
	定員	20				定員	21			定員	20			定員	22			定員	83		
	令和2年度		令和1年度			令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度	
	人数	構成率	人数	構成率		人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率
要支援１	0.0	0.1%	0.0	0.2%		0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.1	0.5%	0.2	0.9%	0.3	1.4%	0.5	2.5%	0.4	0.5%	0.7	0.8%
要支援２	0.4	1.9%	0.4	1.7%		0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.9	4.3%	1.2	5.5%	0.8	3.8%	0.8	3.9%	2.1	2.4%	2.4	2.7%
要介護１	3.1	14.1%	2.1	9.4%		1.7	7.2%	2.3	10.0%	2.9	13.7%	2.4	10.9%	2.8	13.4%	3.2	15.7%	10.5	12.0%	10.0	11.4%
要介護２	4.4	19.8%	4.0	18.2%		3.6	15.3%	4.6	19.9%	7.2	34.1%	5.0	22.7%	4.5	21.5%	4.4	21.6%	19.7	22.5%	18.0	20.6%
要介護３	8.5	38.5%	7.0	31.8%		12.5	53.2%	11.0	47.6%	4.9	23.2%	6.5	29.5%	5.9	28.2%	4.7	23.0%	31.8	36.3%	29.2	33.4%
要介護４	2.0	9.1%	5.1	23.3%		4.6	19.6%	4.7	20.3%	2.7	12.8%	4.1	18.6%	5.0	23.9%	5.0	24.5%	14.3	16.3%	18.9	21.6%
要介護５	3.6	16.5%	3.4	15.4%		1.1	4.7%	0.5	2.2%	2.4	11.4%	2.6	11.8%	1.6	7.7%	1.8	8.8%	8.7	10.0%	8.3	9.5%
合計(前年比)	22.1	(100.8%)	21.9			23.5	(101.7%)	23.1		21.1	(95.9%)	22.0		20.9	(102.5%)	20.4		87.6	(100.2%)	87.4	
平均介護度	2.9		3.1			3.0		2.8		2.6		2.8		2.8		2.7		2.8		2.9	
稼働率	110.6%		109.7%			111.9%		110.0%		105.5%		110.0%		95.0%		92.7%		105.8%		105.6%	
※新規利用者数	57		62			53		52		66		78		63		113		239		305	

【資料③　デイサービス関係】

1.通所介護　1日あたりの要介護度別利用者状況

1日あたり人数	事業所名	ｼﾙﾋﾞｱﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ				しあわせの家ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ				西鈴蘭台ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽほっと				ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ白川				さん舞子ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ			
	ｻｰﾋﾞｽ区分	一般型				認知症対応型				地域密着型				一般型				一般型			
	定員	40				定員	36			定員	12			定員	45			定員	35		
		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度	
稼働日数		311日		310日		310日		309日		310日		309日		310日		309日		311日		310日	
介護度		人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率
要支援1		0.6	2.0%	0.6	1.9%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.6	7.2%	1.0	10.3%	0.4	1.4%	0.6	1.7%	2.0	7.3%	2.6	8.8%
要支援2		2.6	8.6%	3.2	10.5%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	2.2	26.5%	2.1	21.6%	1.5	5.4%	1.3	3.7%	4.9	17.9%	5.6	18.9%
要介護1		8.4	27.6%	9.1	29.8%	6.3	23.9%	7.9	28.6%	3.8	45.8%	4.6	47.4%	11.5	41.6%	15.2	43.1%	12.3	45.1%	10.9	36.8%
要介護2		9.1	30.0%	7.7	25.2%	8.3	31.5%	8.6	31.2%	1.2	14.5%	1.3	13.4%	9.4	34.1%	11.2	31.7%	5.5	20.2%	6.6	22.3%
要介護3		6.7	22.0%	6.4	21.1%	7.8	29.5%	7.6	27.5%	0.3	3.6%	0.4	4.1%	3.3	12.0%	3.9	11.0%	1.1	4.0%	1.7	5.7%
要介護4		1.5	5.1%	2.6	8.6%	2.8	10.6%	2.7	9.8%	0.1	1.2%	0.3	3.1%	0.6	2.2%	2.2	6.2%	1.0	3.7%	1.8	6.1%
要介護5		1.4	4.7%	0.9	2.9%	1.2	4.5%	0.8	2.9%	0.1	1.2%	0.0	0.0%	0.9	3.3%	0.9	2.5%	0.5	1.8%	0.4	1.4%
合計(前年比)		30.3	**(99.5%)**	30.4		26.4	**(95.7%)**	27.6		8.3	**(85.6%)**	9.7		27.6	**(78.2%)**	35.3		27.3	**(92.2%)**	29.6	
※平均介護度		2.0		2.0		2.4		2.3		1.1		1.1		1.7		1.8		1.3		1.4	
稼働率		75.7%		76.3%		73.2%		77.2%		69.2%		80.8%		61.2%		75.1%		78.0%		84.3%	
月平均利用者数		785		787		682		715		34		43		716		906		739		762	
※新規利用者数		31		41		27		41		5		9		35		39		23		43	

1日あたり人数	事業所名	ﾚｲﾝﾎﾞｰ西宮ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ				ﾚｲﾝﾎﾞｰ西宮ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ				法人全体			
	ｻｰﾋﾞｽ区分	一般型				認知症対応型							
	定員	18				定員	12			定員	198		
		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度	
稼働日数		309日		309日		309日		309日					
介護度		人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率
要支援1		0.1	1.0%	0.1	0.7%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	3.7	2.7%	4.9	3.0%
要支援2		1.2	12.0%	1.7	11.6%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	12.4	9.1%	14.1	9.0%
要介護1		2.3	23.0%	3.1	21.1%	0.3	4.6%	2.3	24.0%	44.9	32.9%	53.0	34.0%
要介護2		0.9	9.0%	3.2	21.8%	3.0	46.1%	3.6	37.5%	37.4	27.4%	42.3	27.0%
要介護3		2.0	20.0%	3.5	23.8%	1.5	23.1%	1.1	11.5%	22.7	16.6%	24.6	16.0%
要介護4		2.7	27.0%	2.2	15.0%	0.5	7.7%	1.7	17.7%	9.2	6.8%	13.6	9.0%
要介護5		0.8	8.0%	0.9	6.1%	1.2	18.5%	0.9	9.4%	6.1	4.5%	4.8	3.0%
合計(前年比)		10.0	**(68.0%)**	14.7		6.5	**(67.7%)**	9.6		136.4	**(86.7%)**	157.3	
※平均介護度		2.5		2.3		2.9		2.5		1.9		1.9	
稼働率		55.0%		83.0%		53.0%		79.0%		66.5%		79.4%	
月平均利用者数		260		378		166		245		3382		3835	
※新規利用者数		12		16		9		11		142		200	

2.放課後等デイサービス

3/31 現在の利用者数	事業所名	放課後等ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽﾚｲﾝﾎﾞｰ西宮		
	ｻｰﾋﾞｽ区分	放課後等デイサービス		
	定員	10		
	令和2年度		令和1年度	
	人数	構成率	人数	構成率
小学生1～3年	2.6	52.0%	4.7	54.7%
小学生3～6年	2.1	42.0%	1.5	17.4%
中学生	0.1	2.0%	2.1	24.4%
高校生	0.2	4.0%	0.3	3.5%
合計	5.0		8.6	

【資料④　ホームヘルプ関係】

1.介護保険

(1)サービス回数【月平均】

サービス回数（月平均）	施設名	養護			施設名	しあわせの家			施設名	サニーライフ白川			施設名	さん舞子			施設名	レインボー西宮			法人全体			
	令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度		令和2年度		令和1年度	
	回数	構成率	回数	構成率	回数	構成率	回数	構成率	回数	構成率	回数	構成率	回数	構成率	回数	構成率	回数	構成率	回数	構成率	回数	構成率	回数	構成率
介護保険	1554.0	76.6%	1578.0	77.2%	574.7	55.8%	598.5	54.6%	840.5	59.1%	939.2	60.0%	726.8	56.7%	683.1	54.1%	521.4	97.6%	154.0	100.0%	4217.4	67.0%	3952.8	64.6%
身体介護	1442.0	71.1%	1461.7	71.5%	165.2	16.1%	213.1	19.4%	535.5	37.7%	477.3	30.5%	204.7	16.0%	188.1	14.9%	304.0	56.9%	50.4	32.7%	2651.4	42.1%	2390.5	39.1%
身体生活	50.0	2.5%	49.0	2.4%	135.2	13.1%	111.5	10.2%	104.3	7.3%	233.5	14.9%	162.3	12.7%	148.3	11.7%	74.7	14.0%	41.0	26.6%	526.5	8.4%	583.3	9.5%
生活援助	62.0	3.1%	67.3	3.3%	274.3	26.6%	273.9	25.0%	200.7	14.1%	228.4	14.6%	359.8	28.0%	346.7	27.5%	142.7	26.7%	62.6	40.7%	1039.5	16.5%	978.9	16.0%
総合事業	145.0	7.1%	130.7	6.4%	442.2	42.9%	485.2	44.3%	536.5	37.8%	558.8	35.7%	501.8	39.1%	532.9	42.2%	6.1	1.1%	0.0	0.0%	1631.6	25.9%	1707.5	27.9%
障害支援	311.0	15.4%	312.0	15.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	17.3	1.2%	21.5	1.4%	15.4	1.2%	8.6	0.7%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	343.7	5.5%	342.2	5.6%
身体介護	214.0	10.5%	240.7	11.8%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	11.4	0.9%	2.3	0.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	225.4	3.6%	243.0	4.0%
生活援助	97.0	4.8%	71.3	3.5%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	17.2	1.2%	21.3	1.4%	4.0	0.3%	6.3	0.5%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	118.2	1.9%	99.0	1.6%
重度支援費	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
移動支援	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.1	0.0%	0.2	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.1	0.0%	0.2	0.0%
神戸市受託事業	6.0	0.3%	3.3	0.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	15.1	1.1%	19.6	1.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	21.1	0.3%	22.8	0.4%
ほっとヘルパー	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	9.2	0.7%	15.3	1.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	9.2	0.1%	15.3	0.3%
産後ヘルパー	2.0	0.1%	2.5	0.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	4.1	0.3%	4.3	0.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	6.1	0.1%	6.8	0.1%
養育ヘルパー	4.0	0.2%	0.8	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	1.8	0.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	5.8	0.1%	0.8	0.0%
介護保険外サービス	13.0	0.6%	19.2	1.0%	13.3	1.3%	11.5	1.1%	11.4	0.8%	24.3	1.6%	38.3	3.0%	37.6	3.0%	7.0	1.3%	0.0	0.0%	83.0	1.3%	92.6	1.5%
合計(前年比)	2029.0	(99.3%)	2043.2		1030.2	(94.1%)	1095.2		1420.8	(90.9%)	1563.4		1282.3	(101.6%)	1262.2		534.5	(347.1%)	154.0		6296.8	(102.9%)	6117.9	

【資料⑤ 居宅介護支援事業所関係】

1.居宅介護支援　利用者状況【月平均】

人数（月平均）		事業所	シルビア		事業所	西鈴蘭台		事業所	白川		事業所	さん舞子		事業所	レインボー西宮	
		令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度
		人数	構成率	人数	人数	構成率	人数	人数	構成率	人数	人数	構成率	人数	人数	構成率	人数
要支援合計		0.5	0.3%	1.3	18.8	6.7%	15.2	3.3	1.3%	5.5	18.9	8.1%	23.9	13.5	24.4%	14.0
	要支援１	0.0	0.0%	0.3	5.8	2.1%	4.9	1.3	0.5%	0.3	7.6	3.2%	8.3	3.9	7.0%	3.3
	要支援２	0.5	0.3%	1.0	13.0	4.7%	10.3	2.0	0.8%	5.3	11.3	4.8%	15.6	9.6	17.3%	10.8
介護合計		155.0	99.7%	157.5	260.6	93.3%	273.0	246.1	98.7%	247.7	215.6	91.9%	231.5	41.9	75.6%	41.1
	要介護１	35.1	22.6%	34.8	84.3	30.2%	88.3	88.8	35.6%	86.9	110.9	47.3%	110.9	16.8	30.3%	18.4
	要介護２	46.8	30.1%	49.7	94.8	33.9%	92.9	77.5	31.1%	77.0	53.5	22.8%	62.2	6.6	11.9%	6.8
	要介護３	40.8	26.2%	40.2	42.5	15.2%	44.2	41.9	16.8%	39.2	21.5	9.2%	27.3	12.8	23.1%	10.4
	要介護４	19.3	12.4%	21.0	20.7	7.4%	27.3	23.6	9.5%	32.3	20.8	8.9%	22.8	3.9	7.0%	3.7
	要介護５	13.0	8.4%	11.8	18.3	6.5%	20.3	14.3	5.7%	12.3	8.9	3.8%	8.3	1.8	3.2%	1.8
総合計(前年比)		155.5	**(97.9%)**	158.8	279.4	**(96.9%)**	288.2	249.4	**(98.5%)**	253.2	234.5	**(91.8%)**	255.4	55.4	**(100.5%)**	55.1
平均介護度		2.5		2.5	2.1		2.2	2.2		2.2	1.8		1.8	1.8		1.7
職員配置状況		5.0		5.3	8.3		8.2	7.6		7.6	7.4		8.0	2.0		1.3
職員一人当たりの換算件数		33.1		32.6	34.4		36.8	35.1		36.3	33.4		33.9	25.2		37.0
	介護	31.0		29.7	31.4		33.3	32.4		32.6	29.1		28.9	21.0		31.6
	※予防	0.1		0.1	1.1		0.9	0.2		0.4	1.2		1.5	3.4		5.4
	※認定調査	2.0		2.8	1.9		2.6	2.5		3.3	3.1		3.5	0.8		0.0
居宅契約新規		4.4		4.7	7.1		8.8	9.1		9.9	7.0		8.9	23.0		0.8
居宅契約廃止		3.4		5.3	7.4		8.3	8.1		6.7	5.3		7.5	11.0		1.0

※予防、認定調査の換算件数は2件で1件とする

2.要介護認定調査件数状況

期間内の認定調査件数		事業所	シルビア		事業所	西鈴蘭台		事業所	白川		事業所	さん舞子		事業所	レインボー西宮	
		令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度
		件数	前年比	件数	件数	前年比	件数	件数	前年比	件数	件数	前年比	件数	件数	前年比	件数
申請代行		59	59.0%	100	135	115.0%	117	109	77.0%	142	100	68.0%	147	38	86.0%	44
認定調査		244	69.0%	352	387	75.0%	513	457	75.0%	607	556	83.0%	673	38		0
	神戸市内	231	76.0%	302	385	75.0%	513	456	77.0%	589	554	85.0%	652	0		0
	神戸市以外	13	26.0%	50	2	0.0%	0	1	6.0%	18	2	10.0%	21	38		0
月平均		20.3	**(69.0%)**	29.3	32.3	**(75.0%)**	42.8	38.1	**(75.0%)**	50.6	46.3	**(83.0%)**	56.1	3.2		0.0

【資料⑥　あんしんすこやかセンター関係】

1 あんしんすこやかセンター利用状況

（1）相談受付

月平均		神出			五葉			白川			舞子			法人全体		
		令和2年度	構成率	令和1年度	令和2年度	構成率	令和1年度	令和2年度	構成率	令和1年度	令和2年度	構成率	令和1年度	令和2年度	構成率	令和1年度
介護予防	実人数	6.8	10.5%	32.1	177.0	47.9%	104.7	340.1	74.9%	242.2	551.0	84.1%	550.0	1074.9	69.6%	929.0
	延件数	13.6	10.2%	63.8	368.0	46.9%	340.8	559.4	66.8%	801.2	1016.0	84.0%	1000.0	1957.0	66.0%	2205.8
総合相談	実人数	24.1	37.0%	37.3	105.0	28.4%	119.4	85.9	18.9%	127.5	85.5	13.0%	117.5	300.5	19.4%	401.7
	延件数	47.4	35.7%	54.0	210.8	26.9%	301.4	196.5	23.5%	229.5	150.6	12.4%	166.4	605.3	20.4%	751.3
権利擁護	実人数	4.2	6.4%	4.3	22.0	5.9%	16.2	5.8	1.3%	5.8	3.0	0.5%	2.9	35.0	2.3%	42.5
	延件数	18.9	14.3%	14.6	77.8	9.9%	66.7	21.8	2.6%	24.5	12.1	1.0%	6.8	130.6	4.4%	112.6
その他	実人数	30.1	46.1%	9.8	65.8	17.8%	67.6	22.3	4.9%	4.5	15.6	2.4%	11.5	133.8	8.7%	152.0
	延件数	52.8	39.8%	23.5	128.3	16.3%	103.5	59.7	7.1%	6.0	31.3	2.6%	19.0	272.1	9.2%	152.0
合計（前年比）	実人数	65.2	(78.1%)	83.4	369.8	(120.1%)	307.9	454.1	(115.1%)	394.6	655.1	(96.1%)	681.9	1544.2	(105.2%)	1467.8
	延件数	132.7	(85.1%)	155.8	784.9	(96.6%)	812.4	837.4	(74.9%)	1118.2	1210.0	(101.5%)	1192.2	2965.0	(90.4%)	3278.6
申請代行	実人数	13.4		17.1	37.2		36.5	40.4		42.2	24.8		38.0	115.8		133.8
	延件数	19.7		23.1	38.5		36.9	40.4		42.2	24.8		38.0	123.4		140.2

（2）介護予防支援

月平均			神出			五葉			白川			舞子			法人全体		
要支援者給付管理			令和2年度	前年比	令和1年度	令和2年度	前年比	令和1年度	令和2年度	前年比	令和1年度	令和2年度	前年比	令和1年度	令和2年度	前年比	令和1年度
管理総数			146.3	98.8%	148.1	397.2	102%	389.3	429.4	99.1%	433.3	552.1	99.2%	556.3	1525.0	99.9%	1527.0
（構成率）																	
	センター管理		111.8	104.6%	106.8	316.0	100%	317.3	368.9	100.9%	365.5	486.0	99.9%	486.4	1282.7	100.5%	1276.0
	（構成率）		76.4%		72.0%	79.6%		81.0%	86.0%		84.0%	88.0%		87.0%	82.5%		81.0%
		内新規件数	2.7	76.0%	3.5	8.0	55%	14.6	9.6	117.1%	8.2	12.0	160.0%	7.5	32.3	95.4%	33.8
		（構成率）	2.4%		3.3%	2.0%		4.0%	2.6%		2.0%	2.2%		1.0%	2.3%		2.6%
		内終了件数	2.0	142.9%	1.4	7.3	74%	9.9	8.9	139.1%	6.4	10.5	136.4%	7.7	28.7	113.0%	25.4
		（構成率）	1.8%		1.3%	1.8%		3.0%	2.4%		1.0%	1.9%		1.0%	2.0%		1.6%
	外部委託		34.5	83.5%	41.3	81.2	113%	72.0	60.5	89.2%	67.8	66.1	94.6%	69.9	242.3	96.5%	251.0
	（構成率）		23.6%		28.0%	20.4%		19.0%	14.0%		16.0%	12.0%		13.0%	17.5%		19.0%

（3）その他

累計件数		神出			五葉			白川			舞子			法人全体		
		令和2年度	前年比	令和1年度	令和2年度	前年比	令和1年度	令和2年度	前年比	令和1年度	令和2年度	前年比	令和1年度	令和2年度	前年比	令和1年度
介護リフレッシュ教室参加人数（年６回）		20	40.8%	49	33	37.5%	88	3	60.0%	5	6	100.0%	6	62	41.9%	148
センター主催の連絡会	回数	2	66.7%	3	14	82.4%	17	8	36.4%	22	5	83.3%	6	29	60.4%	48
	参加人数	41	117.1%	35	199	56.7%	351	63	22.4%	281	217	70.9%	306	520	53.4%	973

【資料⑦　事故関係】

1.行政機関への事故報告事例件数

施設		骨折	打撲・捻挫・脱臼	切傷・擦過傷	やけど	その他の外傷	異食・誤えん	結核	感染症	職員の法令違反・不祥事	高齢者虐待	離園	誤薬	その他	合計
養護	入居	2				1									3
	ホームヘルプ														0
	その他														0
	合計	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
シルビア	入居	1													1
	ショートステイ	1													1
	デイサービス														0
	居宅介護支援														0
	包括・介護予防支援														0
	その他														0
	合計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
しあわせの家	入居	3													3
	ショートステイ	2		1									3	1	7
	デイサービス														0
	ホームヘルプ														0
	居宅介護支援														0
	包括・介護予防支援														0
	その他														0
	合計	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	10
サニーライフ白川	入居	6					1								7
	ショートステイ	1													1
	デイサービス														0
	ホームヘルプ														0
	居宅介護支援														0
	包括・介護予防支援														0
	その他														0
	合計	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8
さん舞子	入居	8											1		9
	ショートステイ	1										2	2		5
	デイサービス													2	2
	ホームヘルプ														0
	居宅介護支援													3	3
	包括・介護予防支援														0
	その他														0
	合計	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5	19
いこい	入居	4	2			1									7
	その他														0
	合計	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7
西宮	GH		1												1
	サ高住														0
	デイサービス			1											1
	ホームヘルプ														0
	居宅介護支援														0
	その他														0
	合計	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計		29	3	2	0	2	1	0	0	0	0	2	6	6	51

2.施設別集計【要望】

施設		提案	サービス内容	嗜好	職員のマナー	利用料	その他	合計
養護	入居							
	ホームヘルプ		3		1		2	6
	その他							
	合計	0	3	0	1	0	2	6
シルビア	入居	1						1
	ショートステイ							
	デイサービス							
	居宅介護支援							
	地域包括・介護予防支援							
	その他							
	合計	1	0	0	0	0	0	1
しあわせの家	入居							
	ショートステイ							
	デイサービス							
	ホームヘルプ		1		1		1	3
	居宅介護支援							
	地域包括・介護予防支援							
	その他							
	合計	0	1	0	1	0	1	3
サニーライフ白川	入居							
	ショートステイ							
	デイサービス				1			1
	ホームヘルプ							
	居宅介護支援							
	地域包括・介護予防支援						1	1
	その他							
	合計	0	0	0	1	0	1	2
さん舞子	入居				1			1
	ショートステイ							
	デイサービス		1		1			2
	ホームヘルプ		1					1
	居宅介護支援							
	地域包括・介護予防支援							
	その他							
	合計	0	2	0	2	0	0	4
いこい	入居							
	その他							
	合計	0	0	0	0	0	0	0
西宮	GH							
	サ高住							
	デイサービス		1		1		2	4
	ホームヘルプ							
	居宅介護支援							
	サ高住							
	その他		1				1	2
	合計	0	2	0	1	0	3	6
合計		1	8	0	6	0	7	22

3.施設別集計【苦情】

		サービスの内容に関わる事項	個人の嗜好・選択に関わる事項	制度・施策・法律に関わる事項	職員の態度・マナーに関わる事項	説明が不十分	その他	合計
養護	入居				1			1
	ホームヘルプ							
	その他							
	合計	0	0	0	1	0	0	1
シルビア	入居					1		1
	ショートステイ				1			1
	デイサービス	1						1
	居宅介護支援							
	地域包括・介護予防支援							
	その他							
	合計	1	0	0	1	1	0	3
しあわせの家	入居							
	ショートステイ							
	デイサービス							
	ホームヘルプ	1						1
	居宅介護支援				1	1		2
	地域包括・介護予防支援							
	その他							
	合計	1	0	0	1	1	0	3
サニーライフ白川	入居					1		1
	ショートステイ	1						1
	デイサービス	2						2
	ホームヘルプ						1	1
	居宅介護支援	1						1
	地域包括・介護予防支援							
	その他							
	合計	4	0	0	0	1	1	6
さん舞子	入居				1			1
	ショートステイ					1		1
	デイサービス					1		1
	ホームヘルプ				1			1
	居宅介護支援				1	1		2
	地域包括・介護予防支援							
	その他							
	合計	0	0	0	3	3	0	6
いこい	入居		1					1
	その他							
	合計	0	1	0	0	0	0	1
西宮	GH							
	サ高住							
	デイサービス	2						2
	ホームヘルプ							
	居宅介護支援							
	サ高住							
	その他							
	合計	2	0	0	0	0	0	2
合計		8	1	0	6	6	1	22

【資料⑧ 医療・保健関係】

1．医療・保健　疾病状況

疾患分類　　令和2年度延べ有病者数

患者数とその割合		施設名	養護	施設名	シルビアホーム	施設名	しあわせの家	施設名	サニーライフ白川	施設名	さん舞子	施設名	いこいの家		法人全体
		入居59名		入居131名		入居123名		入居65名		入居103名		入居60名		入居560名	
		患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
内科	循環器	36	61.0%	80	61.1%	60	48.8%	38	58.5%	87	84.5%	35	58.3%	336	60.0%
	呼吸器	8	13.6%	31	23.7%	10	8.1%	3	4.6%	10	9.7%	16	26.7%	78	13.9%
	消化器	35	59.3%	100	76.3%	96	78.0%	54	83.1%	94	91.3%	34	56.7%	413	73.8%
	肝胆	4	6.8%	6	4.6%	5	4.1%	7	10.8%	5	4.9%	3	5.0%	30	5.4%
	内分泌代謝	12	20.3%	26	19.8%	51	41.5%	20	30.8%	47	45.6%	11	18.3%	167	29.8%
	腎・尿路	20	33.9%	45	34.4%	31	25.2%	13	20.0%	18	17.5%	15	25.0%	142	25.4%
	血液	18	30.5%	21	16.0%	2	1.6%	11	16.9%	11	10.7%	5	8.3%	68	12.1%
	神経	17	28.8%	25	19.1%	52	42.3%	25	38.5%	23	22.3%	12	20.0%	154	27.5%
	その他	6	10.2%	5	3.8%	1	0.8%	5	7.7%	9	8.7%	18	30.0%	44	7.9%
整形外科・外科	骨折	3	5.1%	6	4.6%	3	2.4%	6	9.2%	3	2.9%	5	8.3%	26	4.6%
	その他	34	57.6%	62	47.3%	1	0.8%	28	43.1%	103	100.0%	2	3.3%	230	41.1%
皮膚科	褥瘡			9	6.9%			8	12.3%			1	1.7%	18	3.2%
	その他	22	37.3%	83	63.4%	18	14.6%	58	89.2%	56	54.4%	19	31.7%	256	45.7%
眼科		3	5.1%	31	23.7%	17	13.8%	1	1.5%	24	23.3%	6	10.0%	82	14.6%
耳鼻科		3	5.1%	3	2.3%									6	1.1%
認知症（精神科）		22	37.3%	84	64.1%	123	100.0%	41	63.1%	44	42.7%	41	68.3%	355	63.4%
障害手帳等所持者	言語障害									2	1.9%	1	1.7%	3	0.5%
	聴力障害	2	3.4%	2	1.5%									4	0.7%
	視力障害			1	0.8%					3	2.9%	1	1.7%	5	0.9%
	知的障害(療育手帳の所持者)	1	1.7%			1	0.8%	1	1.5%					3	0.5%
	精神障害(精神障害者福祉手帳の所持又は、自立支援医療の適用者)	8	13.6%			8	6.5%							16	2.9%

2．外部受診状況　令和2年度延べ件数

延件数	養護	(内入院)	シルビア	(内入院)	しあわせの家	(内入院)	サニーライフ白川	(内入院)	さん舞子	(内入院)	いこい	(内入院)	レインボー西宮	(内入院)	法人全体	(内入院)
内科	14		169	37	31	10	13	7	58	10	17	7	2	1	302	71
整形外科	5	1	40	3	15	2	32	2	41	6	12	4	3		145	18
歯科					13				1						14	
眼科	10		8		1		1		23	1	1				44	1
耳鼻科	1		1						8		1				11	
皮膚科	4		53		4		12	1	20		14		2		107	1
その他	2	2			4	2	4	2	28	1	40	6			78	13
合計	**36**	**3**	**271**	**40**	**68**	**14**	**62**	**12**	**179**	**18**	**85**	**17**	**7**	**1**	**701**	**104**

3．訪問診療・往診等

延件数	養護	シルビア	しあわせの家	サニーライフ白川	さん舞子	いこい	レインボー西宮	法人全体
歯科	29	971	53	174	36	35		1298
その他	47	1			48	3		99
合計	**76**	**972**	**53**	**174**	**84**	**38**		**1397**

4．看取り介護（ターミナルケア）

人数	シルビア			しあわせの家			サニーライフ白川			さん舞子			いこい			レインボー西宮		
	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度	令和2年度		令和1年度
	件数	前年比	件数	件数	前年比	件数	件数	前年比	件数	件数	前年比	件数	件数	前年比	件数	件数	前年比	件数
看取り介護（ターミナルケア）	**20**	**(133.3%)**	**15**	**19**	**(158.3%)**	**12**	**11**	**(137.5%)**	**8**	**5**	**(71.4%)**	**7**	**6**	**(40.0%)**	**15**	**2**	**(200.0%)**	**1**

【資料⑨栄養関係】

食事形態・療養食・アレルギー代替食・栄養ケアマネジメント

種類		養護		シルビア		しあわせの家		サニーライフ白川		いこいの家		さん舞子		レインボー西宮	
		人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率
食事形態	普通食	44	89.8%	25	25.3%	27	27.8%	15	30.6%	28	56.0%	40	54.1%	12	75.0%
	刻み食	3	6.1%	29	29.3%	12	12.4%	21	42.9%	7	14.0%	19	25.7%	4	25.0%
	極刻み食	1	2.0%	26	26.3%	0	0.0%	3	6.1%	12	24.0%	11	14.9%	0	0.0%
	ソフト食	0	0.0%	15	15.2%	45	46.4%	10	20.4%	2	4.0%	4	5.4%	0	0.0%
	ミキサー食	1	2.0%	0	0.0%	12	12.4%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他 (補助食品のみ・絶食等)	0	0.0%	4	4.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	入居者合計	49	100.0%	99	100.0%	97	100.0%	49	100.0%	50	100.0%	74	100.0%	16	100.0%
療養食	糖尿食	4	8.2%	1	1.0%	3	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%
	高脂血症食	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	腎臓食	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	心臓食	3	6.1%	2	2.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	肝臓食	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	潰瘍食	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	7	14.3%	3	3.0%	4	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%
アレルギー代替食	卵	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	魚	5	10.2%	2	2.0%	4	4.1%	1	2.0%	5	10.0%	9	12.2%	0	0.0%
	蕎麦	1	2.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	2.0%	3	4.1%	0	0.0%
	鶏肉	0	0.0%	3	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	2	2.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	6	12.2%	8	8.1%	5	5.2%	3	6.1%	7	14.0%	13	17.6%	0	0.0%
栄養ケアマネジメント	低リスク			17	17.2%	40	41.2%	13	26.5%	16	32.0%				
	中リスク			59	59.6%	52	53.6%	21	42.9%	30	60.0%				
	高リスク			23	23.2%	5	5.2%	15	30.6%	4	8.0%				
	合計			99	100.0%	97	100.0%	49	100.0%	50	100.0%				

資料⑩令和2年度職員配置一覧

１．職員配置一覧

施設関連部門（パート職員は常勤換算）

事業所名	事業内容		令和1年度末現在 全職員 正職	令和1年度末現在 全職員 嘱＋契	令和1年度末現在 全職員 P＋派	令和1年度末現在 全職員 合計	期間中の増減 採用・異動・復職 正職	期間中の増減 採用・異動・復職 嘱＋契	期間中の増減 採用・異動・復職 P＋派	期間中の増減 異動・休職・退職 正職	期間中の増減 異動・休職・退職 嘱＋契	期間中の増減 異動・休職・退職 P＋派	令和2年度末現在 全職員 正職	令和2年度末現在 全職員 嘱＋契	令和2年度末現在 全職員 P＋派	令和2年度末現在 全職員 合計
養護老人ホーム 神港園	間接	幹部	1.0			1.0							1.0			1.0
		事務	1.0		2.7	3.7		1.0	0.4		1.0	0.3	1.0		2.8	3.8
		栄養	1.0			1.0							1.0			1.0
		相談員	2.0			2.0	1.0	1.0		1.0	1.0		2.0			2.0
	直接	養護	4.0	1.0	0.8	5.8	1.5	2.0	0.4	1.0	2.0	0.8	4.5	1.0	0.4	5.9
		ヘルプ	6.0	2.0	5.4	13.4	0.5	1.0	2.5		2.0	2.0	6.5	1.0	5.9	13.4
		看護	1.0			1.0	1.0			1.0			1.0			1.0
	施設合計		16.0	3.0	8.9	27.9	4.0	5.0	3.3	3.0	6.0	3.1	17.0	2.0	9.1	28.1
神港園 シルビアホーム	間接	幹部	2.0			2.0							2.0			2.0
		事務	2.0	1.0	1.7	4.7			2.1		1.0	0.7	2.0		3.1	5.1
		栄養	1.0		0.4	1.4							1.0		0.4	1.4
		相談員	4.0			4.0			0.8			0.8	4.0			4.0
		地域包括	3.0	1.0		4.0	1.0	1.0	1.0		2.0	1.0	4.0			4.0
		居宅	5.0	1.0	0.3	6.3	1.0		0.2	1.0	1.0	0.3	5.0		0.2	5.2
	直接	特養	29.0	9.0	3.0	41.0	3.0	6.0	3.2	2.0	5.0	1.5	30.0	10.0	4.7	44.7
		ショート	5.0	3.0		8.0	1.0		1.5		1.0	0.2	6.0	2.0	1.3	9.3
		デイ	4.0	3.0	1.9	8.9	1.0	2.0	0.1		2.0	1.6	5.0	3.0	0.4	8.4
		看護	5.0		2.2	7.2			2.8			0.8	5.0		4.2	9.2
	施設合計		60.0	18.0	9.5	87.5	7.0	9.0	11.7	3.0	12.0	6.9	64.0	15.0	14.3	93.3
神港園 しあわせの家	間接	幹部	3.0			3.0							3.0			3.0
		事務	2.0		4.0	6.0	1.0	1.0	1.2	1.0	1.0	0.9	2.0		4.3	6.3
		栄養	1.0		0.5	1.5			0.4				1.0		0.9	1.9
		相談員	5.0			5.0	1.0			1.0			5.0			5.0
		地域包括	6.0	1.0	0.9	7.9	1.0	1.0	0.1	1.0	1.0		6.0	1.0	1.0	8.0
		居宅	6.0	1.0	1.6	8.6	1.0	1.0	1.2	1.0	2.0	0.4	6.0		2.4	8.4
	直接	特養	30.0	9.0	9.9	48.9	3.0	9.0	2.4		5.0	3.4	33.0	13.0	8.9	54.9
		ショート	7.0	2.0	1.6	10.6	1.0	0.5	0.4	2.0	0.5	0.3	6.0	2.0	1.7	9.7
		デイ	4.0	3.0	5.0	12.0	1.0		2.5	1.0		2.3	4.0	3.0	5.2	12.2
		ヘルプ	4.0		6.1	10.1		1.0	2.0			2.8	4.0	1.0	5.3	10.3
		看護	6.0		2.6	8.6	1.0	3.8	1.6	3.0	1.8	1.4	4.0	2.0	2.8	8.8
	施設合計		74.0	16.0	32.2	122.2	10.0	17.3	11.8	10.0	11.3	11.5	74.0	22.0	32.5	128.5
神港園 サニーライフ白川	間接	幹部	2.0			2.0	1.0						3.0			3.0
		事務	2.8		7.7	10.5		1.0	1.8	1.0		1.3	1.8	1.0	8.2	11.0
		栄養	1.0		0.3	1.3			0.1			0.1	1.0		0.3	1.3
		相談員	2.0			2.0	1.5	1.0		0.5	1.0		3.0			3.0
		地域包括	8.4		0.5	8.9			0.5			0.5	8.4		0.5	8.9
		居宅	7.6		0.2	7.8		1.0	0.4			0.5	7.6	1.0	0.1	8.7
		見守り（県）			0.5	0.5			0.1			0.1			0.5	0.5
	直接	特養	12.2	7.0	4.5	23.7	3.0	2.0	1.9	2.0	2.0	3.0	13.2	7.0	3.4	23.6
		ショート	7.0	2.0	1.4	10.4	1.0	3.0	0.7	3.0		1.3	5.0	5.0	0.8	10.8
		デイ	5.0	2.0	2.0	9.0	1.0		0.8		1.0	1.8	6.0	1.0	1.0	8.0
		ヘルプ	3.0	2.0	7.2	12.2	1.0		4.2		2.0	3.8	4.0		7.6	11.6
		看護	4.0	1.0	0.7	5.7	1.0	1.0	0.2		2.0	0.1	5.0		0.8	5.8
	施設合計		55.0	14.0	25.0	94.0	9.5	9.0	10.7	6.5	8.0	12.5	58.0	15.0	23.2	96.2
さん舞子 神港園	間接	幹部	1.0	1.0		2.0	1.0				1.0		2.0			2.0
		事務	1.0		5.9	6.9			1.0			0.8	1.0		6.1	7.1
		栄養	1.0			1.0							1.0			1.0
		相談員	4.0			4.0							4.0			4.0
		地域包括	9.4	1.0		10.4	3.0			2.0	1.0		10.4			10.4
		居宅	7.6		0.3	7.9	2.0		0.3	2.0		0.4	7.6		0.2	7.8
	直接	ケアハウス	32.0	2.0	6.0	40.0	1.0	8.0	5.1	4.0	2.0	3.7	29.0	8.0	7.4	44.4
		ショート	8.0	3.0	0.6	11.6	2.0	2.0	0.1	1.0	4.0		9.0	1.0	0.7	10.7
		デイ	3.0	5.0	0.5	8.5		1.0	1.1		2.0	0.5	3.0	4.0	1.1	8.1

事業所名	事業内容		令和1年度末現在				期間中の増減						令和2年度末現在			
			全職員				採用・異動・復職			異動・休職・退職			全職員			
			正職	嘱＋契	P＋派	合計	正職	嘱＋契	P＋派	正職	嘱＋契	P＋派	正職	嘱＋契	P＋派	合計
		ヘルプ	4.0	2.0	6.0	12.0		1.0	3.4		2.0	2.8	4.0	1.0	6.6	11.6
		看護	3.0	2.0	3.3	8.3	1.0	1.0	1.3	1.0	1.0	2.5	3.0	2.0	2.1	7.1
	施設合計		74.0	16.0	22.6	112.6	10.0	13.0	12.3	10.0	13.0	10.7	74.0	16.0	24.2	114.2
さん舞子 神港園 いこいの家	間接	幹部	1.0	1.0		2.0				0.5	1.0		0.5			0.5
		事務		1.0	2.3	3.3	1.0		0.4		1.0	0.7	1.0		2.0	3.0
		栄養	1.0			1.0							1.0			1.0
		相談員	1.0			1.0							1.0			1.0
	直接	特養	17.0	7.0	1.0	25.0	0.5	7.0	1.5	1.0	5.0	0.8	16.5	9.0	1.7	27.2
		看護	2.0		0.8	2.8	1.0		0.1	1.0		0.9	2.0			2.0
	サン舞子マンション			1.0	0.6	1.6			3.4		1.0	2.4			1.6	1.6
	施設合計		22.0	10.0	4.7	36.7	2.5	7.0	5.4	2.5	8.0	4.8	22.0	9.0	5.3	36.3
神港園 レインボー	間接	幹部	1.0	1.0		2.0	1.0			1.0			1.0	1.0		2.0
		事務	1.0	1.0	0.7	2.7	1.0		0.7	0.4	1.0		1.6		1.4	3.0
		栄養			2.4	2.4		2.0				1.8		2.0	0.6	2.6
		相談員	1.0			1.0	1.0						2.0			2.0
		居宅	1.0			1.0		1.0					1.0	1.0		2.0
	直接	GH	6.0	3.0	3.1	12.1	3.6	1.3	3.2	3.6	1.3	2.5	6.0	3.0	3.8	12.8
		サ高住	2.0		5.0	7.0		2.4	4.2	1.4	0.6	7.4	0.6	1.8	1.8	4.2
		デイ	9.0	1.0	5.4	15.4	0.4	3.0	1.6	2.4	2.0	3.7	7.0	2.0	3.3	12.3
		柔復	1.0		0.1	1.1							1.0		0.1	1.1
		ヘルプ		2.0	1.1	3.1	1.1	3.9	3.4		1.7	2.3	1.1	4.2	2.2	7.5
		看護			2.6	2.6			2.3			2.2			2.7	2.7
	施設合計		22.0	8.0	20.4	50.4	8.1	13.6	15.4	8.8	6.6	19.9	21.3	15.0	15.9	52.2
法人 本部	間接	幹部	5.0	1.0		6.0	1.0			1.0	0.3		5.0	0.7		5.7
		事務	5.0	2.5	0.6	8.1	3.4	0.7	0.3	1.0	2.0		7.4	1.2	0.9	9.5
	直接	ＰＴ・ＯＴ														
	診療所		7.0		1.1	8.1			0.7			0.4	7.0		1.4	8.4
	施設合計		17.0	3.5	1.7	22.2	4.4	0.7	1.0	2.0	2.3	0.4	19.4	1.9	2.3	23.6
総合計			340.0	88.5	125.0	553.5	55.5	74.6	71.6	45.8	67.2	69.8	349.7	95.9	126.8	572.4
構成率及び増減			61.4%	16.0%	22.6%	100.0%	正・契増減		17.1	P増減		1.8	61.1%	16.8%	22.2%	100.0%

※パート職員は、パート職員＋登録型ホームヘルパー＋派遣の合計
※パート職員は、１ヶ月２１．５日×７．５ｈで常勤換算する
※全館開業を控えた『さん舞子神港園いこいの家』職員が、現時点で他施設の勤務を行っている場合は、勤務先施設にて計上する

所属職員合計	常勤換算人員	比率
正職員	349.7	61.1%
嘱託＋契約職員	95.9	16.8%
パート職員	126.8	22.2%
全体	572.4	100.0%

２．資格取得状況

令和3年3月31日現在

資格者数	養護老人ホーム				シルビアホーム				しあわせの家				サニーライフ白川				さん舞子				いこいの家				レインボー			本部・診療所				合計
	正	嘱＋契	P	登	正	嘱＋契	P	登	正	嘱＋契	P	登	正	嘱＋契	P	登	正	嘱＋契	P	登	正	嘱＋契	P	登	正	嘱＋契	P	正	嘱＋契	P	登	
介護福祉士	10	1	5		53	5	7		50	8	21		42	4	22		63	2	17		17	2	2		12	5	5					353
実務者研修					13	1	1		13	4	4		6	3	1		18	2	2		3	1			4	2	6					84
介護職員基礎研修						1			1								1		1													4
ヘルプ１級	1		2		1		1		1	2	1		2		1										1		1					14
ヘルプ２級	5	5	2		17	2	2		18	6	10		17	2	6		26	2	6		6	2	1		7	2	9		1	1		155
初任者研修	1	1			3	2	1		2	3	6		3	3	2			2	2		2	4	1		4	1	4					47
神戸市高齢者施設介護士					3		1						1				1		1													7
ユニットリーダー	1				3				7		2		2				2				4											21
社会福祉士	1		1		4				7	1			4		1		8				2				2		1	1				33
精神保健福祉士									1								1								1							3
保健師					2				1																							3
看護師	1				2				5	3	2		5		1		5	2	3		2						4					35
准看護師					2		2			1							1										2					8
衛生管理者					1	1	1		1						1		2		1		1				1	1		1				12
主任介護支援専門員					4		1		7	1	3		5				4								2							27
介護支援専門員	5		1		22		1		29	3	9		20	1	3		29				6				4	1	1	1				136
合計	25	7	11		130	12	18		143	32	58		107	13	38		161	10	33		43	9	4		38	12	33	3	1	1		942

【資料⑪】職員採用状況・離職状況

Ⅸ. 職員状況【実人数】

期間内の人数		介護職員				看護職員				事務職員				相談・栄養・居宅				その他				法人全体			
		R2年度		R１年度		R2年度		R１年度		R2年度		R１年度		R2年度		R１年度		R2年度		R１年度		R2年度		R１年度	
		離職	採用	離職	採用	離職	採用	離職	採用	離職	採用	離職	採用	離職	採用	離職	採用	離職	採用	離職	採用	離職	採用	離職	採用
常勤	期首在籍者数	283		274		27		29		21		22		88		85		26		29		445		439	
	正職員	12	4	20	5	2	0	3	0	2	2	4	3	4	4	4	6	0	0	2	1	20	10	33	15
	契約職員	20	47	22	46	2	3	2	3	0	1	3	3	0	2	1	2	0	0	2	0	22	53	30	54
	合計	32	51	42	51	4	3	5	3	2	3	7	6	4	6	5	8	0	0	4	1	42	63	63	69
	※離職率(前年比)	11.3% (74%)		15.3%		14.8% (86%)		17.2%		9.5% (30%)		31.8%		4.5% (77%)		5.9%		0.0% (0%)		13.8%		9.4% (66%)		14.4%	
その他	短時間パート	22	17	16	26	4	2	3	4		1			1	0	2	0	9	7	10	17	36	27	31	47
	登録ヘルパー	13	10	13	10																	13	10	13	10
総合計		67	78	71	87	8	5	8	7	2	4	7	6	5	6	7	8	9	7	14	18	91	100	107	126
期首在籍者数		461		445		55		52		30		25		98		100		64		60		708		682	
※離職率（前年比）		14.5% (91%)		16.0%		14.5% (95%)		15.4%		6.7% (24%)		28.0%		5.1% (73%)		7.0%		14.1% (60%)		23.3%		12.9% (82%)		15.7%	
4/1入社人数		13		13		0		0		1		0		2		2		0		3		16		18	
平均年齢		48.0	40.6	50.8	47.0	48.3	44.0	46.5	51.6	58.2	46.3	52.7	54.0	59.9	45.2	51.9	52.3	58.5	57.9	50.0	50.4	50.0	48.4	50.5	48.4
平均勤続年数		3.3		4.2		3.8		6.5		10.6		8.4		6.7		6.0		2.2		2.1		4.1		4.1	

※離職率＝離職者数／期首在籍者数×１００

介護職の採用・離職状況

神港園（介護職）			令和2年度						令和1年度					
			期首	採用	離職				期首	採用	離職			
					合計	１年未満	３年未満	以外			合計	１年未満	３年未満	以外
職種別	訪問介護員		134	15	19	7	3	9	137	10	13	1	2	10
	介護職員		327	63	48	21	16	11	308	77	58	11	26	21
２職種合計			461	78	67	28	19	20	445	87	71	12	28	31
就業形態別	正社員		187	4	12	0	5	7	202	5	20	0	7	13
	非正社員		274	74	55	28	14	13	243	82	51	12	21	18
		常勤労働者	94	47	20	15	3	2	70	46	22	6	12	4
		短時間労働者	69	17	22	10	10	2	59	26	16	5	7	4
		登録ヘルパー	111	10	13	3	1	9	114	10	13	1	2	10

※採用率＝採用者数／期首在籍者数×１００　離職率＝離職者数／期首在籍者数×１００【期首在籍者数には4/1入社を含む】

割合（%）			採用率		離職率		増加率		離職者勤続年数別構成率					
									１年未満		１年以上３年未満		３年以上	
			神港園		神港園		神港園		神港園		神港園		神港園	
			R２	R１	R２	R１	R２	R１	R２	R１	R２	R１	R２	R１
職種別	訪問介護員		11.2%	7.3%	14.2%	9.5%	-3.0%	-2.2%	36.8%	7.7%	15.8%	15.4%	47.4%	76.9%
	介護職員		19.3%	25.0%	14.7%	18.8%	4.6%	6.2%	43.8%	19.0%	33.3%	44.8%	22.9%	36.2%
２職種合計			16.9%	19.6%	14.5%	16.0%	2.4%	3.6%	41.8%	16.9%	28.4%	39.4%	29.9%	43.7%
就業形態別	正社員		2.1%	2.5%	6.4%	9.9%	-4.3%	-7.4%	0.0%	0.0%	41.7%	35.0%	58.3%	65.0%
	非正社員		27.0%	33.7%	20.1%	21.0%	6.9%	12.8%	50.9%	23.5%	25.5%	41.2%	23.6%	35.3%
		常勤労働者	50.0%	65.7%	21.3%	31.4%	28.7%	34.3%	75.0%	27.3%	15.0%	54.5%	10.0%	18.2%
		短時間労働者	24.6%	44.1%	31.9%	27.1%	-7.2%	16.9%	45.5%	31.3%	45.5%	43.8%	9.1%	25.0%
		登録ヘルパー	9.0%	8.8%	11.7%	11.4%	-2.7%	-2.6%	23.1%	7.7%	7.7%	15.4%	69.2%	76.9%

Ｘ．介護職員離職者勤続期間【実人数】

実人数	～半年未満				～１年未満				～３年未満				～５年未満				～１０年未満				１０年～			
	R２(構成率)		R１(構成率)		R２(構成率)		R１(構成率)		R２(構成率)		R１(構成率)		R２(構成率)		R１(構成率)		R２(構成率)		R１(構成率)		R２(構成率)		R１(構成率)	
職員			1	1.4%			4	5.6%	5	7.5%	3	4.2%	2	3.0%	2	2.8%	5	7.5%	9	12.7%			1	1.4%
契約	10	14.9%	8	11.3%	5	7.5%	3	4.2%	3	4.5%	7	9.9%			1	1.4%	1	1.5%			1	1.5%	3	4.2%
パート	8	11.9%	7	9.9%	2	3.0%	3	4.2%	10	14.9%	4	5.6%					2	3.0%					2	2.8%
登録	1	1.5%	1	1.4%	2	3.0%	1	1.4%	1	1.5%	1	1.4%	1	1.5%	1	1.4%	4	6.0%	7	9.9%	4	6.0%	2	2.8%
合計	19	28.4%	17	23.9%	9	13.4%	11	15.5%	19	28.4%	15	21.1%	3	4.5%	4	5.6%	12	17.9%	16	22.5%	5	7.5%	8	11.3%

実人数	合計				内定年等の年限退職		平均勤続年数	
	R２(構成率)		R１(構成率)		R2	R1	R2	R1
職員	12	17.9%	20	28.2%			4.3	4.6
契約	20	29.9%	22	31.0%			1.4	2.8
パート	22	32.8%	16	22.5%			1.5	3.3
登録	13	19.4%	13	18.3%			8.2	7.1
合計	67	100.0%	71	100.0%	0	0	3.3	3.7

※定年後再雇用継続中の職員については退職者数に含めないものとする

令和２年度 理事会・評議員会開催状況

【第１回 定例理事会】

開催日時　　令和２年６月 15 日(月)14 時 00 分～17 時 15 分
開催場所　　神戸市西区神出東 1188-70
　　神港園シルビアホーム　あんしんすこやかハウス神出
出席役員　　理事　　９名中　９名
　　監事　　２名中　２名

報告事項Ⅰ(1) 会計監査人による監査報告書について
(2) 法人監事による監査結果報告について
(3) 神戸市指導監査結果報告
(4) コロナウイルス感染症対応について
(5) 現状の社会情勢を踏まえた外国人採用の変化について
(6) ノーリフト推進の進捗について
(7) 令和１年度資産運用状況報告について

審議事項Ⅰ(1) 令和１年度事業報告(案)について
①法人総括他
(2) 令和１年度決算報告書(案)について
①社会福祉事業・公益事業・収益事業
②社会福祉充実残額
(3) 規程改定案について
①ハラスメント対策案
②テレワーク条項追加
③ヘルパー給与基準表の改定
(4) 令和２年度の会計監査人について
(5) 令和２年度定例理事会・定例評議員会開催日程について

【第１回 定例評議員会】

開催日時　　令和２年７月４日(土)14 時 00 分～16 時 35 分
開催場所　　神戸市西区糀台５丁目 6-1
　　神戸西文化センター　２階会議室１
出席役員　　評議員　９名中　９名
　　監事　　２名中　２名

報告事項Ⅰ(1) 会計監査人による監査報告書について
　　(2) 法人監事による監査結果報告について
　　(3) 神戸市指導監査結果報告
　　(4) 令和１年度資産運用状況報告について
審議事項Ⅱ(1) 令和１年度事業報告(案)について
　　(2) 令和１年度決算報告書(案)及び期末補正予算(案)について
　　①令和１年度期末補正予算(案)
　　②令和１年度決算報告（社会福祉事業・公益事業・収益事業）
　　③令和１年度社会福祉充実残額について
　　(3) 規程改定について
　　①ハラスメント対策案
　　②テレワーク条項追加
　　③ヘルパー給与基準の改定
　　(4) 規程改廃承認に関する改定案について
　　(5) 令和２年度の会計監査人について
報告事項Ⅲ(1) コロナウイルス感染症対応について
　　(2) 現状の社会情勢を踏まえた外国人採用の変化について
　　(3) ノーリフト推進の進捗について
　　(4) 法人創立 70 周年記念事業について

【第２回 定例理事会】

開催日時　　令和２年 10 月 30 日(金)14 時 00 分～18 時 15 分
開催場所　　神戸市北区しあわせの村１番 10 号
　　神港園しあわせの家　本館２階会議室
出席役員　　理事　　９名中　９名
　　監事　　２名中　２名
報告事項Ⅰ　(1) あんしんすこやかセンター公募の件
　　(2) 西宮拠点新型コロナウイルスクラスター報告
　　(3) 第三者委員会　委員交代報告の件
審議事項Ⅱ　(1) 令和２年度中期事業報告
　　(2) 令和２年度第２四半期実績・中期補正予算案について
　　(3) 神港園スマイル倶楽部酒蔵通（地域向け健康増進事業）について
(4) 規程改定案
　・給与規程表　特定処遇向上手当表　・独自特定処遇向上手当表
(5) 内部統制強化のためのコンサルティング支援について
(6) 幹部職員の人事(案)について
(7) 令和２年度第１回臨時評議員会招集の件

【第１回 臨時評議員会】

開催日時　　令和２年 11 月７日(土)14 時 00 分～16 時 20 分
開催場所　　神戸市中央区八幡通４丁目 2-12　カサベラ FR2 ビル
　　三宮研修センター7 階　701 号
出席役員　　理事 10 名中　７名・監事　２名中　２名

報告事項Ⅰ(1) あんしんすこやかセンター公募の件
　　(2) 西宮拠点新型コロナウイルスクラスター報告
審議事項Ⅱ(1) 令和２年度中期事業報告書(案)
　　(2) 令和２年度第２四半期実績・中期補正予算案について
報告事項Ⅲ(1) 神港園スマイル倶楽部酒蔵通（地域向け健康増進事業）について

【第２回 臨時理事会】

開催日時　　令和３年１月８日(金) 14 時 00 分～15 時 50 分
開催場所　　神戸市垂水区五色山７丁目 12-28
　　さん舞子神港園ケアハウス多目的ホール
出席役員　　理事　　９名中　９名・監事　２名中　２名

審議事項　(1) 組織改編及び新事業部立上げについて
　　(2) 役員人事について
報告事項　(1) 西宮市上田西町８番（交流館）の不動産拝受の件について
　　(2) あんしんすこやかセンター令和３年度公募の件について
　　(3) 創立 70 周年記念事業について
　　(4) 外国人介護人材の状況について
　　(5) 令和２年度第３回定例理事会招集について

【3 回　定例理事会】

開催日時　　令和３年３月 19 日(金) 14 時 00 分～17 時 25 分
開催場所　　神戸市北区しあわせの村１番 10 号
　　神港園しあわせの家　本館２階会議室
出席役員　　理事　　９名中　９名・監事　２名中　２名

審議事項 (1) 令和３年度事業計画(案)について
　　(2) 令和２年度期末補正資金収支予算(案)について
　　(3) 令和３年度資金収支予算(案)について
　　(4) 各種規程改定（案）について
　　①育児・介護休業規程(案)
　　②退職手当金支給細則(案)
　　③組織規程(案)
　　④経理規程(案)

(5) 幹部職員任命(案)について
(6) 評議員推薦(案)について

報告事項 (1) 副施設長等人事の件
(2) 内部統制コンサルティング支援業者選定の件
(3) 70 周年記念事業　倫理綱領および職員行動規範策定の件
(4) けあスクール神港園　講座再開の件

【第 2 回　定例評議員会】

開催日時　令和 3 年 3 月 27 日(土) 14 時 00 分～16 時 35 分
開催場所　神戸市垂水区五色山 7 丁目 12-38
さん舞子神港園多目的ホール（ケアハウス南館 3 階）
出席役員　理事　10 名中　9 名・監事　2 名中　2 名

審議事項 (1) 令和 3 年度事業計画(案)について
①法人統括　②法人本部
③養護老人ホーム神港園　④神港園シルビアホーム
⑤神港園しあわせの家　⑥神港園サニーライフ白川
⑦さん舞子神港園　⑧さん舞子神港園いこいの家
⑨レインボー西宮・酒蔵通　⑩しあわせの村保育園
⑪医療事業部・神港園診療所
(2) 令和 2 年度期末補正資金収支予算（案）について
(3) 令和 3 年度資金収支予算(案)について

報告事項 (1)評議員選任の件
(2) 役員・施設長等任命の件
(3) 70 周年記念事業　倫理綱領および職員行動規範策定の件
(4) けあスクール神港園　講座再開の件
(5) 西宮交流館譲受の件
(6) 外国人介護人材確保の件